

「2016年 高校の進路指導・キャリア教育に関する調査」報告書

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ(本社:東京都中央区 代表取締役社長:山口文洋)が運営する、リクルート進学総研では、全国の国・公・私立高校の進路指導主事を対象に、進路指導・キャリア教育の実態についてのアンケート調査を隔年で実施しています。進路指導の困難度合いや取り組み状況、キャリア教育の進捗状況、今後の授業改善に対する考えについて調査し、その分析結果をまとめましたので、ご報告申し上げます。

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ リクルート進学総研

TOPICS

I-1. 進路指導の困難

■「非常に難しい」と感じている割合は30%

全体の9割以上が難しさを感じている点はこれまでの調査結果と変わらない

・「非常に難しい」は2010年をピークに減少傾向。「難しい」という認識が9割を占める状況が続く。

■難しさの最大要因は、「入試の多様化」「教員が進路指導を行うための時間の不足」

・前回4位の「入試の多様化」がトップ。

I-2. 進路指導の取り組み

■「進路ガイダンス・文理選択ガイダンス」「進路相談・面接指導・キャリアカウンセリング」は9割超の高校が実施。

・「インターンシップの実施」は大短進学率下位校が高く、大きな差がみられる。

■生徒の進学先として重視する点は、「学びたい学部・学科・コースがある」「生徒の面倒見が良いこと」。

■高大接続・連携の観点から大学・短大に期待することは、「入試の種類の抑制」「わかりやすい学部・学科名称」。

II-1. キャリア教育の実施状況

■キャリア教育に取り組んでいる高校は97%。

・学校全体での取り組みが66%、学年での取り組みが24%。前回に比べ学年での取り組みが進んだ。

■実施時間は、「総合学習の時間」「ロングホームルーム」。

・日常の教科・生活へのキャリア教育の広がりはやや伸び悩みがみられる。

II-2. キャリア教育の評価

■キャリア教育評価方法を策定・運用しているキャリア教育実施校は16%。

・「評価の方法を検討・研究中」は17%、「評価をしたいが方法がわからない」は23%と、4割は評価実施に意欲的である。

■キャリア教育実施校の88%が「自校のキャリア教育は生徒の役に立っている」と回答。

■全体の87%がキャリア教育に今後取り組むべきであると考えている。

■キャリア教育推進を難しくしている要因は、「教員の負担の大きさ」が突出。

III-1. アクティブラーニングの視点による授業への取り組み

■93%がアクティブラーニングの視点による授業に取り組んでいる。

・組織的な取り組みは4割、教員個人での取り組みが5割であり、教員個人での取り組みが先行している。

■向上する力は、コミュニケーションスキル、主体性・多様性・協働性、思考力・判断力・表現力、学びに向かう姿勢が上位。

・基礎的な学力、キャリア形成能力については、向上するとの認識は低い。

III-2. 社会のグローバル化を意識した教育への取り組み

■全体の34%が社会のグローバル化を意識した教育に取り組んでおり、前回から増加。

・社会のグローバル化は高校教育に「影響がある」との認識も前回から増加。

IV-1. 高大接続改革の議論

■高大接続議論を踏まえた取り組みは、32%が実施、46%が今後実施予定。

■課題はハードルとしては、教師の時間不足と、具体的な内容が見えないことによる不安や懐疑的な見方の項目が上位に並ぶ。

IV-2. 専門職業大学・専門職大学（いずれも仮称）の評価

■全体の65%が名称を認知。うち21%が内容まで認知している。

■34%が創設による成果が期待できると評価。

■期待できる点のトップは「実践的な教育内容で技術が身につくそうである」 懸念点のトップは「現状の専門学校との違いがわからない」。

目次

調査概要・回答者プロフィール	3
----------------	---

第Ⅰ部 進路指導の実態

1. 進路指導の困難	
1) 進路指導の難易度	4
2) 進路指導の難しさの要因	6
3) 進路指導の難しさの最大要因	8
【フリーコメント①】生徒の問題でどのような困難が生じているか	10
【フリーコメント②】保護者の問題でどのような困難が生じているか	11
【フリーコメント③】学校の問題でどのような困難が生じているか	12
【フリーコメント④】進路環境の問題でどのような困難が生じているか	13
2. 進路指導の取り組み	
1) 進路指導で実施している取り組み事項	14
【フリーコメント⑤】主権者教育の具体的な内容	15
【フリーコメント⑥】保護者向けガイダンスの具体的な内容	
【フリーコメント⑦】やめたほうがよいと考える取り組み	
2) 進路指導時に生徒の進学先として重視する点	16
3) 高大接続・連携／大学・短期大学・文部科学省に期待すること	18
4) 高専接続・連携／専門学校・行政に期待すること	20
【フリーコメント⑧】大学・短期大学との接続・連携、情報提供・公開についての意見や現状の課題	21
【フリーコメント⑨】専門学校との接続・連携、情報提供・公開についての意見や現状の課題	

第Ⅱ部 キャリア教育の実態

1. キャリア教育の実施状況	
1) キャリア教育の実施状況と体制	22
2) キャリア教育実施時間	23
3) キャリア教育の計画立案	24
2. キャリア教育の評価	
1) キャリア教育の評価実施状況	25
【フリーコメント⑩】キャリア教育評価実施校の指標・方法	26
【フリーコメント⑪】キャリア教育評価の方法を検討・研究中の理由／評価予定はない理由	
2) キャリア教育の役立ち度	27
3) キャリア教育の推進を難しくしている要因	28
【フリーコメント⑫】キャリア教育の推進を難しくしている最大要因：そう思う理由	29
4) キャリア教育の今後の位置付けについての考え	30
5) 生徒に将来必要とされる社会人基礎力と生徒が現在持っている社会人基礎力	31

第Ⅲ部 授業改善の取り組み

1. アクティブラーニングの視点による授業への取り組み	
1) アクティブラーニングの視点による授業の実施状況	34
2) アクティブラーニングの視点による授業の必要性	35
3) アクティブラーニングの視点による授業によって向上する生徒の力	36
4) アクティブラーニングの視点による授業の評価実施状況	37
【フリーコメント⑬】アクティブラーニングの視点による授業の実施における疑問や不安	38
2. 社会のグローバル化を意識した教育への取り組み	
1) グローバル社会を意識した教育の実施状況	39
2) 社会のグローバル化の高校教育への影響	40
3. ICT環境の整備・導入状況	41
4. 育成すべき資質・能力の明確化と教育活動への接続状況	45

第Ⅳ部 高校と他関連機関との連携

1. 高大接続改革の議論	
1) 学力の3要素のうち注力したいと考える要素	46
【フリーコメント⑭】学力の3要素のうち注力したいと考える要素の理由	47
2) 高大接続議論を踏まえた取り組みの実施状況	48
【フリーコメント⑮】高大接続を踏まえた取り組みの具体的な内容	49
3) 高大接続議論への対応・教育改革を進めるうえでの課題やハードル	50
【フリーコメント⑯】高大接続議論への対応・教育改革の取り組みについて賛同できない施策とその理由	51
4) 3つのポリシー（方針）の発信と到達の状況	52
【フリーコメント⑰】3つのポリシー（方針）の策定や実行にあたっての疑問・懸念点・大学への要望	59
【フリーコメント⑱】大学入学希望者学力評価テスト(仮)に対する考え	60
2. 専門職業大学・専門職大学（いずれも仮称）の評価	
1) 専門職業大学・専門職大学（いずれも仮称）の認知度	61
2) 専門職業大学・専門職大学（いずれも仮称）創設による成果への期待度	62
【フリーコメント⑲】専門職業大学・専門職大学（いずれも仮称）創設による成果への期待度の理由	63
3) 専門職業大学・専門職大学（いずれも仮称）の創設内容の中で期待できる点	64
4) 専門職業大学・専門職大学（いずれも仮称）が創設されることへの懸念点	65

■調査概要

- 調査対象 全国の全日制高校4,807校の進路指導主事
- 調査期間 2016年10月6日～2016年10月28日 ※2016年11月4日到着分までを集計対象とした
- 調査方法 郵送法
- 有効回答数 1,105件（回収率23.0%）
- 回答者平均教員歴 24.59年

■回答者プロフィール

■高校設置者（全体／単一回答）（％）

	調査数	国公立	私立	無回答
2016年 全体	1105	71.0	28.0	1.1
2014年 全体	1140	73.3	25.9	0.8
2012年 全体	1179	74.6	24.9	0.5
2010年 全体	1208	74.5	24.8	0.7
2008年 全体	910	74.2	25.5	0.3
2006年 全体	813	76.9	23.1	－
2004年 全体	1122	77.5	22.5	－

DB1.01

■高校学科（高校タイプ）（全体／単一回答）

	調査数	普通科		総合学科		専門高校				その他	無回答	普通科	総合学科	専門高校
		普通科単独校	普通科中心で学科併設校	含む総合学科単独校（移行中）	総合学科併設校	工業を中心とする高校	商業を中心とする高校	家政を中心とする高校	農業を中心とする高校					
2016年 全体	1105	56.6	20.2	6.2	1.2	5.2	3.3	0.2	2.8	3.4	0.9	76.7	7.4	11.5
2014年 全体	1140	54.6	20.1	5.2	1.1	5.9	3.2	0.4	2.4	5.4	1.8	74.7	6.3	11.8
2012年 全体	1179	54.3	19.1	5.8	1.3	5.8	3.4	0.4	2.0	4.7	3.2	73.4	7.0	11.6
2010年 全体	1208	53.0	20.4	6.5	1.0	5.5	4.5	0.2	3.5	4.2	1.3	73.3	7.5	13.7
2008年 全体	910	53.5	19.8	4.4	1.3	7.4	4.1	0.4	3.5	4.5	1.1	73.3	5.7	15.4
2006年 全体	813	52.3	19.2	6.2	1.2	8.4	5.7	0.5	3.2	3.4	－	71.5	7.4	17.8
2004年 全体	1122	52.9	18.8	3.9	0.7	8.1	5.8	0.6	3.7	4.5	1.1	71.7	4.6	18.2

F3.01

■高校所在地【時系列】（全体／単一回答）

	調査数	北海道	東北	北関東・甲信越	北関東	甲信越	南関東	東海	北陸	関西	中国・四国	中国	四国	九州・沖縄	無回答	関東・甲信越	東海・北陸
2016年 全体	1105	6.2	9.2	13.9	7.9	6.1	18.4	13.4	2.7	13.3	10.0	7.1	2.9	11.8	1.1	32.3	16.1
2014年 全体	1140	7.1	11.4	11.8	6.4	5.4	16.8	13.5	2.7	12.0	11.3	7.1	4.2	12.5	0.8	28.6	16.2
2012年 全体	1179	7.5	10.3	11.5	6.2	5.3	17.3	12.7	2.4	13.2	11.6	8.1	3.5	12.9	0.5	28.8	15.1
2010年 全体	1208	7.9	10.1	11.9	7.2	4.7	17.5	11.6	3.0	12.7	12.4	8.9	3.5	12.2	0.7	29.4	14.6
2008年 全体	910	9.0	9.7	11.6	6.3	5.4	18.9	11.4	3.2	12.1	12.3	8.1	4.2	11.4	0.3	30.6	14.6
2006年 全体	813	7.4	10.6	*	*	*	*	*	*	11.8	10.7	*	*	11.7	*	29.9	18.0
2004年 全体	1122	7.7	7.8	*	*	*	*	*	*	15.8	10.9	*	*	12.4	*	31.2	14.3

※2004年・2006年：「北関東」「甲信越」「東海」「北陸」の区分が異なる

DB4.01

■校務分掌（全体／複数回答）

	調査数	進路指導主事	進路指導担当	学年担当	学年主任	校長	教頭（副校長）	その他	無回答
2016年 全体	1105	85.0	13.1	9.4	2.4	0.1	0.1	1.4	1.4
2014年 全体	1140	85.0	12.5	7.0	1.9	－	0.5	2.3	1.8
2012年 全体	1179	84.4	11.9	5.9	1.2	－	0.3	2.4	2.8
2010年 全体	1208	84.1	14.5	7.0	1.5	－	0.2	2.4	1.3
2008年 全体	910	84.5	12.4	7.8	2.9	－	0.3	2.7	1.6
2006年 全体	813	81.8	15.0	4.6	2.5	－	0.2	3.2	2.6
2004年 全体	1122	82.4	14.6	0.3	0.7	－	－	0.9	1.2

F2.01

■中高一貫・中学併設【時系列】（全体／単一回答）

	調査数	有	無
2016年 全体	(n=1105)	21.1	78.9
2014年 全体	(n=1140)	17.9	82.1
2012年 全体	(n=1179)	18.1	81.9
2010年 全体	(n=1208)	18.2	81.8
2008年 全体	(n= 910)	15.6	84.4

F4.01

■大学短大進学率（全体／単一回答）

	調査数	70%以上	40～70%未満	40%未満・計	無回答
2016年 全体	1105	47.5	19.0	32.4	1.1
2014年 全体	1140	46.5	18.6	34.1	0.8
2012年 全体	1179	45.7	19.8	32.9	0.5
2010年 全体	1208	41.5	21.1	36.7	0.7
2008年 全体	910	37.8	23.1	38.8	0.3
2006年 全体	813	30.8	22.8	46.5	－
2004年 全体	1122	31.7	23.4	44.9	－

DB2.01

※「*」は該当項目データなし

第Ⅰ部 進路指導の実態

1.進路指導の困難

1) 進路指導の難易度

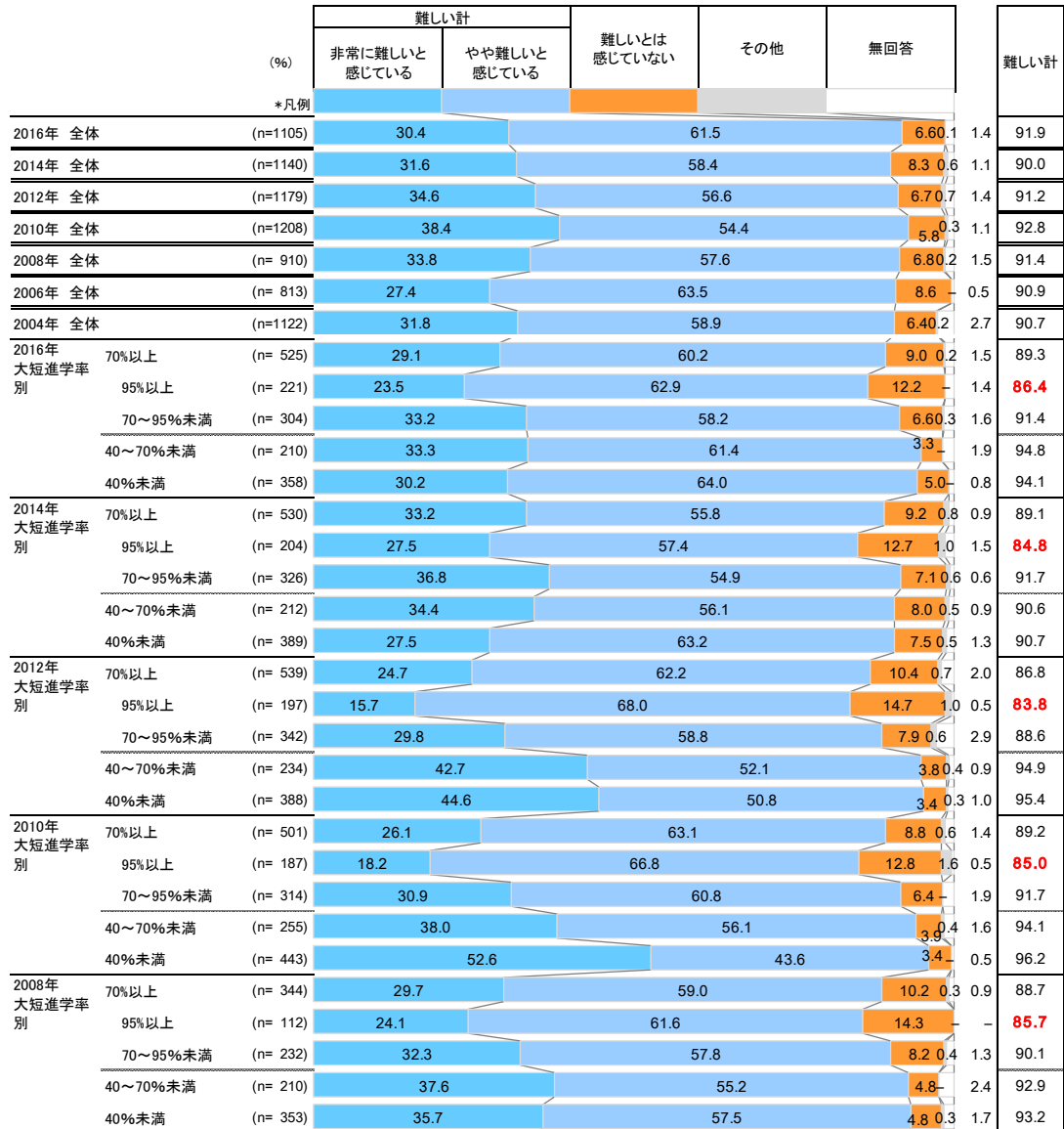
■「非常に難しい」と感じている割合は30%。10年をピークに減少傾向。

■全体の9割以上が難しさを感じている状況は、これまでの調査結果と変わらない。

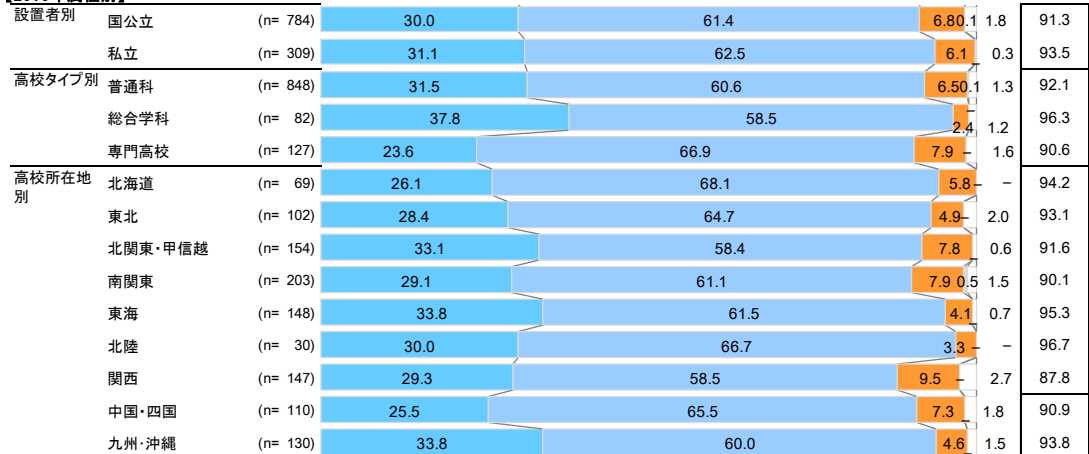
- 現在、進路指導の難しさについてどのように感じているか。調査対象である進路指導主事を中心とした教員の30%が「非常に難しい」と回答。「やや難しい」の62%と合わせると、全体の9割が進路指導を難しいと感じている状況は過去調査と変わらないが、「非常に難しい」は10年(38%)をピークに減少傾向である。
- 大短進学率別にみると、08～12年は進学率が低い高校ほど「非常に難しい」割合が高かったが、14年以降70～95%未満校、40～70%未満校が相対的に高くなっている。
- 設置者別にみると、「非常に難しい」の割合は、国公立(30%)、私立(31%)とも3割以上。
- 高校タイプ別にみると、「非常に難しい」の割合は総合学科(38%)が相対的に高く、専門高校(24%)が低い。
- 高校所在地別にみると、「非常に難しい」の割合が相対的に高いは、九州・沖縄(34%)、東海(34%)、北関東・甲信越(33%)。

■進路指導の難易度（全体／単一回答）

Q1. 現在、進路指導の難しさについてどのように感じますか。あてはまるもの1つに○をおつけください。



【2016年 属性別】



※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

Q1.01

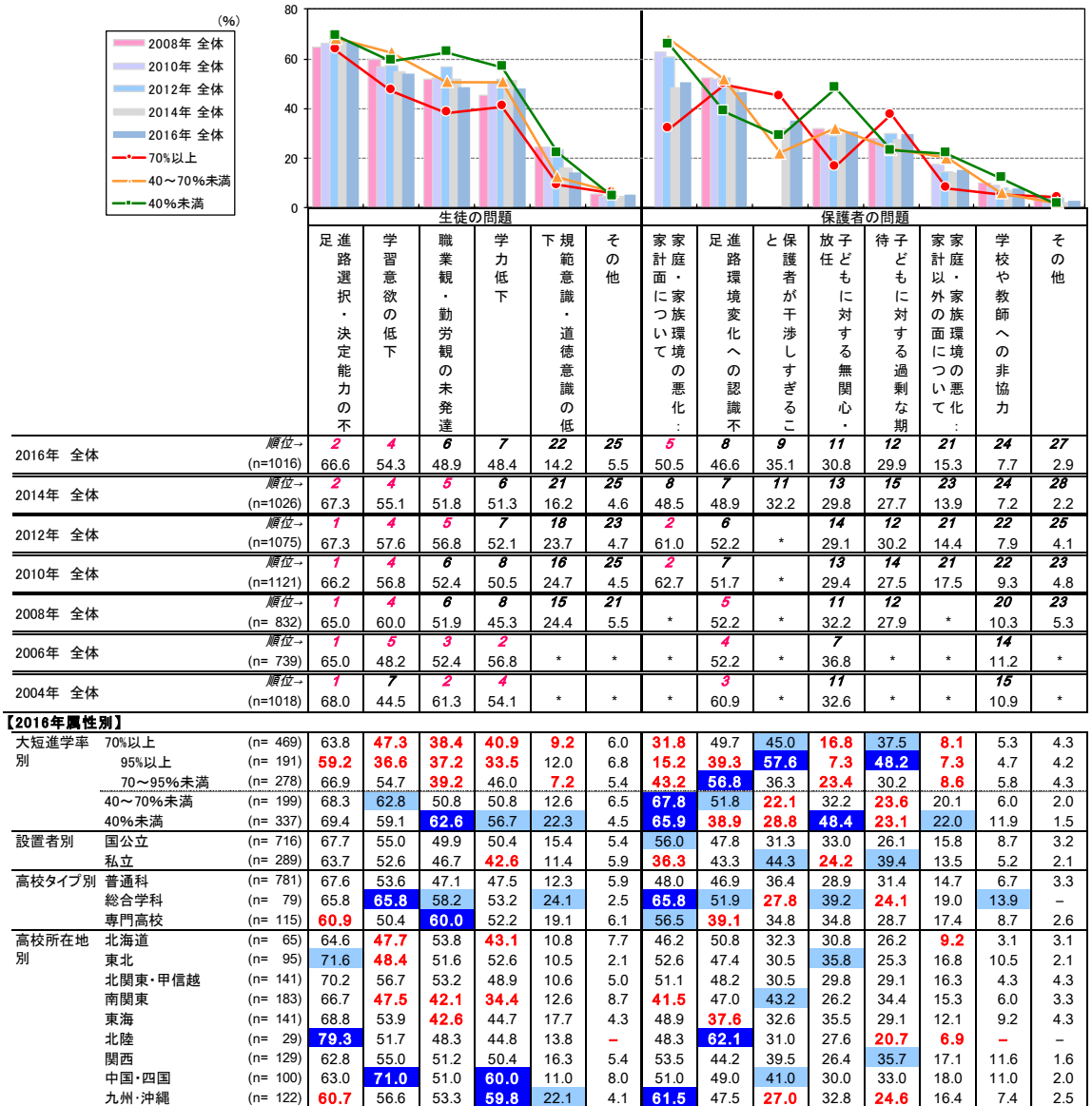
2) 進路指導の難しさの要因

■【学校】「教員が進路指導を行うための時間の不足」、【生徒】「進路選択・決定能力の不足」が上位。

- 進路指導について「非常に難しい」「やや難しい」と回答した人にその要因をすべて選んでもらった。
トップは【学校】の「教員が進路指導を行うための時間の不足」(67%)、2位は僅差で【生徒】の「進路選択・決定能力の不足」(67%)、3位は【進路環境】の「入試の多様化」(63%)である。以下、【生徒】の「学習意欲の低下」(54%)、【保護者】「家庭・家族環境の悪化：家計面について」(51%)、【生徒】「職業観・勤労観の未発達」(49%)、「学力低下」(48%)が続く。【生徒】が要因上位に挙がる傾向は過去の調査と変わらない。
- 前回10ポイント程度上昇した、【学校】の「教員が進路指導を行うための時間の不足」、【進路環境】の「入試の多様化」は今回も同程度を維持。前回10ポイント以上減少した【保護者】の「家庭・家族環境の悪化：家計面」は今回同程度を維持。前回10ポイント以上減少した【進路環境】の「産業・労働・雇用環境の変化」「高卒就職市場の変化」はさらに減少した。景況感を受けて就職環境にさらに改善が進んでいるが、進路指導を行なうのに十分な時間を確保できない状況の改善は進んでいないようだ。

■進路指導の困難の要因：すべて（進路指導を「非常に難しいと感じている」「やや難しいと感じている」回答者／複数回答）

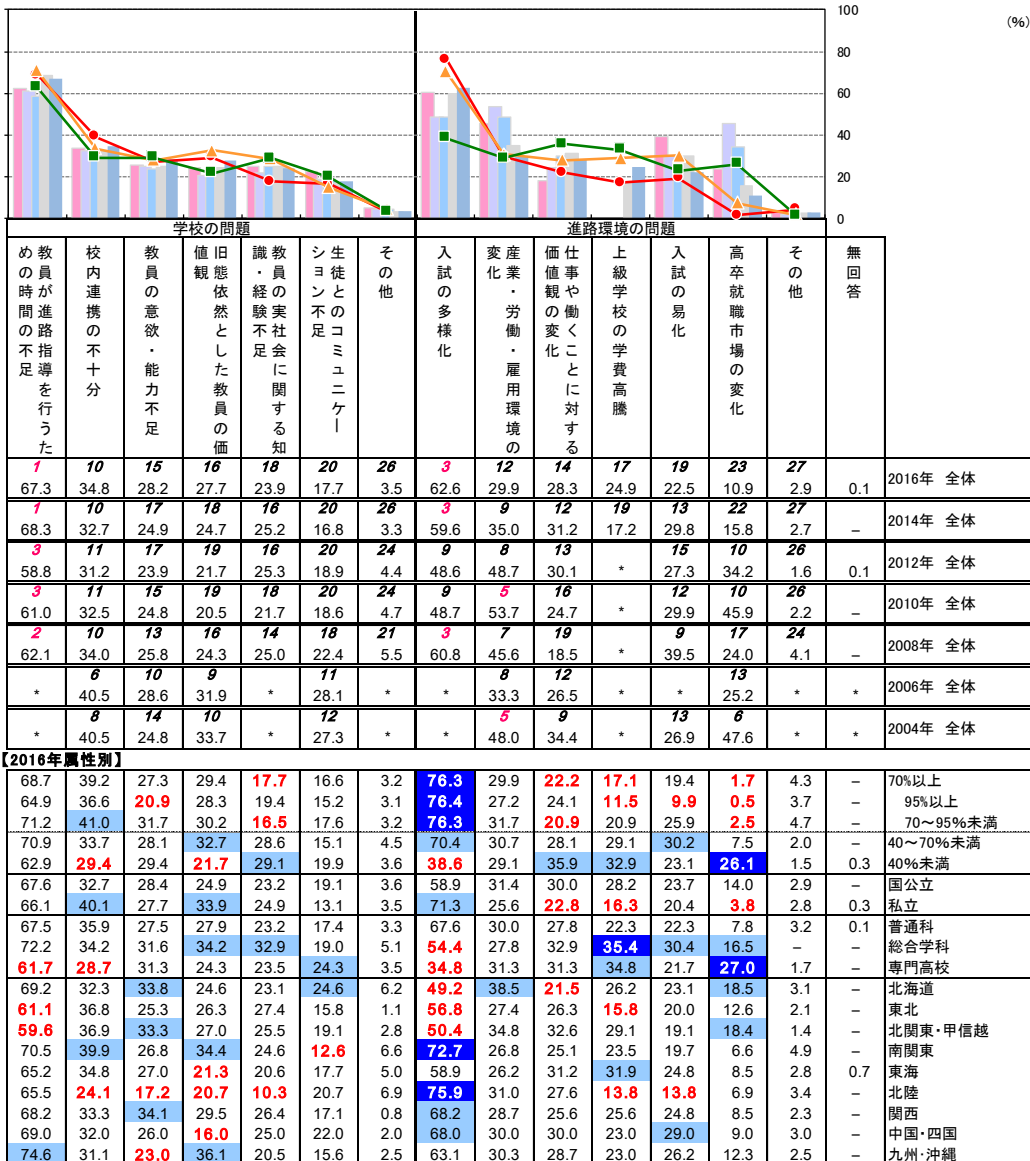
Q2. Q1で「1. 非常に難しいと感じている」「2. やや難しいと感じている」とお答えになった先生にお聞きします。難しさをもたらしている要因として以下の状況をあげました。大きな要因と感じるものすべてに○をおつけください。



※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

※カテゴリーごと「2016年全体」降順ソート

- 大短進学率別にみると、進学率により難しさの要因は異なる。
70%以上校は、【進路環境】「入試の多様化」、【学校】「教員が進路指導を行うための時間の不足」が要因のトップ2。
【生徒】が相対的に低い。
 - ・95%以上校は【進路環境】「入試の多様化」の他、【保護者】「保護者が干渉しすぎること」「子どもに対する過剰な期待」が他層に比べ高い。
 - ・70%～95%未満校は、【進路環境】「入試の多様化」の他、【保護者】「進路環境変化への認識不足」が他層に比べて高い。
- 40～70%未満校は、【学校】「教員が進路指導を行うための時間の不足」、【進路環境】「入試の多様化」が要因のトップ2。
【生徒】「学習意欲の低下」、【保護者】「家庭・家族環境の悪化：家計面について」「進路環境への認識不足」、
【学校】「旧態依然とした教員の価値観」、【進路環境】「入試の多様化」「入試の易化」が他層に比べ高い。
- 40%未満校は、【生徒】「進路選択・決定能力の不足」、【保護者】「家庭・家族環境の悪化：家計面について」が要因の
トップ2。【生徒】の項目が全般に高い他、【保護者】は「子どもに対する無関心・放任」と家庭・家族環境の悪化についての
2項目が高く、本人や保護者の無関心さ・家庭・家族環境の変化について課題がみられる。【進路環境】「仕事や働くこと
に対する価値観の変化」「高卒就職市場の変化」など就職指導に関する項目が他層に比べ高い。
- 設置者別にみると、国公立のトップは「進路選択・決定能力の不足」(68%)、私立のトップは「入試の多様化」(71%)。
- 高校タイプ別にみると、普通科は「進路選択・決定能力の不足」「入試の多様化」(68%)が同率でトップ、総合学科と専門
高校は「教員が進路指導を行うための時間の不足」がトップ。



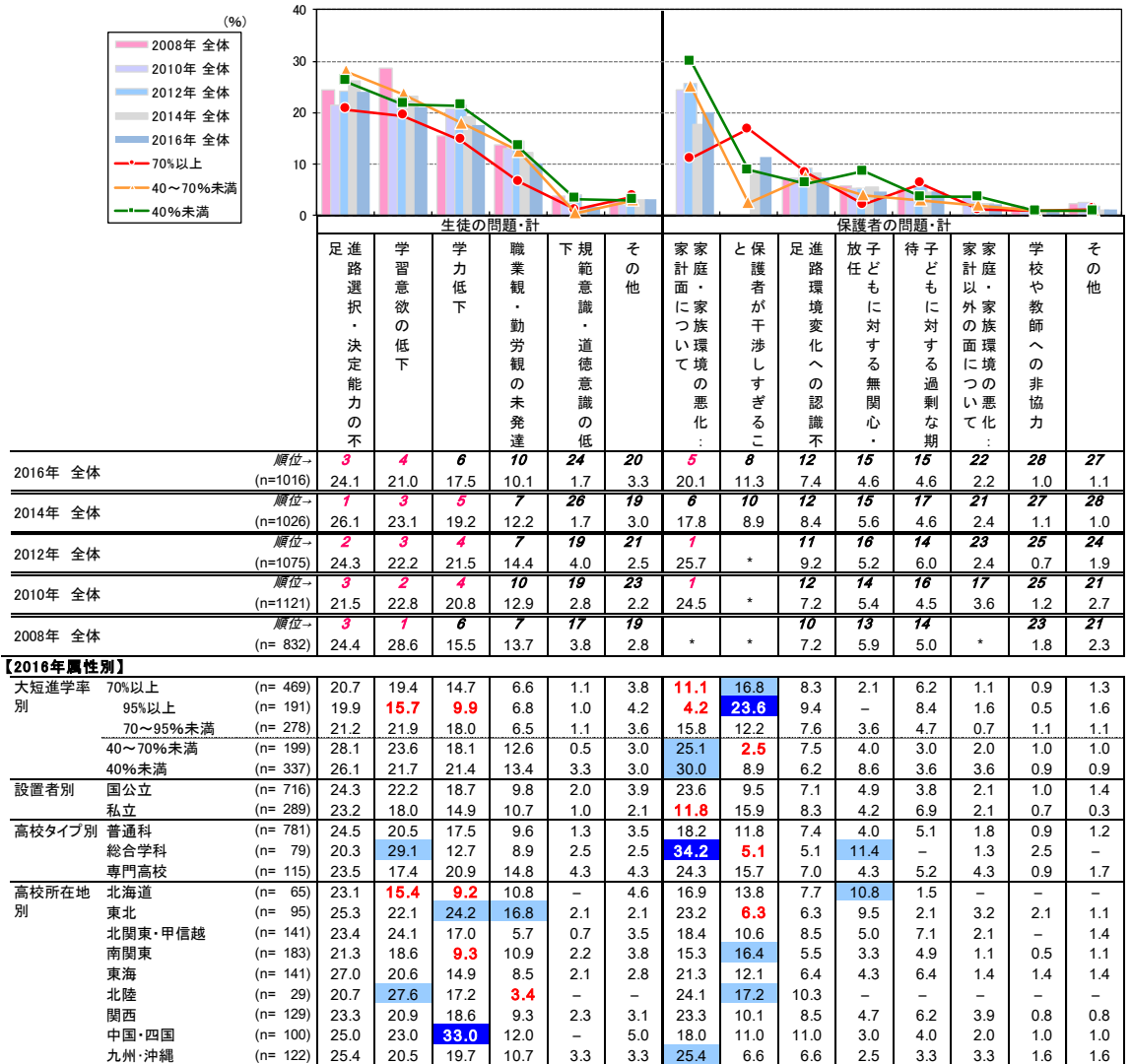
3) 進路指導の難しさの最大要因

■最大要因は、【進路環境】の「入試の多様化」、【学校】「教員が進路指導を行うための時間の不足」が上位。

- 進路指導を困難にしているすべての要因のうち、最も大きな要因とを感じるものを3つまで選んでもらった。
【進路環境】「入試の多様化」(26%)、【学校】「教員が進路指導を行うための時間の不足」(26%)が上位に挙がった。
時間不足以下【生徒】「進路選択・決定能力の不足」(24%)、「学習意欲の低下」(21%)が続く。
- 前回に比べ【進路環境】「入試の多様化」が6ポイント増加、順位は前回4位→1位に上昇。その他【保護者】「家庭・家族環境の悪化:家計面」が微増している。
・難しさの最大要因のトップ「入試の多様化」は、教員の時間不足をもたらしている大きな要因の1つと考えられる。
- 大短進学率別にみると、上位校は【進路環境】「入試の多様化」、下位校は【保護者】「家庭・家族環境の悪化:家計面」に課題を感じている。
70%以上校は「入試の多様化」がトップ、次いで「教員が進路指導を行うための時間の不足」。
40~70%未満校は「入試の多様化」がトップ、「進路選択・決定能力の不足」「教員が進路指導を行うための時間の不足」「家庭・家族環境の悪化:家計面」が続く。
40%未満校は「家庭・家族環境の悪化:家計面」がトップ。「進路選択・決定能力の不足」「学習意欲の低下」が続く。

■進路指導の困難の要因:上位3つ (進路指導を「非常に難しいと感じている」「やや難しいと感じている」回答者/3つまで回答)

Q2SQ1. 上記の項目1~28のうち、最も大きな要因とお感じの項目を3つまで選んで番号を記入してください。
また、それによって進路指導の現場にどのような困難が生じているか具体的に教えてください。

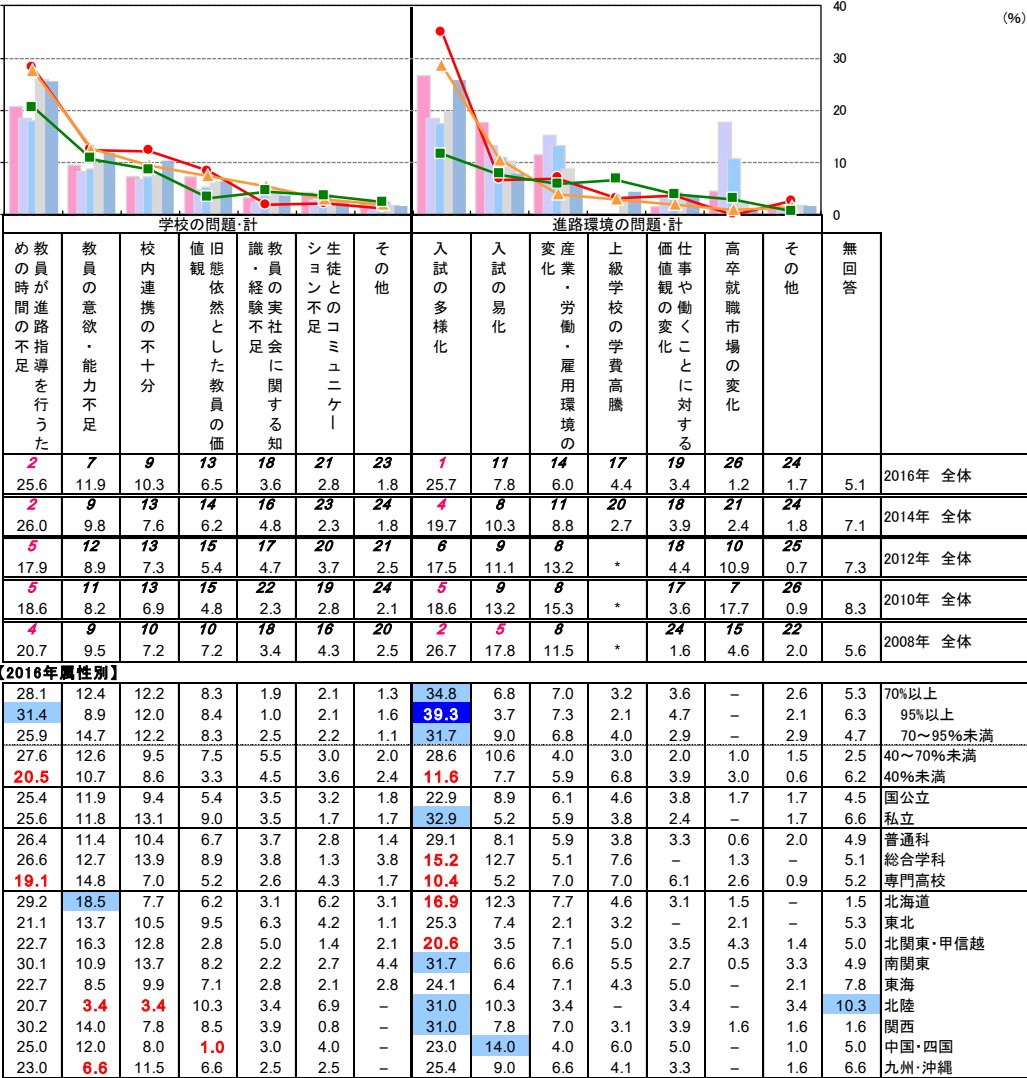


※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

※カテゴリごと「2016年全体」降順ソート

Q2SQ1.01

- 設置者別にみると、国公立は「教員が進路指導を行うための時間の不足」(25%)、私立は「入試の多様化」(33%)がトップ。
- 高校タイプ別にみると、普通科は「入試の多様化」(29%)、総合学科と専門学科は「家庭・家族環境の悪化:家計面」がそれぞれトップ。



【フリーコメント①】生徒の問題でどのような困難が生じているか

■進路選択・決定能力の不足

【大短進学率70%以上】

- 多様な価値観と情報の多さに加え、生徒自身の決定能力の低さが一層難しくしている。[静岡県/県立/普通科]
- 自分が大学、将来社会において何をしたいかということを決められず、目標が定まらないので学習意欲もわいてこない。[埼玉県/私立/普通科]
- 生徒が自分の将来を見据えた上で、進路を選択したりより高い目標を目指そうとする意欲が低下している。[福島県/県立/普通科]
- 生徒自身の経験不足や未熟さのために、従来のような進路にかかわる働きかけが響かなくなっている。多様な働きかけには限界がある。[滋賀県/県立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- 指定校から進路を選択する。医療系や保育等、分かりやすい資格に流れる。[大分県/県立/普通科]
- 将来の就職(自分の就きたい仕事)から逆算して選択する者が少ない。目的意識が明確ではなく、安易に入りやすい学校を選ぶ傾向が大いに有り。[静岡県/県立/普通科]
- 周囲に流されて育ててきているため、高卒後の幅広い進路選択において、自分の意志で決めきれなく、教員に頼る傾向が強い。[埼玉県/県立/普通科]

【大短進学率40%未満】

- ・目標・設定がない ・ひとつ上のところを目指そうとしない ・やりたいことが思い浮んでいない。[岐阜県/県立/専門学科:工業]
- 10年後・20年後などの先を見通したうえで、現実は何をなすべきかをみつけれない。[長野県/県立/普通科]
- 自分の適性ややりたいことが十分理解できていないために、悩むだけで先に進まない。[熊本県/私立/普通科]

■学習意欲の低下

【大短進学率70%以上】

- 塾依存の学習スタイル。特定の科目に興味関心をもち、深く追求する態度の生徒がほとんどいなくなった。[三重県/私立/普通科]
- 目標に対して、自ら学力を上げるのではなく、安易な方向へ流れてしまう傾向にある。[鳥取県/県立/普通科]
- 平和な毎日に慣れていて何かを得ようとするハングリー精神に欠ける。[埼玉県/私立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- スマホとゲームで時間を奪われて勉強しない生徒。[千葉県/県立/普通科]
- 努力を嫌い、入れる所に行けばよいという考えが強くなり、集団としても学習に意欲的に取り組む雰囲気作りがにくい。[長野県/県立/普通科]
- 勉強することが将来どう自分の役に立つのか考えられない生徒が多く、目先のことのみに捕われて、合格に必要なもの以外に取り組みまない。[静岡県/県立/普通科]

【大短進学率40%未満】

- 「知ること」や「わかること」に喜びを感じない知的好奇心の乏しい生徒や授業中の居眠りや安易な欠席や遅刻を繰り返す生徒が増加している[熊本県/県立/専門学科:商業]
- 入試の易化にも関係しているが、高望みをしなければどんなに低学力の受験生でも受け入れる大学があるため、学習意欲が低い。[福岡県/県立/総合学科]

■学力低下

【大短進学率70%以上】

- 塾依存の学習スタイル。特定の科目に興味関心をもち、深く追求する態度の生徒がほとんどいなくなった。[三重県/私立/普通科]
- 目標に対して、自ら学力を上げるのではなく、安易な方向へ流れてしまう傾向にある。[鳥取県/県立/普通科]
- 志望を叶えるため、努力をするという意欲がなく、はじめから無理と決めつけて学習しない生徒が増えている。[滋賀県/私立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- 勉強することが将来どう自分の役に立つのか考えられない生徒が多く、目先のことのみに捕われて、合格に必要なもの以外に取り組みまない。[静岡県/県立/普通科]
- 努力を嫌い、入れる所に行けばよいという考えが強くなり、集団としても学習に意欲的に取り組む雰囲気が作りにくい。[長野県/県立/普通科]
- スマホとゲームで時間を奪われて勉強しない生徒。[千葉県/県立/普通科]

【大短進学率40%未満】

- 「知ること」や「わかること」に喜びを感じない知的好奇心の乏しい生徒や授業中の居眠りや安易な欠席や遅刻を繰り返す生徒が増加している。[熊本県/県立/専門学科:商業]
- 学習に対する必要性を感じず、のんびりとした環境の中で、意欲が低下し現実をみた時(不合格)になってあわてている。[宮城県/県立/普通科]
- 入試の易化にも関係しているが、高望みをしなければどんなに低学力の受験生でも受け入れる大学があるため、学習意欲が低い。[福岡県/県立/総合学科]

■職業観・勤労観の未発達

【大短進学率70%以上】

- 将来の職業などに関する知識も少なく、働くことにまで意識が向かず進路が確定しない。[埼玉県/私立/普通科]
- 進路適性よりも、就職の事を考えて医療系への希望が多くなったこと。[愛媛県/県立/普通科]
- 触れ合う、生活の中で身近に感じられる仕事も少ないためか、公務員志望がほとんどである。[沖縄県/県立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- 職業を知らない。自分が知っている職業から進路を選ぶ傾向があり、選択の幅がせまい。[宮城県/私立/普通科]
- 名前が知られている企業を希望し、職種や、具体的な仕事内容、将来のことまで考えることができず、右往左往している。[青森県/県立/普通科]
- 働くことについて、理解が不十分であり、職業観が身につけていない生徒が就職を希望している。そのため、ミスマッチも多く出ている。[福島県/県立/普通科]

【大短進学率40%未満】

- 求人票を見ても、給料、場所、交替制のあるなしばかりを見て仕事内容を深く考えていない。[埼玉県/県立/専門学科:工業]
- 自分の理想とほんの少し違う職場環境に馴染めなかったり、上司や同僚との人間関係が築けなかったりして離職する者もいる。[熊本県/県立/専門学科:商業]
- アルバイト感覚から抜け出せず、労働者意識や社会性の欠如を感じている。[東京都/都立/普通科]

【フリーコメント②】保護者の問題でどのような困難が生じているか

■家庭・家族環境の悪化：家計面について

【大短進学率70%以上】

- 学力、人物ともに優れている生徒が、経済的理由で、不本意な進路を選ばざるを得ないケースが多い。
[千葉県/私立/普通科]
- 家計が苦しく、受験料や入学手続費用の捻出に苦労されるご家庭が増えてきています。それによって、受験校数をかなり絞ったり、指定校推薦にしないと子どもを説得したりする保護者も出てきています。[東京都/私立/普通科]
- 保護者が決定時期に入って資金面で困ったり、資金不足から「国公立志望」という無理が多い。
[大阪府/市立/その他]

【大短進学率40～70%未満】

- 学費(受験料も含めて)について、生徒がかかり気をつけている。生徒の本当の希望がかなえられない。
[愛知県/県立/普通科]
- 経済的に困難な家庭が増加しており、生徒が進学を希望しても叶わないことがある。[群馬県/私立/普通科]
- 上級学校へ進学を希望していてもとにかく家計が厳しく、経済的理由で進学を断念する者がいる。
[兵庫県/県立/普通科]

【大短進学率40%未満】

- とにかく経済的に子供に無理を強いてしまう家庭が多い。教育への投資という概念が乏しい。
[奈良県/県立/普通科]
- 経済的に困難な家庭はもちろん裕福でも子供に金を出したがない家庭が増加。[山口県/県立/総合学科]
- 熊本地震の被災で家計にダメージがあった。
[熊本県/県立/総合学科]

■保護者が干渉しすぎること

【大短進学率70%以上】

- 最終的な進路決定において、生徒の意志よりも優先的に保護者の意向が働き、生徒が涙をのむシーンが見受けられる。[北海道/道立/普通科]
- 校内で様々なキャリア教育活動を実施しているが、保護者の干渉が大きく、生徒の職業観が育たない(地本で公務員、医療系の職業が目立つ) 地本に残すために、短絡的に公務員、保育士、看護師を進める保護者が多い。
[島根県/県立/普通科]
- 医学部志望者の多くは背後に保護者の強い意向がある。
[香川県/県立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- 将来が不透明であるため資格が必要な職業を目指させ入学後に本人が決めたことでないので退学してしまう生徒が増加。特に看護が多い。[岐阜県/私立/普通科]
- 必要以上にクレームを口にする親が多くなってきている。
[北海道/私立/普通科]

【大短進学率40%未満】

- 子どもに力がないのにもかかわらず、親が偏差値の高い大学を受験させようとする家庭が多くなった。
[長野県/私立/普通科]
- 生徒自身の選択に対し親による決定権が大きく左右される。[北海道/私立/普通科]

■進路環境変化への認識不足

【大短進学率70%以上】

- 大学をめぐる環境が激変しているのに、保護者は昭和時代のままの認識で、ギャップが大きく存在している。
[茨城県/私立/普通科]
- 親世代が自分の大学受験当時抱いていた受験に対する意識、価値観がぬぐえない。[兵庫県/県立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- 進学に対する認識が昔のままの保護者が多い。女子は短大まででよいと考える保護者もまだ見られる。→よりよい進路指導ができていない。[福島県/県立/普通科]
- 入試や雇用環境の変化などに関して保護者が理解しないまま、子どもに意見を植えつけている面がある。
[東京都/都立/普通科]

【大短進学率40%未満】

- 保護者の社会状況への無関心により、何も知らない、自分の時代の頃の状況のままの状況で子どもへの期待らしきものを押し付けている。時代の変化に無頓着である。
[熊本県/県立/専門学科:農業]
- 保護者が進路先のレベルと本人のレベル差を認識していない。[京都府/府立/普通科]

■子どもに対する無関心・放任

【大短進学率70%以上】

- 進路については「本人に任せている」という保護者が多くなっている。保護者に対する働きかけも必要と感じる。
[愛知県/私立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- 自分の知らないことについて、学校任せであり、責任を持つとすることが少ない。[埼玉県/県立/普通科]

【大短進学率40%未満】

- 子どもの希望進路について一緒に調べたりアドバイスしたりせず、「本人に任せています」と放任している親が多く、子どもの考えも深まらない。[福島県/県立/総合学科]
- 子どもの現在の学力や、大学の状況との関連が分かっているため、適切な進学先を子どもや保護者が示さないこちらが提案しても納得しない。[愛媛県/県立/普通科]

■子どもに対する過剰な期待

【大短進学率70%以上】

- 生徒の学力をきちんと分らず、保護者の価値観で志望校を押しつけることがあり、保護者の意識を変えることが難しい。[東京都/私立/普通科]
- 子どもの学力をあまり考慮せず、医学部を目指させ、多浪してしまう。[鹿児島県/私立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- 子どもの適性や能力を考えず、学力上位の大学ばかりに目を向ける。学力が伸びないことを学校の指導力不足であるとする。[鹿児島県/私立/普通科]

【大短進学率40%未満】

- 子ども自身の現状(実態)把握ができず、親の期待感で子どもの現状をはるかに越えた進路選択をすすめる。そのため卒業後不適応を起こすことが多々ある。
[埼玉県/県立/専門学科:商業]

【フリーコメント③】学校の問題でどのような困難が生じているか

■教員が進路指導を行うための時間の不足

【大短進学率70%以上】

- 教科指導、HR指導、部活指導に多くの時間をとられ、個々の生徒の進路指導がなおざりになる傾向にある。
[静岡県/県立/普通科]
- 書類作りに膨大な時間とエネルギーを消費し、生徒とかかわる時間や心の余裕がなくなっている。
[熊本県/県立/普通科]
- 教員数の不足からくる仕事量の増加、校務分掌の過重。そのために進路指導部、3学年などで顔を合わせて話し合う時間がない。
[神奈川県/私立/普通科]
- 新しい入試制度、アクティブラーニングなどに向けての準備・対策をしなければいけないが、多忙でなかなか時間をとれない。
[千葉県/私立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- 可能な限り生徒とのコミュニケーションは図るが、特に部活動顧問であったりすると、特に放課後の指導時間をとることは困難である。個的に生徒に対応する時間はほとんどとれないのが実情である。
[福島県/私立/普通科]
- 業務が多様化、多忙化しており、進路指導を行う時間の不足を感じる。
[千葉県/私立/普通科]
- 近年授業の進め方(アクティブラーニング等)で時間が取られ進路対策が後手に回る。
[兵庫県/県立/総合学科]
- 一人一人の生徒に対して十分な面談指導を行うことができない。1クラスあたりの人数が多すぎる。
[愛知県/県立/普通科]

【大短進学率40%未満】

- 以前はなかった提出書類や研修が増え、生徒と向き合う時間がなくなった。
[千葉県/県立/普通科]
- 一人ひとりの生徒の進路希望や受験方法の多様さに対応しきれしていない。
[兵庫県/県立/普通科]
- 教員一人ひとりが忙しく、生徒指導に追われ、進路指導を行うための時間が不足していること。
[福岡県/県立/普通科]

■教員の意欲・能力不足

【大短進学率70%以上】

- 入試制度、社会情勢が変わっているにもかかわらず、自身の高校時代の感覚から脱することなく、新しいことに対して学ぼうとしていない。
[北海道/私立/普通科]
- 若手の教員が増え、高3受験指導に直接関わった経験を持っている人材の不足。
[神奈川県/私立/普通科]
- 若い教員への進路研修がほとんど行われていない。
[兵庫県/県立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- 生徒指導・学習指導・キャリア指導をバランス良く指導できる教員は減って、専門的に一部に特化する傾向がある。
[神奈川県/県立/総合学科]
- 進学から就職など指導の幅がとて大きいので、生徒1人1人にかかる時間が少なくなる。
[埼玉県/県立/普通科]

【大短進学率40%未満】

- 年配の教員が多いため動かない。
[茨城県/県立/普通科]
- キャリア教育の本質を理解していない。出口指導的な指導を取っている。
[青森県/県立/専門学科:工業]
- 就職に関して特に普通科の先生方は職業観、勤労観が薄い。
[群馬県/県立/専門学科:工業]

■校内連携の不十分

【大短進学率70%以上】

- 生徒に対して、共通認識を持った一元的な指導が困難であり、進路実現が難しい。
[群馬県/県立/普通科]
- 学年主導で動く部分と進路が提案してゆく部分でのすりあわせの難しさ。前年の踏襲だけでも量が多くなり新しい事をやるのが難しい点。
[東京都/私立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- 各々の教員が自己の仕事のみに特化する傾向あり。
[栃木県/県立/総合学科]
- 学校全体での「育てたい生徒像」がはっきりしていない。進路指導に対する意識に差があり、一部の教員への負担が増加し、組織として機能していない。
[静岡県/県立/普通科]

【大短進学率40%未満】

- 学科やコースが多く、それぞれに見合った進路指導が異なるため、学校としての進路指導目標が設定しづらい。
[福岡県/私立/総合学科]
- 3年間を見通したキャリア教育が行えておらず、教員間で指導内容が異なるため、生徒が進路選択の際、何を優先していいか分からず悩んでいる。
[岐阜県/県立/総合学科]

■旧態依然とした教員の価値観

【大短進学率70%以上】

- 生徒の質が変化したにもかかわらず、「〇〇べし」という価値観の教員が多い。
[愛知県/県立/普通科]
- AO・推薦入試の拡大や、社会で求められる資質・能力の変化に学校での指導は対応していかなければならないが、対応がスピーディーに進まない。
[静岡県/私立/総合学科]
- 前年度のやり方を踏襲するだけでイノベーションが起きる土壌がない。
[京都府/府立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- 生徒の能力を伸ばそうとせず、従来の方法にこだわる教師が多い。
[兵庫県/県立/総合学科]
- ICT等を使って様々な取り組みをしたいが、生徒指導の観点からだめだという教員が多い。
[福島県/県立/普通科]

【大短進学率40%未満】

- 古い価値感に囚われ、行動しない教師も多くなっている。
[鹿児島県/市立/専門学科:商業]
- 国公立大学の進学者数を増やすことが第一の目的で、他の進路を選択することをあまりよく思っていない人もいる。
[新潟県/県立/総合学科]

■教員の実社会に関する知識・経験不足

【大短進学率70%以上】

- 良い大学に行かせる事だけで、社会の変化に気がつかない教員が多い。社会で活躍できる生徒の育成を目指していない。
[東京都/都立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- 地場産業理解の不十分さと、社会常識とのギャップ(教員の年令を問わず)。
[群馬県/県立/専門学科:工業]

【大短進学率40%未満】

- 社会や雇用情勢の変化に対応できず、大学へ行けば何とかなるという以前のままの指導をしている。
[長野県/県立/普通科]

【フリーコメント④】進路環境の問題でどのような困難が生じているか

■入試の多様化

【大短進学率70%以上】

- 推薦、AO入試など多様化した入試のため、本来の高校の学習がおろそかになってくる生徒が増えているように感じる。[埼玉県/私立/普通科]
- 各大学により入試方法、時期がまちまちで学校・生徒も対応が大変な上、一番力を入れて勉強しないといけな時期に振り回されるため、しっかりと実力をつけきれない生徒が出る。[鹿児島県/私立/普通科]
- 1人1人に対して個別で指導する必要性が増え、教員側のマンパワーが不足する。[福島県/私立/普通科]
- 入試が多様なのはかまわないし、必要な変化。だが4月になればAOの指導がはじまり、翌年3月まで国立後期の指導が続く。1年中受験で「教育」ができない。[福島県/私立/普通科]
- 学習にじっくり取り組み学力をつけることよりも要領よく合格を求める風潮がある。[愛知県/県立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- あまりに入試の形態が多様化しすぎて混乱をきたす。[愛知県/県立/普通科]
- 進学・就職全ての指導を行う必要があり、様々な生徒の進路希望の実現は困難を極める。[静岡県/県立/普通科]
- 入試の多様化に伴って、各校の選考方法や基準が複数あり、対応・指導しづらい。[福岡県/私立/総合学科]

【大短進学率40%未満】

- 入試の多様化によって、個人指導のウエイトが高くなり、教員の多忙感につながっている。[香川県/県立/普通科]
- 大学や専門の入試が「個別化」しすぎており、1人1人の個別指導をせざるを得ない、教員の手が回らなくなっている。[東京都/都立/普通科]

■入試の易化

【大短進学率70%以上】

- 大学入試が高い関門でなくなりつつあり成長の機会が失われる。[群馬県/県立/普通科]
- 大学の二極化の中で、正しい努力が成果を生み出す、という本来の入試のあり方と変わっている面があり、生徒のよりよい成長の機会にならない場合がある。[神奈川県/私立/普通科]
- あまり努力をしなくても入れる大学があるので大学入試が学習意欲の向上につながらない。安易な選択をする生徒がいる。[岡山県/県立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- 学力を問わない入試が増え、日頃の学習への取り組みが低調。[神奈川県/県立/総合学科]
- 入試制度が多様化しているうえに、AO入試では安易な受験が行なわれている大学もあり、生徒の学習意欲の低下につながっている。[宮崎県/私立/総合学科]

【大短進学率40%未満】

- 勉強しなくても合格してしまうため、勉強の大切さから入りにくくなってしまっている。[滋賀県/県立/専門学科:商業]
- 書類審査のみ、出願時期、合格時期が早すぎるため、残りの高校生活を送る上で学習態度、意欲が低下する者もいる。[福島県/県立/普通科]

■産業・労働・雇用環境の変化

【大短進学率70%以上】

- 社会の変化が非常にはやく、今後答えのない多くの問題が生じてくる。それに対応する能力がまだ学校現場にはない。[岡山県/県立/普通科]
- 不安定な雇用のため、「いい大学」に入っても「いい仕事」につけるとは限らないとの思いが勉強へのモチベーション低下につながっている。[愛知県/私立/普通科]
- 人工知能の発達にともない、産業、社会構造の変化がどのように起きるか不明であり指導しにくい。[埼玉県/私立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- 高卒での就職が、本人の生計を十分支える賃金を獲得する水準にない。[鹿児島県/県立/普通科]
- 10年後、20年後、社会がどうなっていくのか、予測できないため、生徒に対する指導もあいまいなものとなってしまう。[愛知県/県立/普通科]

【大短進学率40%未満】

- 雇用形態や産業構造の変化に教員が対応できていない。またそのための研修も未整備である。[岐阜県/県立/普通科]
- 高卒で受験できる企業職種が限定されており、上級学校で資格をもつ者の採用が多く、希望する仕事がないことが多い。[鳥取県/県立/専門学科:農業]

■上級学校の学費高騰

【大短進学率70%以上】

- 私立大学はもちろん国立大学でも授業料や下宿代などを考えると進学に悩む生徒が私立高校でも多く存在する。[茨城県/私立/普通科]
- 国公立大学も学費が高く、遠方の大学も受験しない家庭が増えた。[群馬県/私立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- 奨学金をかりないと進学できないし進学してもバイトをしなくてはならない 本当の意味で学校生活を送れない。[兵庫県/市立/総合学科]

【大短進学率40%未満】

- 特に医療系大学に進学したくても、経済的に無理な家庭が多い。[新潟県/県立/総合学科]

■仕事や働くことに対する価値観の変化

【大短進学率70%以上】

- いわゆる「ゆとり世代」的な発想が多く見られるようになった。[栃木県/県立/普通科]
- 本人の適性を考えない学部選択。[広島県/県立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- 努力を重ねて目標を達成しようという意識が希薄になってきており、生徒の動機づけが非常に難しい。[佐賀県/県立/普通科]

【大短進学率40%未満】

- 少しぐらいの困難があっても、働き続ける気力が生徒に足りない。[群馬県/県立/普通科]
- インターンシップを実施しているが、まだ多くの生徒が働く事の厳しさを実感できていない。[奈良県/県立/専門学科:工業]

2.進路指導の取り組み

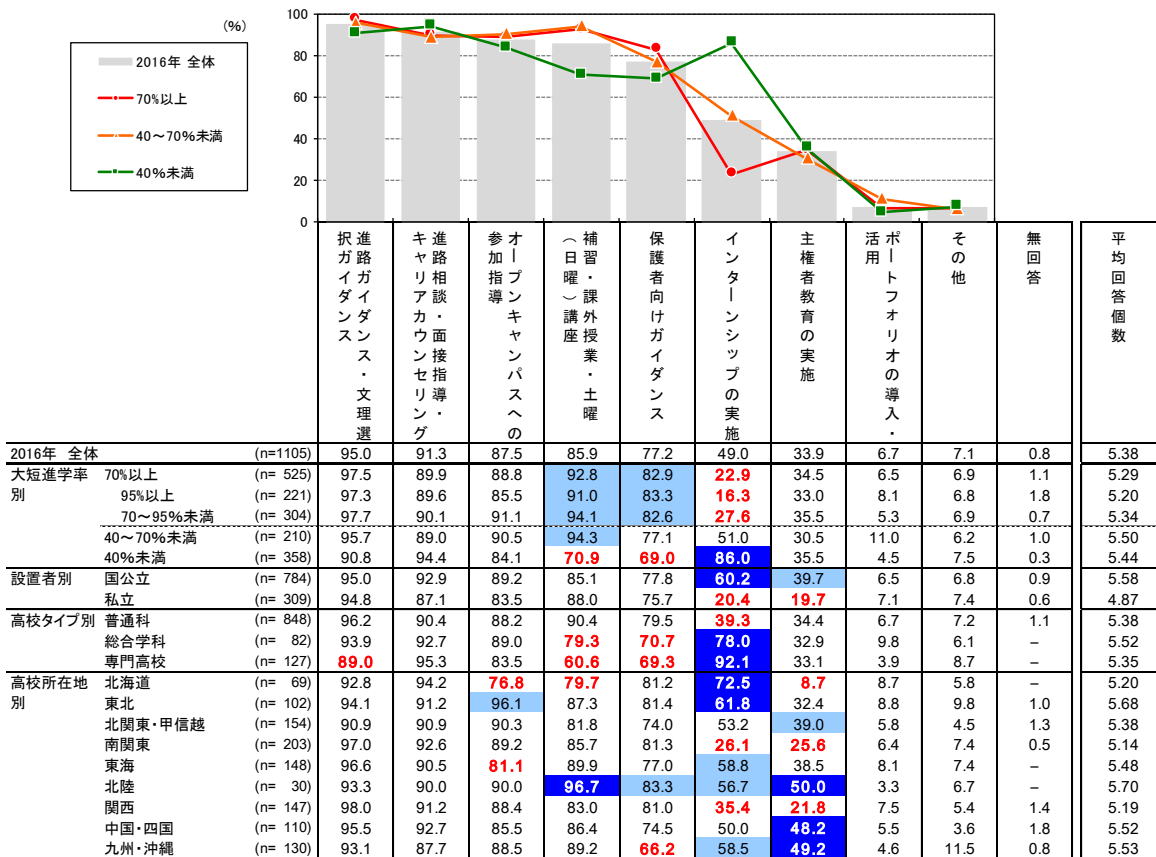
1) 進路指導で現在実施している取り組み事項

■「進路ガイダンス・文理選択ガイダンス」「進路相談・面接指導・キャリアカウンセリング」は90%以上が実施。「オープンキャンパスへの参加指導」「補習・課外授業・土曜（日曜）講座」は80%以上。

- 進路指導で実践している取り組みをすべて選んでもらった。
トップは「進路ガイダンス・文理選択ガイダンス」(95%)、2位「進路相談・面接指導・キャリアカウンセリング」(91%)、3位「オープンキャンパスへの参加指導」(88%)、「補習・課外授業・土曜（日曜）講座」(86%)。以下「保護者向けガイダンス」(77%)、「インターンシップの実施」(49%)。
- 大短進学率別にみると、70%以上校・40～70%未満校は1位「進路ガイダンス・文理選択ガイダンス」、2位「補習・課外授業・土曜（日曜）講座」。40%未満校は1位「進路相談・面接指導・キャリアカウンセリング」、2位「進路ガイダンス・文理選択ガイダンス」。
「保護者向けガイダンス」は進学率が高いほど高く、「インターンシップの実施」は進学率が低いほど高い。
- 設置者別にみると、国公立は私立に比べて「インターンシップの実施」「主権者教育の実施」が高い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科と専門高校は普通科に比べて「インターンシップの実施」が高い。普通科は「補習・課外授業・土曜（日曜）講座」「保護者向けガイダンス」の実施率が高い。

■進路指導で実践している取組事項（全体／複数回答）

Q3. 現在貴校で実施している進路指導の取り組みについて、あてはまるものすべてに○をおつけください。



※「2016年 全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い
※「2016年全体」降順ソート

【フリーコメント⑤】主権者教育の具体的な内容

- 18才選挙の模擬投票。[福島県/県立/普通科]
- 18歳も選挙権があるので、投票をうながす講話。
[埼玉県/県立/普通科]
- 18歳選挙権についての調べ学習、模擬投票。
[福島県/県立/普通科]
- 公民科の授業で選挙についての基礎知識。
[高知県/県立/普通科]
- 政経の授業内で授業担当が行う。[群馬県/県立/普通科]
- 生徒会役員選挙の投票を市の協力で記帳台、投票箱を使って実施。[青森県/県立/普通科]
- 選挙の手引き、法律の解説など。[静岡県/県立/総合学科]
- 選挙管理委員による講話など。[静岡県/県立/普通科]
- 文科省冊子による学習。[新潟県/県立/普通科]

【フリーコメント⑥】保護者向けガイダンスの具体的な内容

- 1年 ①本校の現状と高校での生活 ②高校卒業後の進路
2年 ①大学入試について ②進学資金計画と志望校の決定 3年 受験生をもつ保護者の心構え
[大阪府/府立/普通科]
- 学費について。[愛知県/私立/普通科]
- 就職の流れ、進学の流れ、心構えなど。
[神奈川県/県立/専門学科:工業]
- 進路講演会、大学教授のミニ講義。
[長野県/県立/総合学科]
- 進路日程の説明、実績や見通しについて。
[兵庫県/私立/普通科]
- 推薦、AO等入試形態のガイダンス、奨学金説明会。
[沖縄県/県立/普通科]

【フリーコメント⑦】やめたほうが良いと考える取り組み

■進学指導関連

【大短進学率70%以上】

- 模試の校内実施。模試監督も含め負担が大きい。業者によっては校外の会場がないので仕方ないがなんとかならないか。[愛知県/県立/普通科]
- 模試の受けすぎ。落ちついて学習する時間の確保が必要。レベルにあった模試を受けるべき。[三重県/県立/普通科]
- 出願書類の提出前の全チェック。→ネット出願が増えてきたため。[宮城県/私立/普通科]
- 私大AO入試対策 早く決めたい生徒が多い。内定後に勉強しなくなったり、安易な決定のため、アンマッチで大学を辞めてしまうことも多い。[東京都/私立/普通科]
- 大学などの担当に来てもらって校内で行うガイダンス。宣伝中心になってしまう。[東京都/私立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- 進路の講演会・・・学校行事として年3回行っている。様々な職種か上級実技の方に講演をして貰っているが、定例行事のため、活動の目的が不明確。生徒も一応聴いている程度なので、回数を絞るなど効果を上げる活動に改善したい。
[東京都/都立/普通科]
- 進路検討会、進路は生徒が考えるもの、考えるための手助けをすることが出来れば良い。過保護すぎる。
[島根県/県立/普通科]
- 専門学校を多数招いてのガイダンス。職業を知るにはよいが生徒が安易に大学進学をあきらめてしまう。
[兵庫県/県立/普通科]
- 総合学習の名目の大学見学。生徒が主体性を持って参加するのではなく、総合学習の時間確保が目的になっている。総合学習自体が、見直されるべきだと思う。
[新潟県/県立/普通科]

【大短進学率40%未満】

- 入学偏差値の高さによって大学を選ぶこと、お祭り化しているオープンキャンパスだけで大学を選ぶこと、入学してからミスマッチに気付くから。[埼玉県/県立/総合学科]
- オープンキャンパスへの参加指導→大学の講義や研究紹介が中心ではなく、ただのレクリエーションになっている学校が多いため。[岩手県/県立/普通科]

■就職指導関連

【大短進学率70%以上】

- インターンシップ、職業観の形成に役立っているとは思えない。[兵庫県/県立/普通科]
- 職場体験→ボランティアなどとキャリア教育はわかるべき。
[千葉県/私立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- インターンシップ…一部を除く 職場によっては体験でおわってしまう。あまり上級学校への意識につながっているとは思えない。[島根県/県立/普通科]

【大短進学率40%未満】

- インターンシップ 内容自体は大変良い試みであると考えているが受け入れの企業への依頼を本校では1人で行っており、活動に無理が生じている(管理職は活発にしてほしいと声をあげているがスタッフ不足で困難である)。
[北海道/私立/普通科]

■その他

【大短進学率70%以上】

- 主権者教育は国から押しつけられただけで実効性が全くない。[京都府/府立/普通科]
- 生徒向けの講演は精選すべきである。印象は残るが、本人の進路選択に寄与していないくらいがある。
[兵庫県/県立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- 基礎学力不足の生徒に対する、放課後の全員強制補習。理由、基本的な学力は大切で必要だが、無理にやらせようとしても効果は出ない。少しでも本人の興味や関心とつながる科目の学力を伸ばすことから始めた方が定着もよいと考えるから。[東京都/都立/普通科]
- 過剰な面接指導、PRのための検定やボランティア活動の参加→基本は基礎的な学力と日常生活で育成される人間的資質が全て。[長野県/私立/無回答]

【大短進学率40%未満】

- 校内の進路データ冊子「進路の手引」等、コストパフォーマンスが悪い。[兵庫県/県立/専門学科:工業]

2) 進路指導時に生徒の進学先として重視する点

■「学びたい学部・学科・コースがあること」がトップ、次いで「生徒の面倒見が良いこと」。

■大短進学率上位校は、「教育内容」「教授や講師陣」「伝統や実績」のレベルをより重視。

- 進路指導時に教師は大学のどのような点を重視するのか、あてはまる項目をすべて選んでもらった。

トップは【教育内容・制度】「学びたい学部・学科・コースがあること」(79%)、2位は【構成要員】「学生の面倒見が良いこと」(56%)、3位は【教育内容・制度】「生徒の興味や可能性が広げられること」(54%)。以下、【卒業後】「就職に有利であること」(45%)、「卒業後に社会で活躍できること」(44%) が続く。

・最も重視する点としても、「学びたい学部・学科・コースがあること」(30%)が1位であり、突出している。

- 大短進学率別にみると、いずれもトップは「学びたい学部・学科・コースがあること」である。

以下、進学率により上位項目はやや異なる。

進学率70%以上校は「生徒の興味や可能性が広げられること」「教育内容のレベルが高いこと」「伝統や実績があること」「学生の面倒見が良いこと」が続き、教育内容・伝統や実績を重視。

40～70%未満校は「学生の面倒見が良いこと」「生徒の興味や可能性が広げられること」「就職に有利であること」、

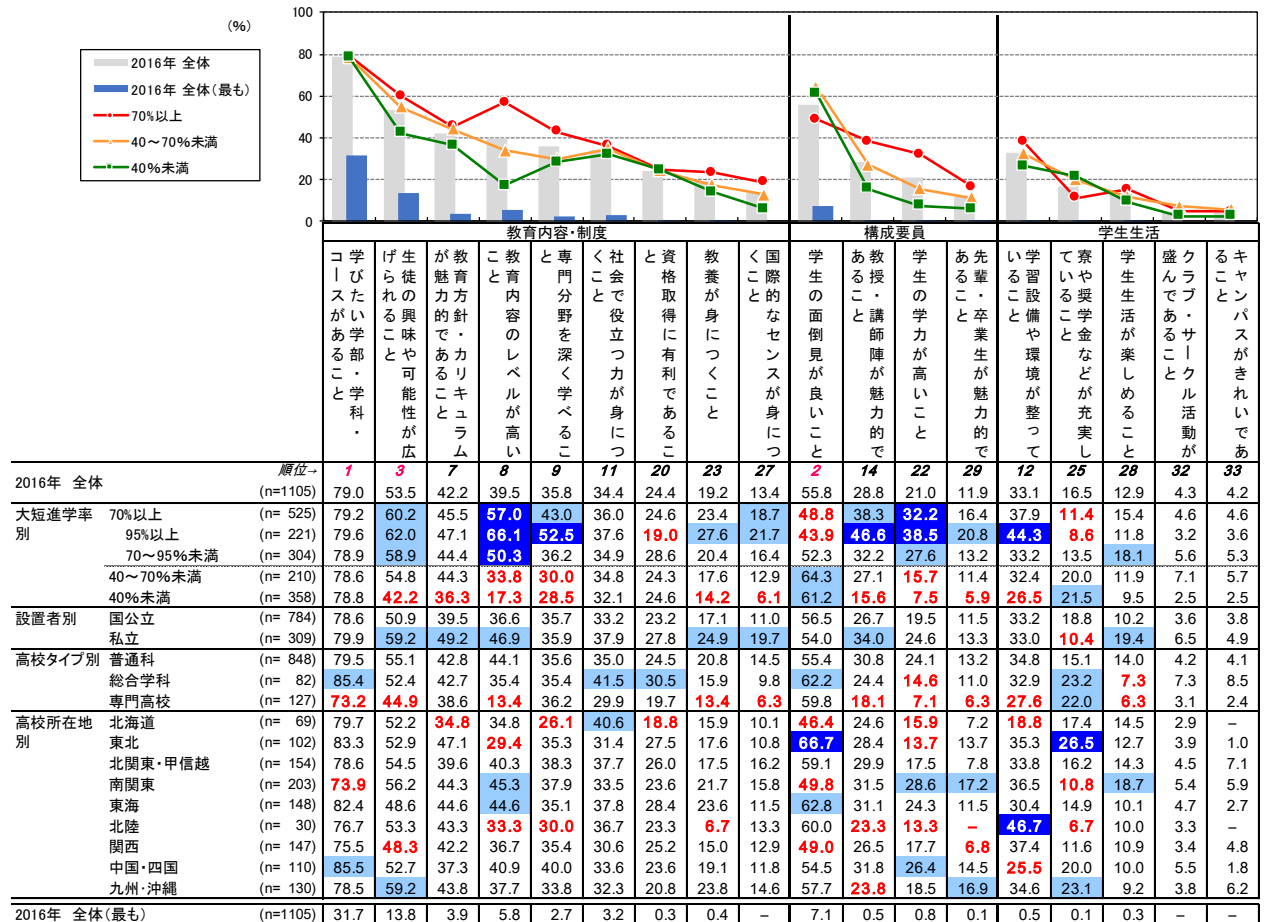
40%未満校は「学士の面倒見が良いこと」「就職に有利であること」「生徒の興味や可能性が広げられること」が続き、進学率70%未満校では学生の面倒見や卒業後の就職も重視している。

・進学率が高いほどスコアが高くなる傾向が顕著な項目は、【教育内容・制度】の「教育内容のレベルが高いこと」、【構成要員】の「教授・講師陣が魅力的であること」「学生の学力が高いこと」「先輩・卒業生が魅力的であること」、【ブランド性】の「伝統や実績があること」など。

・上記項目は、進学率70%以上校の中でも95%以上における重視度が最も高くなっている。

■進路指導時に生徒の進学先として重視する点（全体／複数回答）

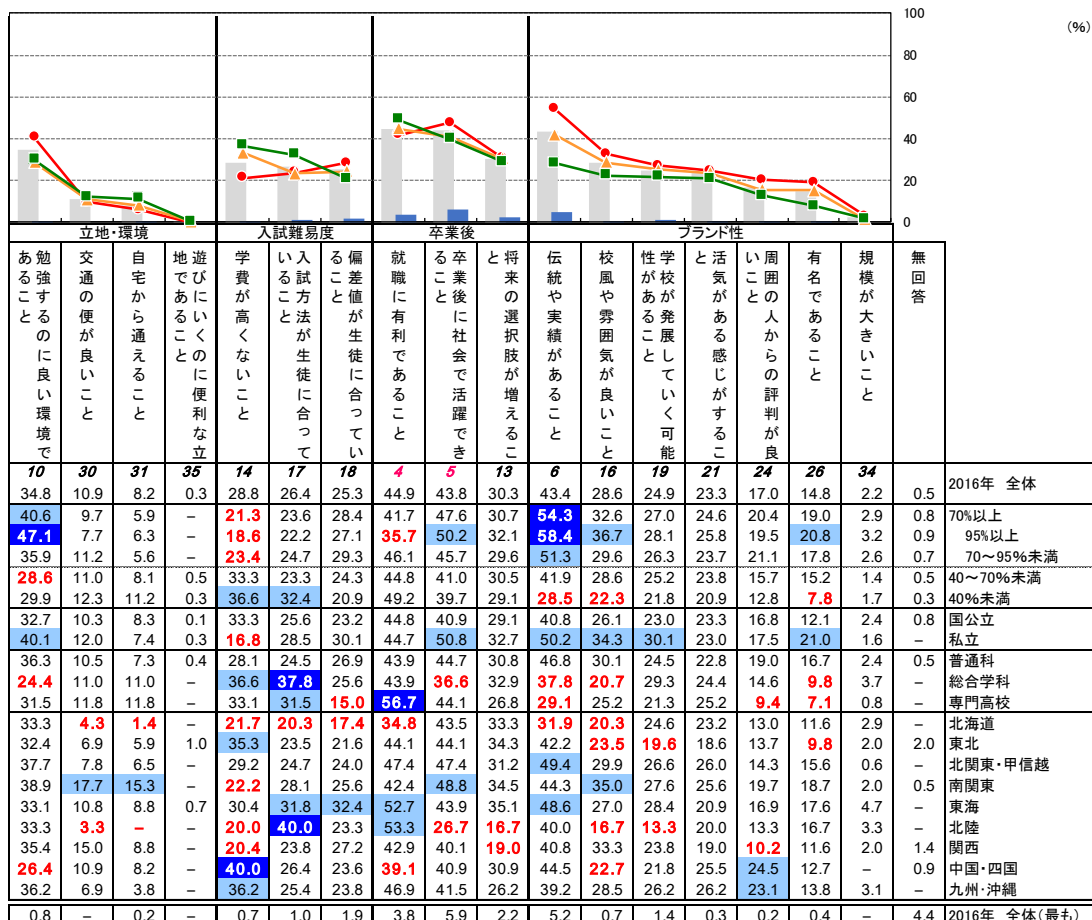
Q5. 先生が進路指導を行ううえで、生徒の進学先として大学のどのような点を重視していますか。あてはまるものをすべてに○をおつけください。
また、そのうち最も重視しているものを1つ選び、右下の回答欄に番号を記入してください。



※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

※カテゴリごと「2016年全体」降順ソート

- 設置者別にみると、【教育内容・制度】【ブランド性】を中心に私立の重視度が国公立に比べ高いものが多い。
・国公立の重視度が私立を上回るものは、「学費が高くないこと」など。
- 高校タイプ別にみると、普通科は【ブランド性】、総合学科は【教育内容・制度】【入試難易度】に重視度が高い項目が多い。



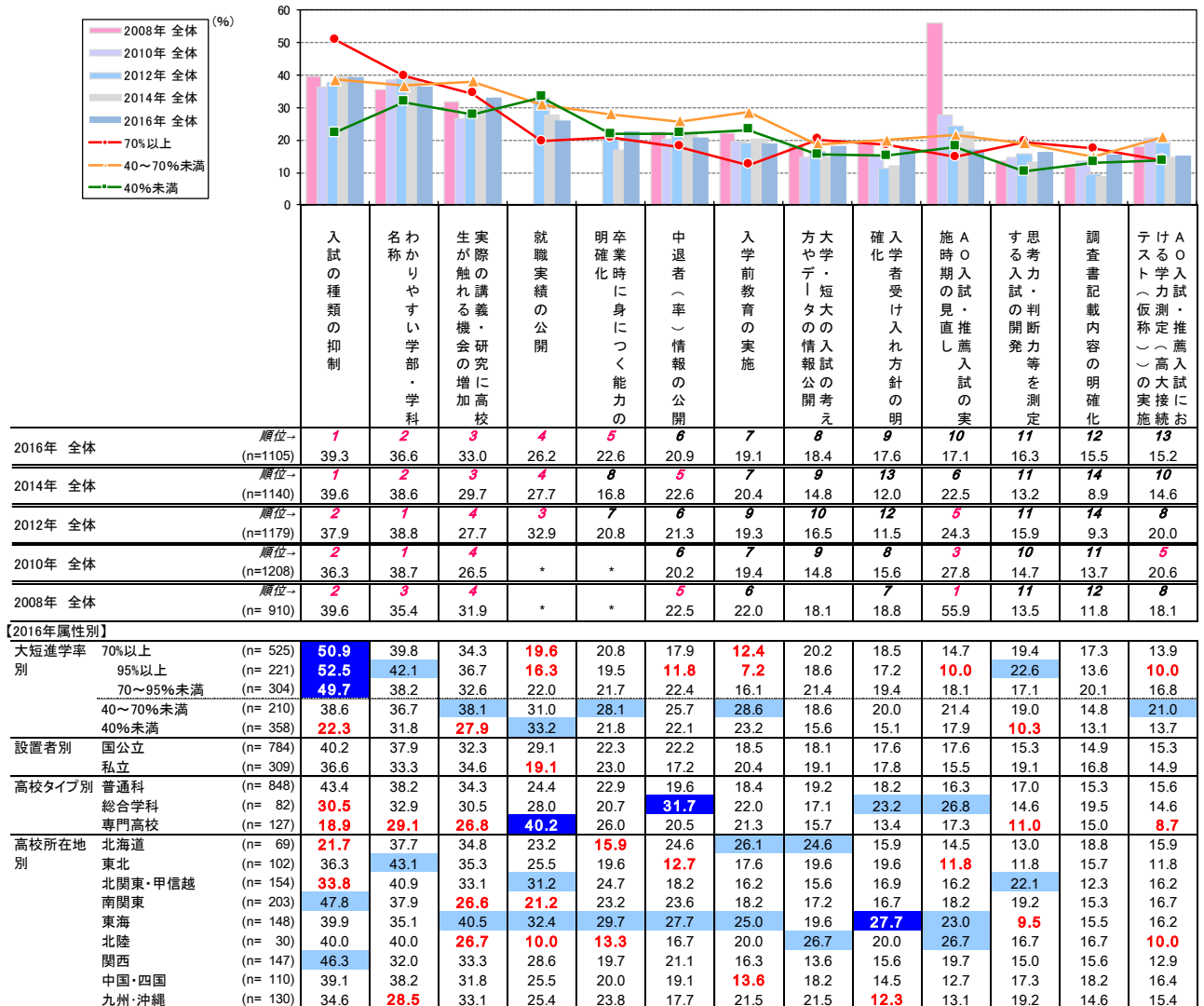
3) 高大接続・連携／大学・短期大学・文部科学省に期待すること

■最も期待するのは「入試の種類の抑制」、次いで「わかりやすい学部・学科名称」。

- 高大接続・連携の観点から大学・短大および文部科学省に期待することをたずねた。
トップは「入試の種類の抑制」(39%)、2位は「わかりやすい学部・学科名称」(37%)、3位は「実際の講義・研究に高校生が触れる機会の増加」(33%)。以下「就職実績の公開」(26%)、「卒業時に身につく能力の明確化」(23%)が続く。
- 上位4項目は前回と同様。「卒業時に身につく能力の明確化」は6ポイント上昇し、5位。
- 大短進学率別にみると、進学率により期待する内容はやや異なる。
70%以上校・40～70%未満校では「入試の種類の抑制」、40%未満校では「就職実績の公開」がトップ。
40～70%未満校は、「実際の講義・研究に高校生が触れる機会の増加」「卒業時に身につく能力の明確化」「入学前教育の実施」が他層に比べ高く、入学前に教育内容や身につく能力が把握できることを期待している。また「AO入試・推薦入試における学力測定の実施」が高い。
40%未満校は、「就職実績の公開」「推薦入試枠の拡大」「AO入試枠の拡大」が他層に比べ高く、就職情報や推薦枠の拡充を期待。

■ 高大接続・連携について大学・短期大学・文部科学省に期待すること（全体／複数回答）

Q23. 高大接続・連携の観点から、貴校が大学・短期大学および文部科学省に期待するのはどのようなことですか。あてはまるものすべてに○をおつけください。

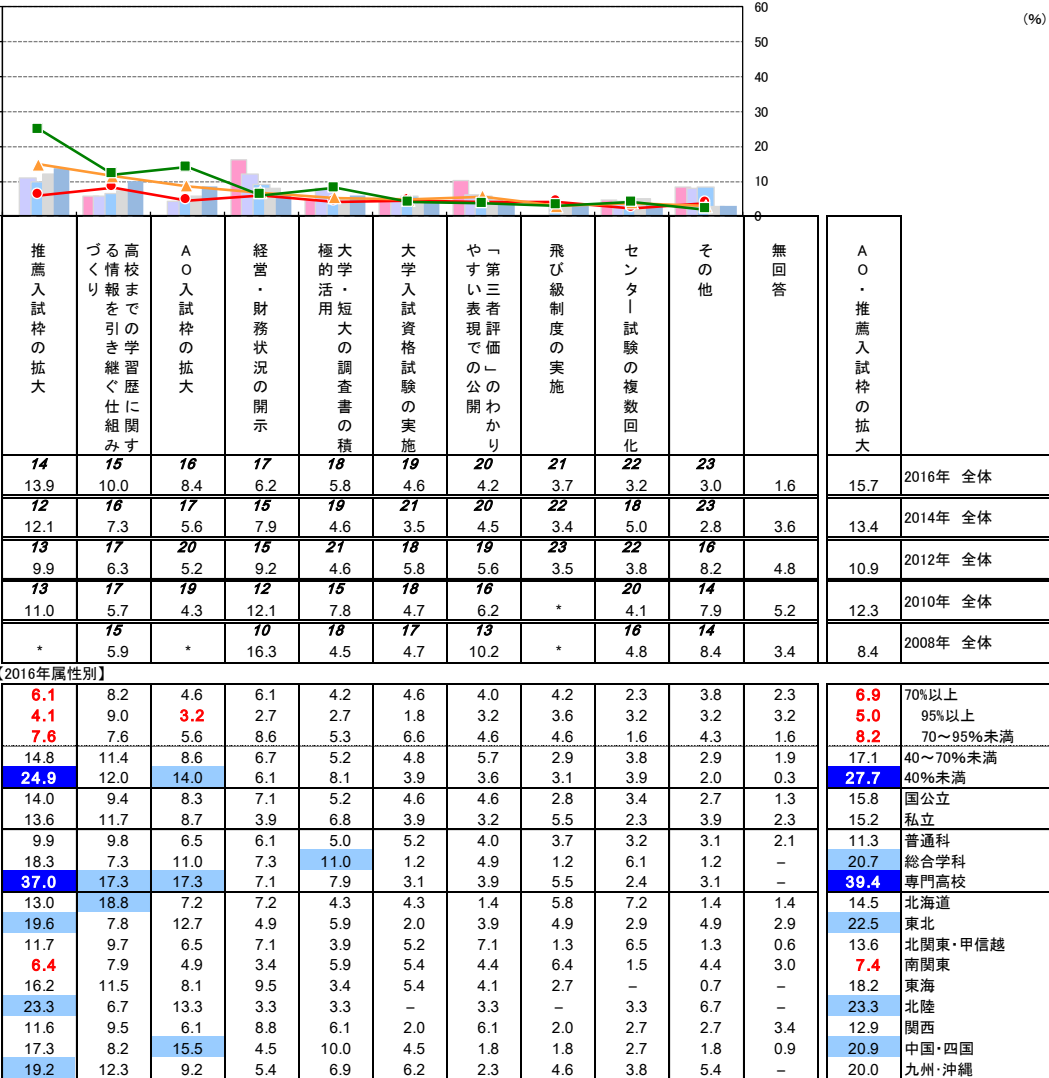


※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

※「2016年全体」降順ソート

Q23.01

- 設置者別にみると、国公立・私立ともトップは「入試の種類の抑制」。
- 高校タイプ別にみると、普通科のトップは「入試の種類の抑制」、2位は「わかりやすい学部・学科名称」。
総合学科のトップは「わかりやすい学部・学科名称」、2位は「中退者（率）情報の公開」。
専門高校のトップは「就職実績の公開」、2位は「推薦入試枠の拡大」。



4) 高専接続・連携／専門学校・行政に期待すること

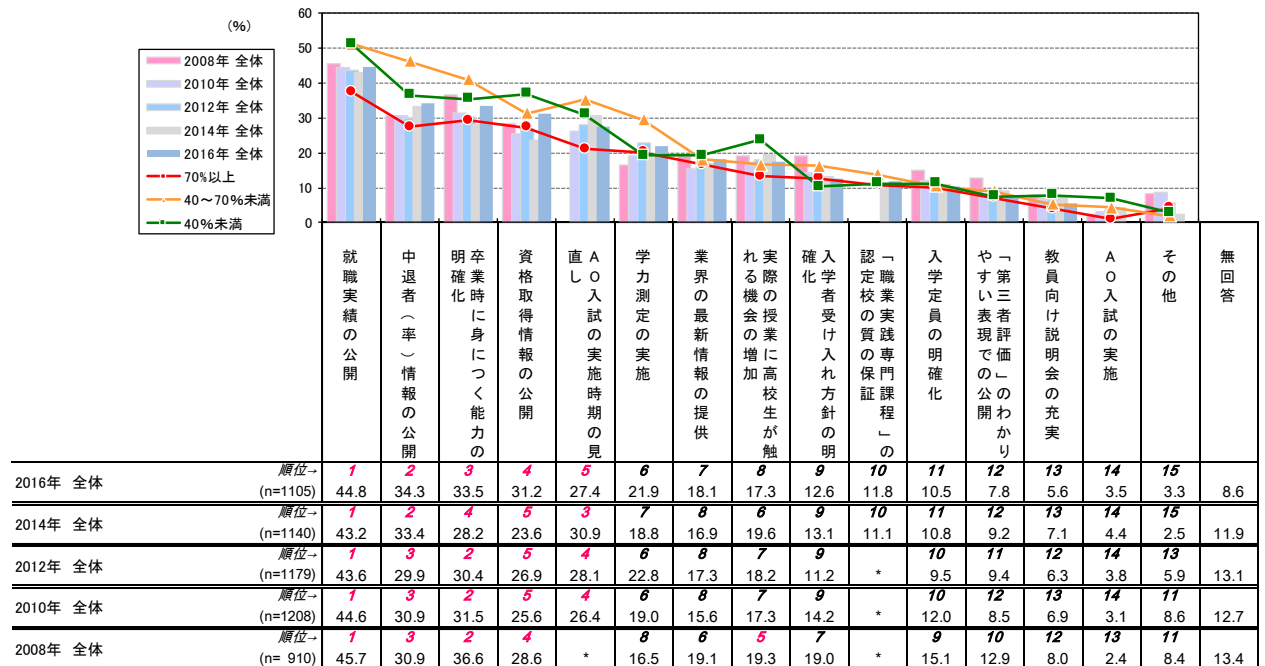
■最も期待するのは「就職実績の公開」、次いで「中退者(率)情報の公開」。

- 高専接続・連携の観点から専門学校および行政に期待することをたずねた。
トップは「就職実績の公開」(45%)、2位は「中退者(率)情報の公開」(34%)、3位は「卒業時に身につく能力の明確化」(34%)。以下、「資格取得情報の公開」(31%)、「AO入試の実施時期の見直し」(27%)が続く。
・「卒業時に身につく能力の明確化」「資格取得情報の公開」は前回よりスコアが上昇。

- 大短進学率別にみると、いずれもトップは「就職実績の公開」。
70%以上校は他層に比べ低い項目が多い。
40～70%未満校は、「就職実績の公開」「中退者(率)情報の公開」「卒業時に身につく能力の明確化」「AO入試の実施時期の見直し」「学力測定の実施」が他層に比べ高く、期待することが多い。
40%未満校は、トップの「就職実績の公開」「資格取得情報の公開」「実際の授業に高校生が触れる機会の増加」が他層に比べ高い。
- 設置者別にみると、国公立・私立ともトップは「就職実績の公開」。
- 高校タイプ別にみると、普通科・専門高校は「就職実績の公開」、総合学科は「中退者(率)情報の公開」がそれぞれトップ。

■高専接続・連携について専門学校・行政に期待すること（全体／複数回答）

Q24. 高専接続・連携の観点から、貴校が専門学校および行政に期待するのは、どのようなことですか。あてはまるものすべてに○をおつけください。



【2016年属性別】

大短進学率別	70%以上	(n= 525)	37.5	27.4	29.3	27.2	21.1	20.2	16.6	13.3	12.8	10.9	10.1	7.2	4.0	1.0	4.2	14.5
	95%以上	(n= 221)	26.2	14.0	25.3	19.9	9.0	17.6	12.7	12.7	11.8	7.7	5.4	4.5	4.1	0.5	5.9	25.8
	70～95%未満	(n= 304)	45.7	37.2	32.2	32.6	29.9	22.0	19.4	13.8	13.5	13.2	13.5	9.2	3.9	1.3	3.0	6.3
	40～70%未満	(n= 210)	51.4	46.2	41.0	31.4	35.2	29.5	18.1	16.7	16.2	13.8	10.5	9.0	5.2	4.3	1.9	3.8
40%未満	(n= 358)	51.4	36.6	35.5	36.9	31.0	19.3	19.3	23.7	10.3	11.2	11.2	7.5	7.8	7.0	2.8	2.8	
	国公立	(n= 784)	49.6	37.9	34.6	31.9	30.5	22.3	18.4	18.4	12.2	12.0	12.9	8.2	5.9	3.7	3.1	5.6
設置者別	私立	(n= 309)	32.4	24.3	31.1	29.4	18.4	20.1	16.2	14.9	13.6	10.4	4.5	6.5	4.5	3.2	3.9	16.2
高校タイプ別	普通科	(n= 848)	43.6	32.4	33.7	29.5	27.1	23.5	17.1	15.9	12.7	11.9	10.3	7.3	4.8	2.5	3.4	10.4
	総合学科	(n= 82)	45.1	46.3	35.4	41.5	36.6	20.7	24.4	24.4	14.6	17.1	6.1	7.3	12.2	7.3	1.2	-
	専門高校	(n= 127)	52.0	40.2	33.9	39.4	25.2	12.6	19.7	22.0	11.0	7.9	12.6	11.0	5.5	7.1	3.9	3.9
高校所在地別	北海道	(n= 69)	37.7	30.4	26.1	15.9	39.1	34.8	20.3	11.6	11.6	11.6	8.7	4.3	10.1	4.3	4.3	4.3
	東北	(n= 102)	47.1	29.4	36.3	33.3	27.5	23.5	11.8	18.6	9.8	12.7	10.8	10.8	4.9	2.0	4.9	6.9
	北関東・甲信越	(n= 154)	51.9	33.8	36.4	37.7	20.8	18.2	19.5	19.5	11.7	14.3	11.0	7.8	3.9	4.5	3.9	3.2
	南関東	(n= 203)	44.8	36.5	35.0	31.5	18.2	18.7	14.8	18.7	11.8	14.3	9.4	8.9	3.9	0.5	4.4	13.8
	東海	(n= 148)	42.6	35.8	39.9	33.1	35.8	21.6	23.0	19.6	14.2	8.1	13.5	6.8	6.8	6.1	2.0	6.8
	北陸	(n= 30)	23.3	33.3	20.0	26.7	23.3	26.7	10.0	13.3	10.0	6.7	10.0	3.3	3.3	3.3	-	6.7
	関西	(n= 147)	46.3	34.0	27.9	23.1	29.9	16.3	19.0	19.0	15.6	11.6	11.6	10.9	5.4	3.4	2.0	13.6
	中国・四国	(n= 110)	45.5	37.3	37.3	40.9	29.1	21.8	16.4	12.7	12.7	7.3	8.2	5.5	6.4	4.5	1.8	8.2
	九州・沖縄	(n= 130)	43.1	31.5	29.2	29.2	27.7	26.9	19.2	15.4	13.1	11.5	10.0	5.4	6.2	4.6	3.8	7.7

※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

※「2016年全体」降順ソート

Q24.01

【フリーコメント⑧】大学・短期大学との接続・連携、情報提供・公開についての意見や現状の課題

■生徒の学力を評価する入試の実施、AO入試・推薦入試の廃止

- AO・推薦をむやみに増やすと学力の低下につながる。[福島県/県立/普通科]
- 経営上やむをえないが、学生集めになり、学ぶ意欲のない学生を入学させている。学力を問う入試をしっかりとやってほしい。[長野県/県立/専門学科:商業]
- 入試は単純な方がよい。学ぶ所へ入るためなら、学力のみで、入試を実施すべき。見えないものを重視する入試は、努力する方向が不明確で、不公平である。[愛知県/県立/普通科]

■その他の入試方法について意見

- 大学入試がどんどん複雑になって、生徒、保護者、教員までもが把握できない。[東京都/都立/普通科]
- 様々な入試方法があってもよいのですが、少なくとも生徒の成長につながる入試であるべき。現行の入試も、センター試験+2次試験で、がんばっている生徒は多数おり、成長も感じられる。特段悪いものとは感じない。単純に入り易いための入試では生徒は育たない。がんばらない生徒にはそれなりの進路にすべき。[島根県/県立/普通科]
- アドミッションポリシーが建前になっている。もっと具体的に入試に直接結びつく内容にして欲しい。[三重県/県立/普通科]
- アクティブ・ラーニングで培われる能力を本当に評価できる入試になるのか。評価する入試を大学側に作る能力があるのか。[千葉県/私立/普通科]
- 高校教育に求めている内容がきちんと評価される入試制度の構築。[神奈川県/私立/普通科]
- 高校時代の探究活動などの学習履歴がもっと評価されても良いと思う！[宮崎県/私立/普通科]

■大学の就職実績の公開・公開方法の統一

- 大学の就職状況の明確な開示が必要。実態と就職率が乖離している大学があると思われる。[鹿児島県/私立/普通科]
- 就職実績の公開方法が学校によって異なっているので統一していただきたい。[熊本県/県立/専門学科:商業]
- 就職・資格合格など、実態を示すデータがほしい。[静岡県/県立/普通科]

■その他

- 地理的不利な状況を補うような仕組み作りを望む。[群馬県/県立/普通科]
- 大学が周りにない地域との連携。[北海道/町立/専門学科:農業]
- 思考力、判断力、表現力にとかく注目が集まるが、その土台となる活用すべき知識が軽視されているような感じでならない。[岡山県/県立/普通科]
- 入学については易化している大学も多いので、入学前もちろん、入学後の学びと力のつけ方についていっそうの工夫をしてほしい。[静岡県/私立/普通科]
- 特待、給費制入試の成績開示。[北海道/道立/普通科]

【フリーコメント⑨】専門学校との接続・連携、情報提供・公開についての意見や現状の課題

■生徒の学力を評価する入試の実施

- きちんと高校での学習内容が身につけていることを確める試験を実施してほしい。[東京都/私立/普通科]
- 学力測定をきちんとする。[愛知県/県立/普通科]

■その他の入試方法について意見

- 早くに合格内定を出す専門学校がありやめてほしい。合格すると安心して勉強しなくなるため。[愛媛県/県立/普通科]
- AO入試について、早いところでは6月・7月から面接等が行われ、8月には合格内定の通知が届く専門学校がある。合格が決った生徒の中には、その後の勉強への取り組みが疎かになってしまう者もいるので早くても9月以降に入試を行ってもらいたい。[高知県/県立/普通科]
- AO入試や推薦入試の制度について、一定の規制を設けていただきたい。オープンキャンパスや学校説明会時の特典制度の廃止を希望する。[熊本県/県立/専門学科:商業]
- 指定校の書式を統一してほしい。[奈良県/県立/普通科]

■専門学校の就職実績・資格取得の実績について

- 資格取得者の割合を分母を統一し公開してほしい。できれば分母は入学者数が望ましい。[東京都/都立/普通科]
- 得られた資格とそれにつづく就職との関連性を示してほしい。資格が活かされているかどうかを知りたい。[千葉県/県立/普通科]
- 専門学校卒業者の初任給、離職率などについて詳しく知りたい。[広島県/市立/普通科]
- どのようなことが学べ、どのような就職実績があるのかを、もっと細かく公表してほしい。教員向けオープンキャンパスを開いてほしい。[愛知県/私立/普通科]

第Ⅱ部 キャリア教育の実態

1. キャリア教育の実施状況

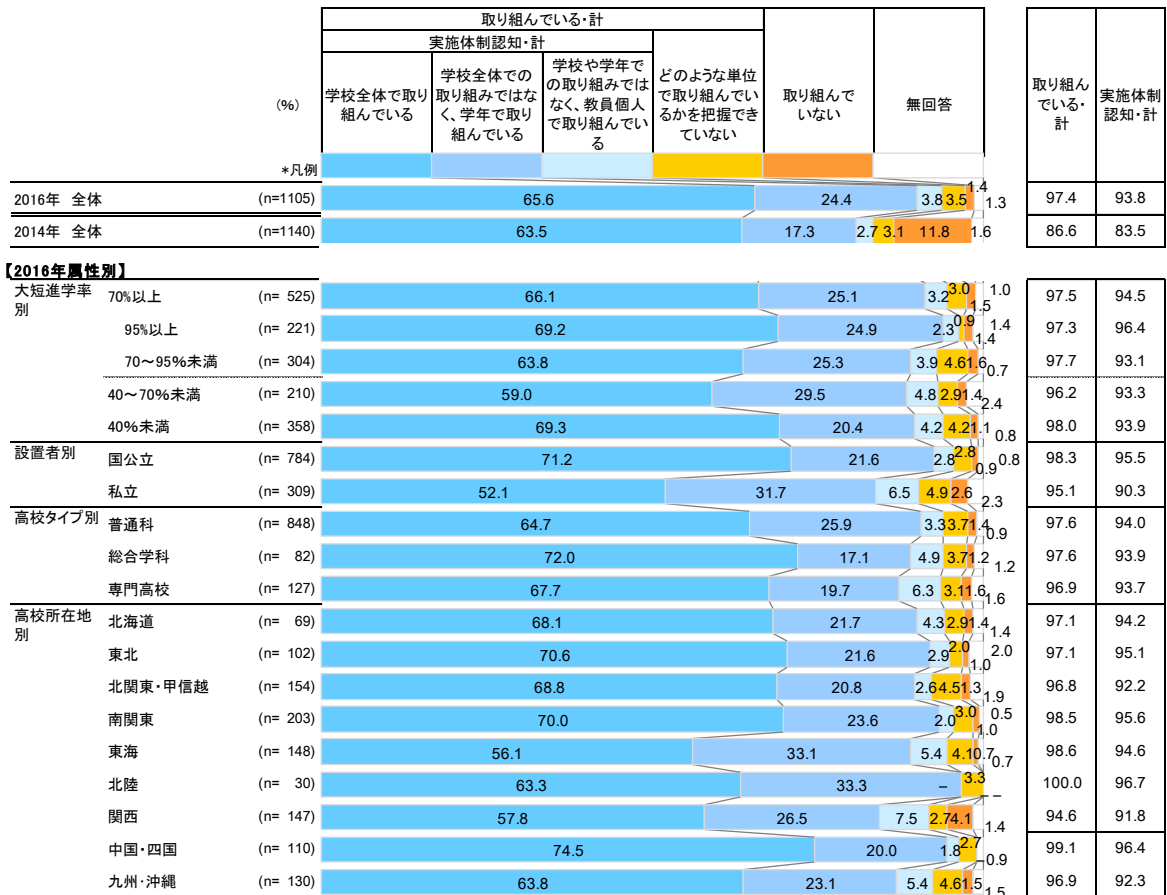
1) キャリア教育の実施体制

■学校全体での取り組みが66%、学年での取り組みが24%。
教員個人での取り組みなどを合わせると取り組んでいるのは97%

- 現在、キャリア教育の実施体制をたずねた。トップは「学校全体での取り組んでいる」(66%)、「学校全体での取り組みではなく、学年で取り組んでいる」(24%)。「学校や学年での取り組みではなく、教員個人で取り組んでいる」と「どのような単位で取り組んでいるかを把握できていない」まで合わせると、調査対象校の97%が「取り組んでいる」と回答。
- 前回から「取り組んでいる・計」は10ポイント以上上昇。「学校全体での取り組みではなく、学年で取り組んでいる」が7ポイント上昇しており、学年での取り組みが進んだようだ。(前回は「キャリア教育の実施」「キャリア教育の実施体制」の2設問でたずねているため、16年調査にあわせて再集計をおこなった)
- 大短進学率別にみると、いずれも実施率は95%以上。40～70%未満校は学年での取り組んでいる割合が他層に比べて高い。
- 設置者別にみると、ともに実施率は95%以上。国公立は私立に比べて「学校全体で取り組んでいる」が高い。
- 高校タイプ別にみると、いずれも実施率は95%以上。総合学科は「学校全体で取り組んでいる」が他層に比べて高い。

■キャリア教育の実施体制（全体／単一回答）

Q6. 貴校でのキャリア教育は、どの単位で取り組まれていますか。あてはまるもの1つに○をおつけください。



※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

※2014年調査では「キャリア教育の実施」「キャリア教育の実施体制」の2設問で尋ねた。2016年調査に合わせて再集計をおこなった。

Q6.01

2) キャリア教育実施時間

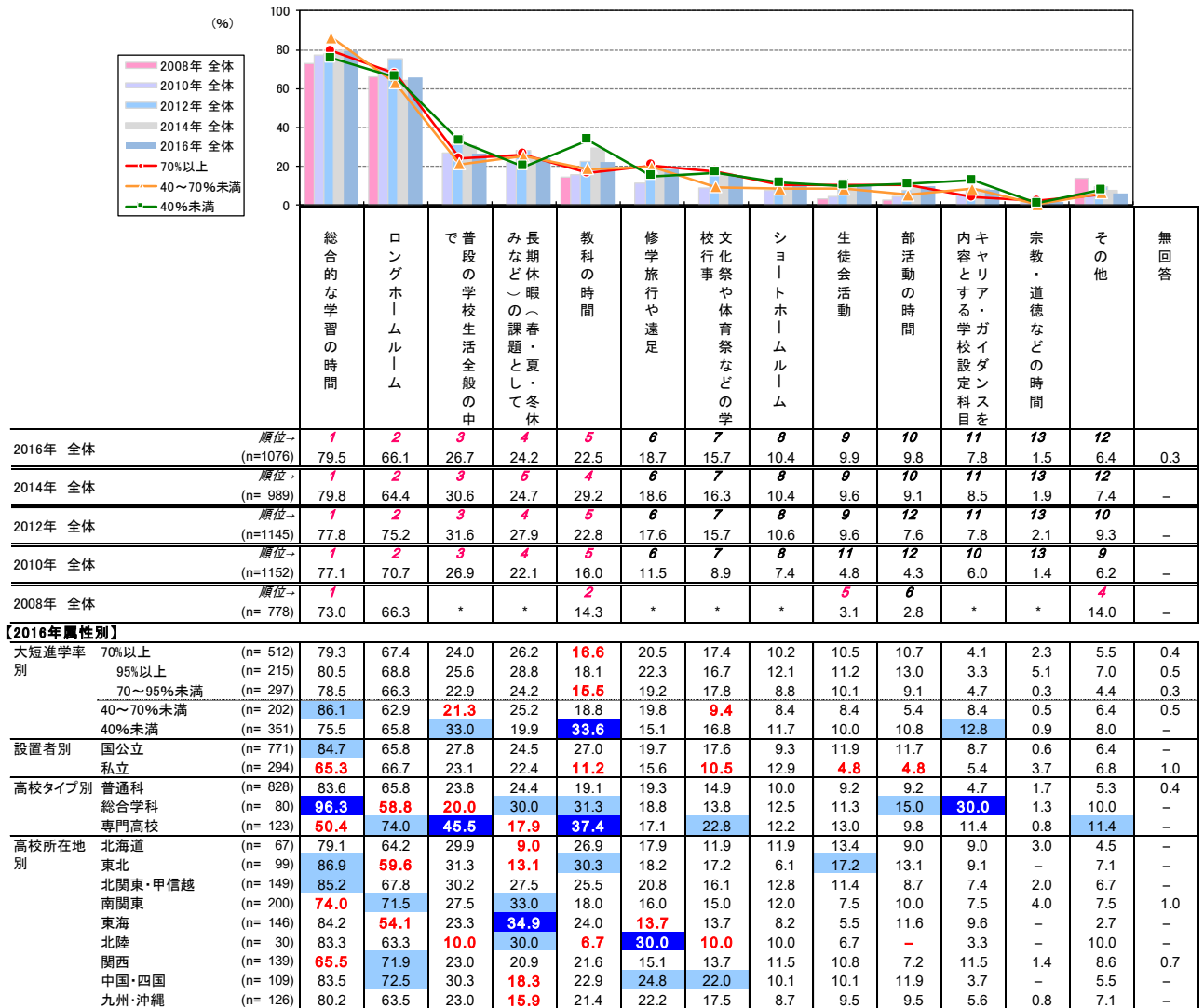
■キャリア教育の実施時間は、「総合的な学習の時間」「ロングホームルーム」が上位。

■その他、普段の学校生活・長期休業・日常の教科・部活動や行事など幅広い時間に実施されている。

- キャリア教育の実施時間をすべて選んでもらった。トップは「総合的な学習の時間」(80%)、2位「ロングホームルーム」(66%)。以下、「普段の学校生活全般の中で」(27%)、「長期休暇の課題として」(24%)、「教科の時間」(23%)。
- 上位2項目は10年以降と同様。10年以降上昇してきた「教科の時間」は23%と今回やや低下。「普段の学校生活全般の中で」も前回に続き低下しており、日常の教科・生活へのキャリア教育の広がりはやや伸び悩みがみられる。
- 大短進学率別にみると、いずれも「総合的な学習の時間」「ロングホームルーム」が上位。40%未満校では「普段の学校生活全般の中で」「教科の時間」「キャリア・ガイダンスを内容とする学校設定科目」の実施率が他層に比べ高い。
- 設置者別にみると、国公立は「総合的な学習の時間」(85%)が突出。私立は1位「ロングホームルーム」(67%)、2位「総合的な学習の時間」(66%)が僅差で続く。
- 高校タイプ別にみると、普通科・総合学科は「総合的な学習の時間」、専門高校は「ロングホームルーム」がそれぞれトップ。

■キャリア教育実施時間（キャリア教育実施／複数回答）

Q7. 貴校では、キャリア教育をどの時間で実施していますか。あてはまるものすべてに○をおつけください。



※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

※「2016年全体」降順ソート

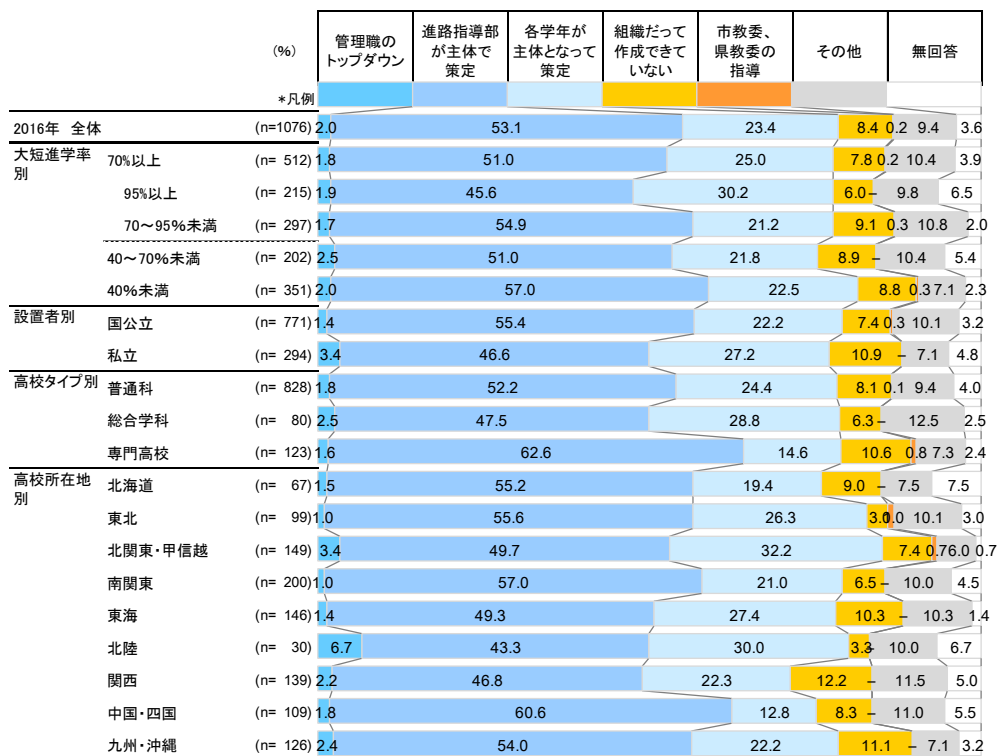
3) キャリア教育計画の立案

■キャリア教育の計画は、「進路指導部が主体で策定」が53%と過半数。 次いで「各学年が主体となって策定」。

- キャリア教育実施校にキャリア教育計画の立案を誰がおこなっているかをたずねた。トップは「進路指導部が主体で策定」(53%)。次いで「各学年が主体となって策定」(23%)。
- 大短進学率別にみると、いずれも「進路指導部が主体で策定」が最も高い。
・ 95%以上校は「各学年が主体となって策定」が他層に比べて高い。
- 設置者別にみると、いずれも「進路指導部が主体で策定」が最も高い。国公立は同項目が私立に比べて高い。
- 高校タイプ別にみると、いずれも「進路指導部が主体で策定」が最も高い。専門高校は同項目が他層に比べて高い。

■キャリア教育の計画立案（キャリア教育実施／単一回答）

Q8. 貴校におけるキャリア教育の具体的な取り組みは、どなたが計画立案されていますか。あてはまるもの1つに○をおつけください。



Q8_01

2.キャリア教育の評価

1) キャリア教育の評価実施状況

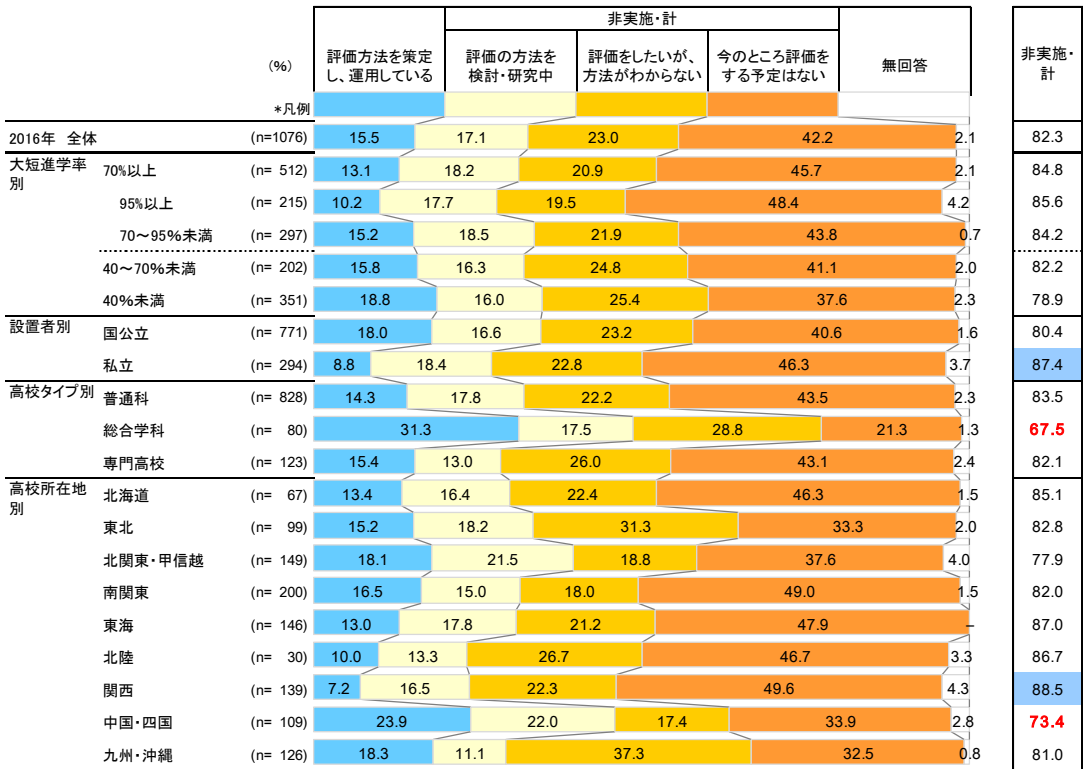
■現在、キャリア教育評価方法を策定・運用しているキャリア教育実施校は16%。

■キャリア教育実施校の40%に評価実施の意向がみられる。

- 自校のキャリア教育評価について実施状況をたずねた。
キャリア教育実施校の16%が「評価方法の策定し、運用している」と回答。
「評価の方法を検討・研究中」は17%、「評価をしたいが、方法がわからない」(23%)を合わせると、40%が評価実施の意向あり。
- 大短進学率別にみると、進学率が低い高校ほど運用している割合が高い。
- 設置者別にみると、「運用している」は国公立が18%、私立が9%であり、国公立のほうが運用している割合が高い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科は「運用している」(31%)が最も高い。
・「運用している」は、普通科が14%、専門高校が15%。

■キャリア教育の評価状況（キャリア教育実施／単一回答）

Q9. 現在、貴校における「キャリア教育の評価」についてあてはまるもの1つに○をおつけください。



※「2016年 全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / 5.0 5pt以上低い

Q9_01

【フリーコメント⑩】キャリア教育評価の指標・方法

【大短進学率70%以上】

- 活動の内容を記入し、「～を身につけた」「取り組んだ」としている(総学の評価)。5段階評価はしていない。
[山口県/県立/普通科]
- キャリア・プログラムごとに、感想やレポートをまとめさせ、自らを振り返ることで、成果を確かめる機会としている。
[神奈川県/私立/普通科]
- キャリア教室全体像をふまえ、各部所での月別計画の策定。人間関係・社会形成・自己理解自己管理・課題対応キャリアプランニング能力の4つの視点。[奈良県/私立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- 教科「産業社会と人間」においては、・学問調べ、・職業人インタビュー、・ライフプラン作成などといった活動における取り組みへの意欲、完成度、発表時のプレゼン能力(PC等機器の運用も含め)などを総合的に評価しています。
[北海道/道立/総合学科]
- 論文(8000字)の内容、プレゼンテーションの出来などを、それぞれ3段階評価、生徒13人を担当者がゼミとして担当、指導。
[兵庫県/県立/総合学科]

【大短進学率40%未満】

- キャリア教育の内容に応じて ①ハート力(心の力) ②キャッチ力(とらえる力) ③アピール力(伝える力) ④チャレンジ力(挑戦する力)の4つの指標で評価している。[山形県/県立/総合学科]
- 能力、意欲、実績で項目別に評価し一覧化している。AO・推薦入試対策指導に生かしている。[岡山県/県立/普通科]
- 取組みの姿勢、発展をABC三段階評価。自己の進路研究に活用している。[長野県/県立/普通科]
- インターンシップなどの就業訓練(体験)では行っていないが、ワーキングプログラム(長期就業訓練(体験))では企業の方に取り組み状況を聞き、評価としている。[東京都/都立/専門学科:工業]

【フリーコメント⑪】キャリア教育評価を検討・研究中の理由／評価予定はない理由

■キャリア教育の評価を検討・研究中の理由

【大短進学率70%以上】

- キャリア教育のねらいに対して、どのような力を適切に生徒が身につけることができたかを測るため。[北海道/道立/普通科]
- 評価基準をつくるのが困難。[茨城県/私立/普通科]
- キャリア教育にあてられる時間が少なく、評価以前の課題が多い。[福島県/私立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- しっかりと成果がでているのか確認し、フィードバックし改善する必要があるから。[東京都/都立/普通科]
- 社会人基礎力や基礎的汎用的能力といったものを養成するとして、どのような活動によってどう数値化、評価していくかというように中身の検討もあわせて必要となるので、評価の方法の検討のみならず、キャリア教育の内容の検討も必要。
[群馬県/私立/普通科]
- キャリア教育の評価は、一律に行うことは困難であるため。[栃木県/県立/普通科]

【大短進学率40%未満】

- 従来行われてなかったが、自分が進路指導主事になったことをきっかけに行っていきたい。より、説得力のあるキャリア教育指導をすすめていきたい。[大阪府/府立/総合学科]
- 高校卒業時の進路が、キャリア教育の全てではないので、進学・就職という進路の中で、どのように評価を下せば良いのか非常に難しいことだと思います。[栃木県/県立/専門学科:工業]

■キャリア教育の評価予定はない理由

【大短進学率70%以上】

- キャリア教育のみに限定し、その教育が何をもたらしたかを評価することができないので。その評価には10年以上の長いスパンが必要で、高校や単一校などでの分析、評価力の限界を超えている。[岐阜県/県立/普通科]
- キャリア教育、職場実習、をすでに2年次で実施しており生徒の進路選択に結びつけている。3年次の推せんAO入試の面接や志望理由書においても、書ける、話せるという段階にまで、達しており有効に機能している。あらためて、評価する必要はないと考える。[山口県/県立/普通科]
- その時間を体験させること自体に意味があるのであって、評価の必要はない。加えて、評価まですることになると職員の多忙感増！[宮崎県/県立/普通科]
- 1つの尺度で測れるものではないと思う。[佐賀県/県立/普通科]

●大短進学率40～70%未満】

- PDCAサイクルで検討改善が望ましいが、十分な準備をする人員と時間不足。[群馬県/県立/普通科]

【大短進学率40%未満】

- 評価の方法が不明確であるため。[福島県/県立/総合学科]
- 「キャリア教育」は通常の教育活動の中で常時実施することの1つだと思います。わざわざそのために取り組むというよりは、高校生が卒業後、どのような人生を送るのか、それを教員はイメージしながら教育活動に取り組んでいます。
[和歌山県/県立/普通科]

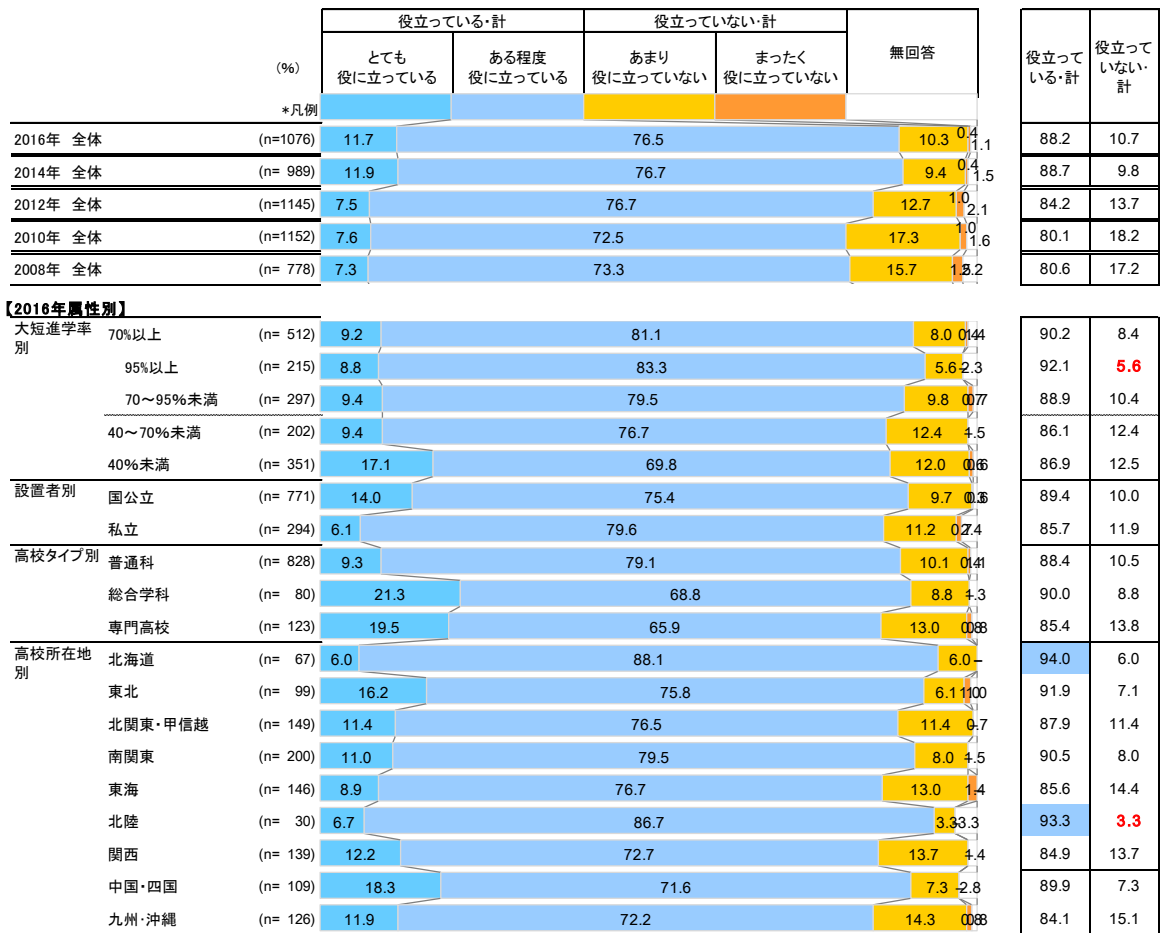
2) キャリア教育の役立ち度

■キャリア教育実施校の88%がキャリア教育は生徒にとって「役に立っている」と感じている。

- 自校のキャリア教育は生徒にとってどの程度役に立っていると思うか、その効果をたずねた。
「とても役に立っている」はキャリア教育実施校の12%、「ある程度役に立っている」を合わせた「役立っている・計」は88%。
- 「とても役に立っている」および「役立っている・計」は前回と同程度。
- 大短進学率別にみると、「役立っている・計」はいずれも約9割。
・ 40%未満校は「とても役に立っている」(17%)が他層に比べ相対的に高い。
- 設置者別にみると、国公立は「とても役立っている」が14%と私立(6%)に比べて相対的に高い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科と専門高校は「とても役立っている」が普通科に比べて相対的に高い。

■キャリア教育の役立ち度（キャリア教育実施／単一回答）

Q10. 総合的にみて、貴校のキャリア教育は生徒にとってどの程度役に立っていると思いますか。あてはまるもの1つに○をおつけください。



※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

Q10.01

3) キャリア教育の推進を難しくしている要因

■「教員の負担の大きさ」が突出。

■教員の業務負担の増大がキャリア教育推進を阻害している。

- キャリア教育実施校・非実施校の両方に、自校でキャリア教育を進めていくにあたり「難しくしている」と思われる要因をすべて選んでもらった。トップは「教員の負担の大きさ」(65%)。2位「実施時間の不足」(48%)、3位「教員間の共通認識不足」(42%)、4位「教員の知識・理解不足」(40%)と続く。

・最も重視する点としても、「教員の負担の大きさ」(27%)が1位。

- 前回に比べて、「教員の知識・理解不足」はスコアが下がり、「教員間の共通認識不足」が順位を上げた。

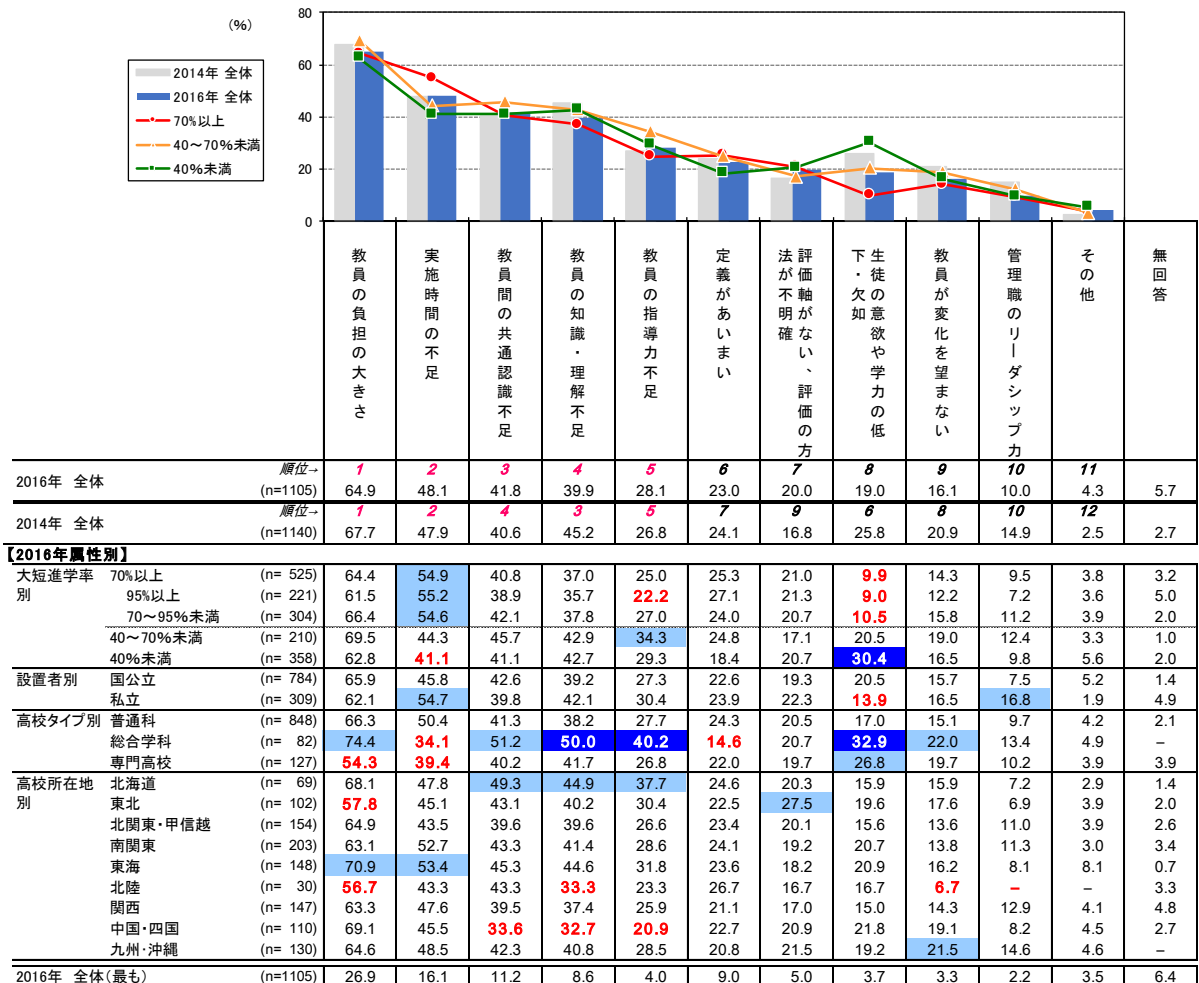
- 大短進学率別にみると、いずれもトップは「教員の負担の大きさ」が突出。進学率70%以上校は「実施時間の不足」、40～70%未満校は「教員の指導力不足」、40%未満校は「生徒の意欲や学力の低下・欠如」がそれぞれ相対的に高い。

- 設置者別にみると、いずれもトップは「教員の負担の大きさ」。私立は国公立に比べて「実施時間の不足」「管理職のリーダーシップ」が相対的に高い。

- 高校タイプ別にみると、いずれもトップは「教員の負担の大きさ」。総合学科は他層に比べて高い全般にスコアが高い。

■キャリア教育を難しくしている要因（全体／複数回答）

Q11. 今後、貴校においてキャリア教育を進めていくにあたり、「難しくしている」と思われる要因としてあてはまるものすべてに○をおつけください。



※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

※「2016年全体」降順ソート

Q11.01

【フリーコメント⑫】キャリア教育の推進を難しくしている最大要因:そう思う理由

■教員の負担の大きさ

【学校全体でのキャリア教育取り組み校】

- キャリア教育の中でインターンシップなど外部との連携活動では、受入先の開拓、事前・事後の指導、準備に多くの時間が必要となる。[岡山県/県立/総合学科]
- 身につけさせたい能力を育むためにはきめ細やかなフィードバックが必要で、人手が掛かる。[秋田県/県立/普通科]
- もっと、生徒たちへ投げかけていきたいが、日々の仕事に対して、負担が大きいので悩んでいるところ。[福岡県/県立/普通科]
- 教員は、従来の教科指導に加え、入試の多様化、求められる学力の変化への対応に追われている。[茨城県/私立/普通科]
- 系統的・段階的な3年間のキャリア教育のカリキュラムを企画、実行、評価するには、ある程度大きな工数と知識が必要となるが、それを専任として担当できる教員がいない。[京都府/府立/普通科]

【学年でのキャリア教育の取り組み校】

- 3年間系統立ててキャリア教育を実施していますが、本来の授業研究・教材研究の時間ほとんど取れず、負担の大きさを感じています。[群馬県/県立/専門学科:工業]
- 学校の規模が小さく、キャリア教育に対する分掌化、プロジェクトチームの組織づくりなどが不可能で、実質担任団がやりくりしている。また異動が早くなった関係で、過去の取り組みが蓄積・継承されにくくなっている。[大分県/県立/普通科]

■実施時間の不足

【学校全体でのキャリア教育取り組み校】

- 総合学習、ロングホームルーム、の時間が限られ継続的な「進路学習」ができない。[三重県/県立/普通科]
- LHRの授業だけではなかなか丁寧にはできない。[兵庫県/県立/普通科]
- 学校・その他の行事が多すぎて、進路に関する行事が入りにくい。[静岡県/県立/専門学科:工業]
- 進学校であるため、受験指導や教科の授業に時間を取られてしまう。[埼玉県/県立/普通科]
- 学習時間でさえ確保できていないのに、キャリア教育にかける時間を増やすことはできない。[愛媛県/県立/普通科]
- 時間割が教科数増でびっしり埋ってしまっている。LHRも他の行事、指導との関わりで進路用の時間も増やせない状態にある。[北海道/道立/普通科]
- 生徒の意識が低い、浸透させるのに時間がかかる。丁寧に一人一人を見るには、現状では時間が足りない。[鹿児島県/私立/普通科]
- 大学受験への対応、生徒・保護者への個々の対応、行事などなかなかキャリア教育を今以上にいていくには時間がない。[神奈川県/私立/普通科]

【学年でのキャリア教育の取り組み校】

- 大学進学等の目先の問題に生徒は強く意識をもっていかれている。その中で、結果の見えにくいキャリア教育を行うための時間が足りない。[千葉県/県立/普通科]
- 入試の多様化に対応するためにもこれ以上の時間を割けない。[広島県/私立/普通科]

■教員の知識・理解不足

【学校全体でのキャリア教育取り組み校】

- キャリア教育は、単なる出口指導であるにとらえている教員がかなり多いように思われる。[埼玉県/県立/総合学科]
- 進学部が教員が決まった時間に行う進路指導だけがキャリア教育という認識の教員が多い。[千葉県/県立/普通科]
- なぜ、キャリア教育が必要なのか理解できない教員が多い。だから、各々の授業でキャリア教育に関することを取り上げられずにいるのでは？[栃木県/県立/総合学科]
- 一般企業で働いたことのない職員が多いため、なかなか指導ができない。[兵庫県/県立/その他]

【学年でのキャリア教育の取り組み校】

- キャリア教育を単なる出口指導にとらえている教員が多く、進路指導部主体の進路行事に対しても「やらされている感」が教員自身にある。[青森県/県立/普通科]
- 市販のワークなどを活用しているが、指導方法にノウハウがなく、試験で結果をフィードバックできる教科と違ってよりよいやり方への道筋が見えない。[福島県/私立/普通科]
- 知識や教養は高いレベルで身につけているが、自分の専門外のことについては、わからないまま指導しようとしている。[埼玉県/県立/普通科]

■教員間の共通認識不足

【学校全体でのキャリア教育取り組み校】

- 各人色々な認識を持っており、コンセンサスを取るのが難しい。[神奈川県/県立/普通科]
- 教員が独自の考えを基にキャリア教育を行っているため、学校全体の雰囲気作りが作りにくい、生徒の意欲や成果の欠如にもつながっていると思われる。[東京都/都立/普通科]
- 様々な教員が様々なキャリアをもっていて、考え方にバラつきが生じる。[三重県/県立/普通科]

【学年でのキャリア教育の取り組み校】

- 実施時間も不足しているが、育てたい生徒像をはっきりしていないため、教員が共通認識を持って取り組む体制ができていない。[静岡県/県立/普通科]

【教員個人でのキャリア教育の取り組み校】

- 必要性を感じている教員、感じていない教員がおり、感じている教員も誰かが中心になってくれないものかと考えているので、何も進まない。[宮城県/私立/普通科]

■教員の指導力不足

【学校全体でのキャリア教育取り組み校】

- キャリア教育の本質を理解していない教員が多いと思われる。[鹿児島県/市立/専門学科:商業]
- 教員の異動が毎年行われるので、統一された(またはレベルを維持した)カリキュラムを組みにくい。[鹿児島県/県立/普通科]

【学年でのキャリア教育の取り組み校】

- キャリア教育を学年全体で行うだけでなく、担任一人一人がクラスで指導するレベルまで持っていくことが難しい。[福井県/県立/普通科]

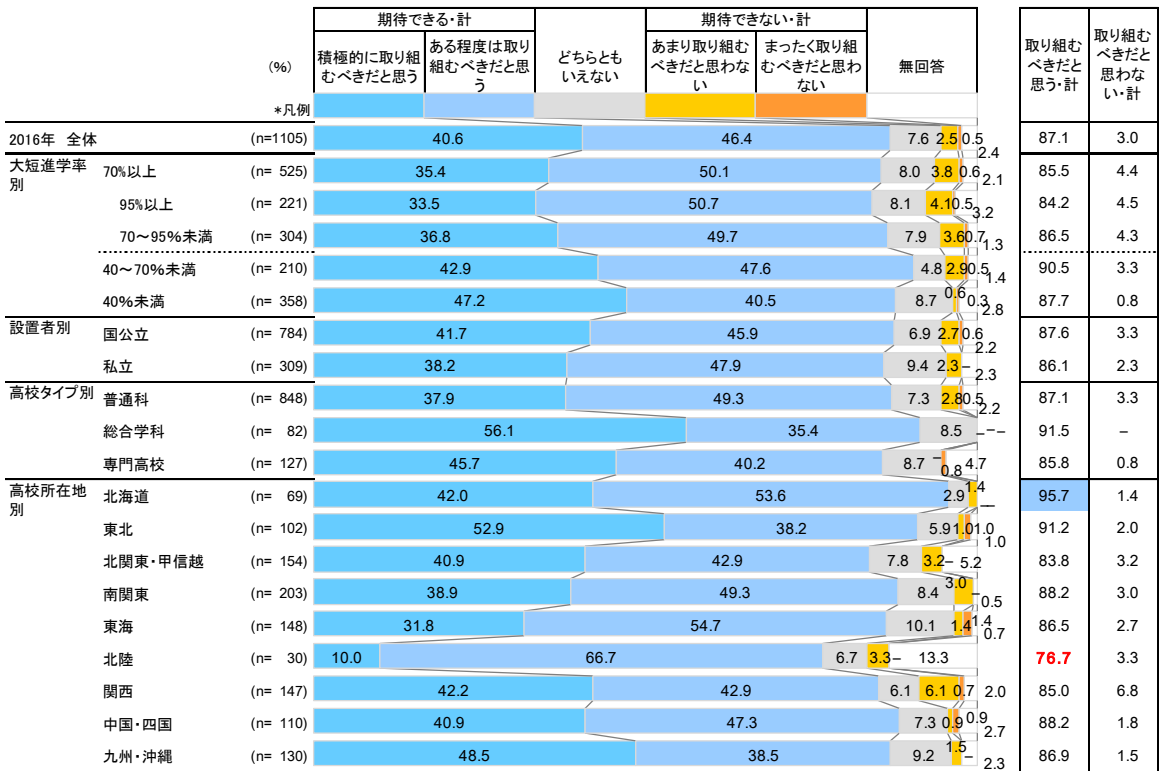
4) キャリア教育の今後の位置づけについての考え

■87%がキャリア教育に取り組むべきと回答。

- キャリア教育の今後の位置付けについてたずねたところ、「積極的に取り組むべきだと思う」は41%、「ある程度は取り組むべきだと思う」(46%)を合わせた「取り組むべきだと思う・計」は87%。
- 大短進学率別にみると、進学率が低いほど「積極的に取り組むべきだと思う」が高い。
- 設置者別には大きな差異はみられない。
- 高校タイプ別にみると、総合学科は「積極的に取り組むべきだと思う」が他層に比べて相対的に高い。

■キャリア教育の今後の位置付け（全体／単一回答）

Q12. 先生ご自身は、キャリア教育の今後の位置付けについてどう考えていらっしゃいますか。あてはまるもの1つに○をおつけください。



※「2016年 全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

5) 生徒に将来必要とされる社会人基礎力と生徒が現在持っている社会人基礎力

■将来必要な力は「主体性」(60%)、「課題発見力」(44%)、「実行力」(35%)。

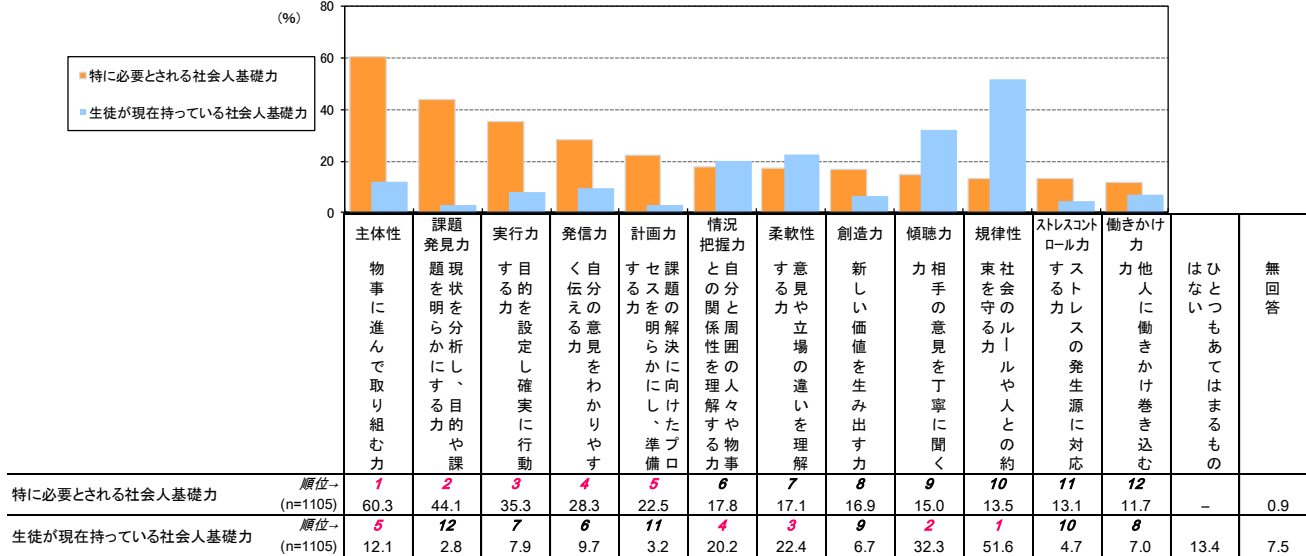
■現在持っている力は「規律性」(52%)、「傾聴力」(32%)、「柔軟性」(22%)。

■生徒に将来必要な能力は、現在はいずれもまだ備わっていないという認識。

- 調査対象全員に、経済産業省で定義されている『社会人基礎力』:12の能力要素のうち、生徒にとって「将来、社会で働くにあたり特に必要とされる能力」と「現在持っている能力」を、それぞれ3つまで選んでもらった。
- 生徒に将来必要な能力は、「主体性:物事に進んで取り組む力」(60%)がトップ。以下、「課題発見力:現状を分析し、目的や課題を明らかにする力」(44%)、「実行力:目的を設定し確実に行動する力」(35%)、「発信力:自分の意見をわかりやすく伝える力」(28%)、「計画力:課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力」(23%)が続く。
- 生徒が現在持っている能力は、「規律性:社会のルールや人との約束を守る力」(52%)が突出。以下、「傾聴力:相手の意見を丁寧に聞く力」(32%)、「柔軟性:意見や立場の違いを理解する力」(22%)、「状況把握力:自分と周囲の人々や物事との関係を理解する力」(20%)、「主体性:物事に進んで取り組む力」(12%)が続く。
- 将来の必要な能力と現在持っている能力とのスコア差をみると、「主体性」「課題発見力」は将来の必要性は高いが現在の達成度は低い(いずれもスコア差は40ポイント以上)。この他、「実行力」「発信力」「計画力」「創造力」「ストレスコントロール力」も将来必要とされるスコアを下回る。
 - ・「将来必要」と「現在持っている」とのスコア差がおおむね一致しているのは、「状況把握力」「柔軟性」の2能力。

■特に必要とされる・生徒が現在持っている社会人基礎力（全体／各3つまで回答）

Q13. 経済産業省で定義されている社会人基礎力の12の能力要素のうち、生徒が将来社会で働くにあたり、「特に必要とされる能力」はどのようなものだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んで、回答欄に番号をお書きください。
また、「生徒が現在持っている」と思うものについて3つまで選んで、回答欄に番号をお書きください。



※「必要とされる社会人基礎力」降順ソート

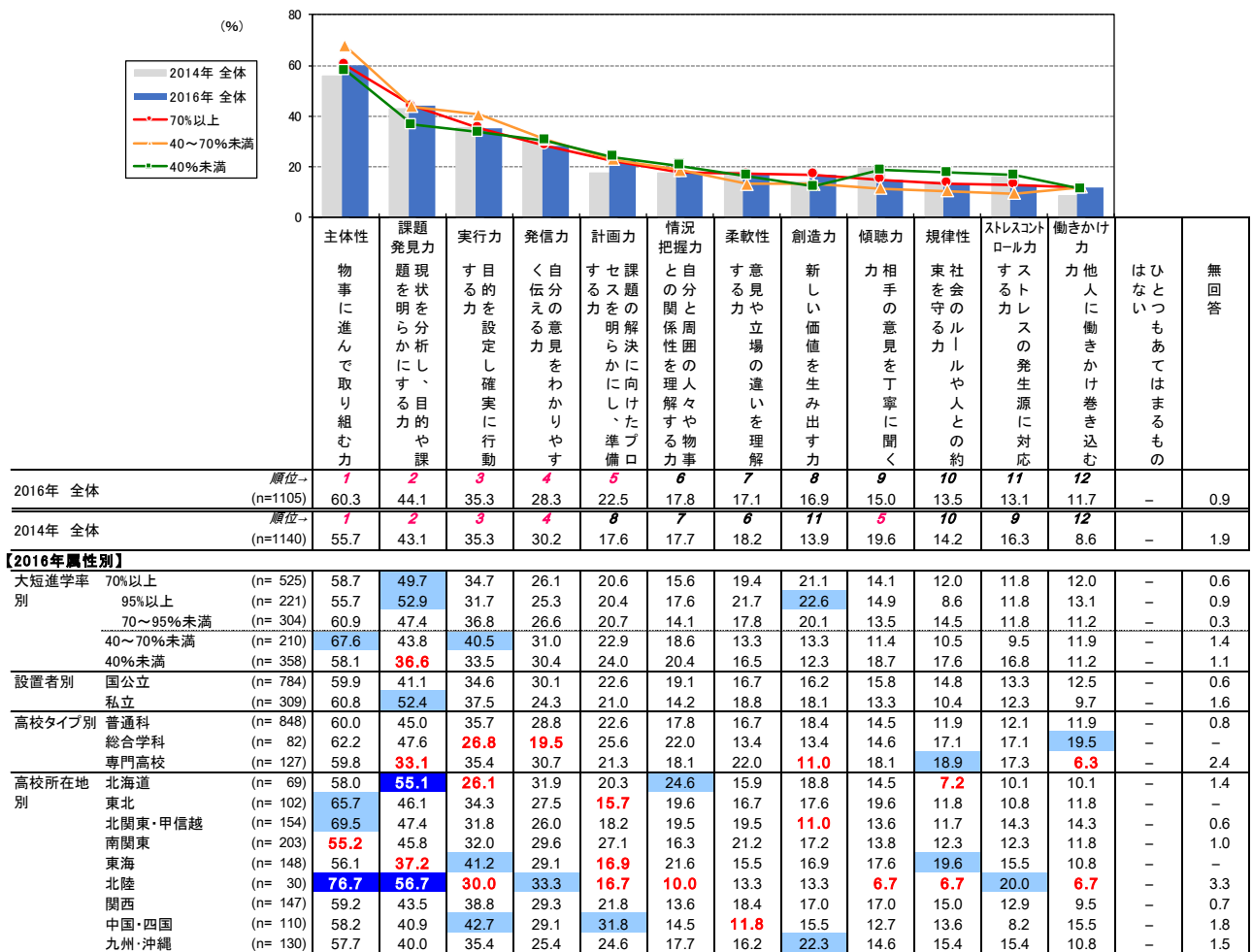
Q13.02

将来特に必要とされる社会人基礎力

- 前回と比べると「計画力」は5ポイント上昇し、5位。その他の上位項目については大きな変化はみられない。
- 大短進学率別にみると、いずれもトップは「主体性」。
進学率が高い高校ほど「課題発見力」の必要との認識が高い。
・40～70%未満校は「主体性」「実行力」が必要との認識が他層に比べ相対的に高い。
- 設置者別にみると、私立は「課題発見力」が国公立に比べて相対的に高い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科は「働きかけ力」、専門高校は「規律性」が他層に比べて相対的に高い。

■特に必要とされる社会人基礎力（全体／3つまで回答）

Q13. 経済産業省で定義されている社会人基礎力の12の能力要素のうち、生徒が将来社会で働くにあたり、「特に必要とされる能力」はどのようなものだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んで、回答欄に番号をお書きください。また、「生徒が現在持っている」と思うものについて3つまで選んで、回答欄に番号をお書きください。



※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

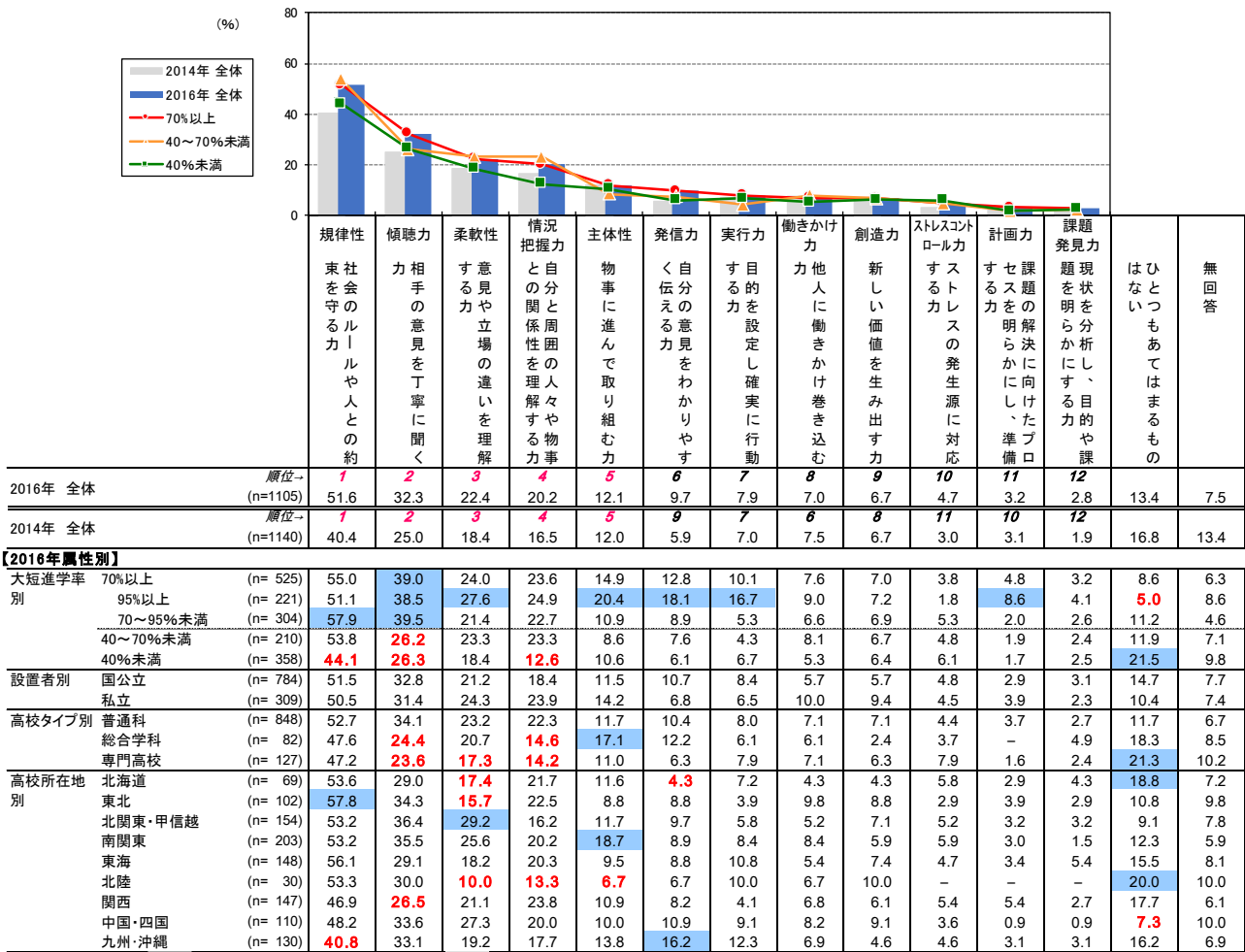
※「2016年全体」降順ソート

現在持っている社会人基礎力

- 前回と比べると、上位5項目は前回と同様だが、「規律性」「傾聴力」のスコアが上昇した。
- 大短進学率別にみると、いずれもトップは「規律性」。上位5項目は順位の違いはみられるものの同じ項目が並ぶ。70%以上校は、「傾聴力」が高いほか、他層に比べて相対的に高い項目が多い。
- 設置者別には、顕著な差異はみられない。
- 高校タイプ別にみると、総合学科は「主体性」が他層に比べて相対的に高い。普通科は、上位項目について他層に比べて相対的に高い項目が多い。

■生徒が現在持っている社会人基礎力（全体／3つまで回答）

Q13. 経済産業省で定義されている社会人基礎力の12の能力要素のうち、生徒が将来社会で働くにあたり、「特に必要とされる能力」はどのようなものだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んで、回答欄に番号をお書きください。また、「生徒が現在持っている」と思うものについて3つまで選んで、回答欄に番号をお書きください。



※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

※「2016年全体」降順ソート

Q13.2.01

第Ⅲ部 授業改善の取り組み

1. アクティブラーニングの視点による授業への取り組み

1) アクティブラーニングの視点による授業の実施状況

■全体の93%がアクティブラーニングの視点による授業に取り組んでいる。

■取り組み方の最多は「教員個人で取り組んでいる」であり、個人での取り組みが先行している。

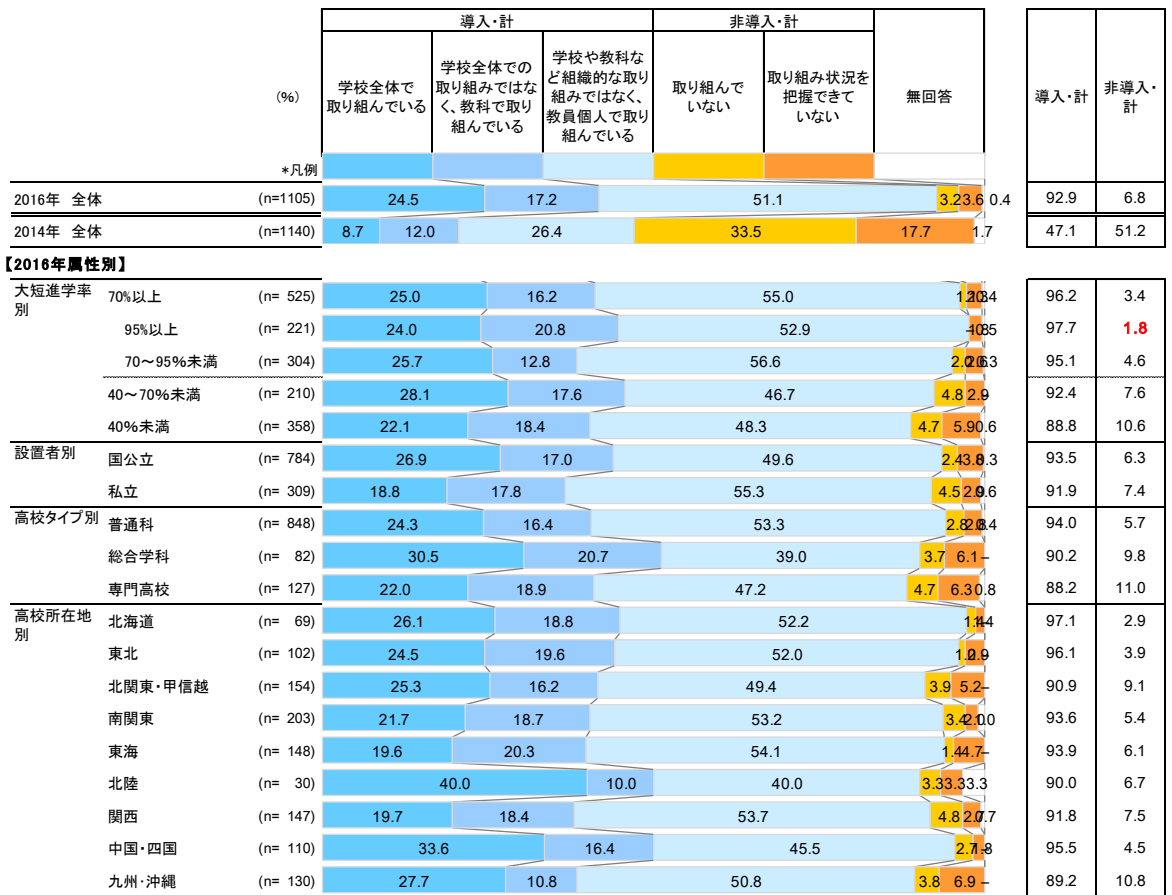
- アクティブラーニングの視点（主体的・対話的・深い学び）による授業の実施状況をたずねた。調査対象校の93%がアクティブラーニングの視点による授業を「導入」。その内訳は、「学科や教科など組織的な取り組みではなく、教員個人で取り組んでいる」(51%)が最多。次いで「学校全体で取り組んでいる」(25%)、「学校全体での取り組みではなく、教科で取り組んでいる」(17%)。

※前回とは設問文が異なるため、前回の結果は参考値である。

- 大短進学率別にみると、進学率が高い高校ほど導入率は高い。取り組み方はいずれも「教員個人で取り組んでいる」が最多。
- 設置者別にみると、導入率は国公立(94%)・私立(92%)とも9割を超える。
- 高校タイプ別にみると、導入率は普通科(94%)、総合学科(90%)、専門高校(88%)。総合学科は「学校全体で取り組んでいる」「学校全体での取り組みではなく、教科で取り組んでいる」が他層に比べて相対的に高く、組織・体系的な取り組みが進んでいる。

■アクティブラーニングなど授業改善の実施状況（全体／単一回答）

Q15. アクティブ・ラーニングの視点（主体的・対話的・深い学び）による授業に取り組んでいますか。
貴校の取り組み状況に最も近いもの1つに○をおつけください。



※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

Q15.01

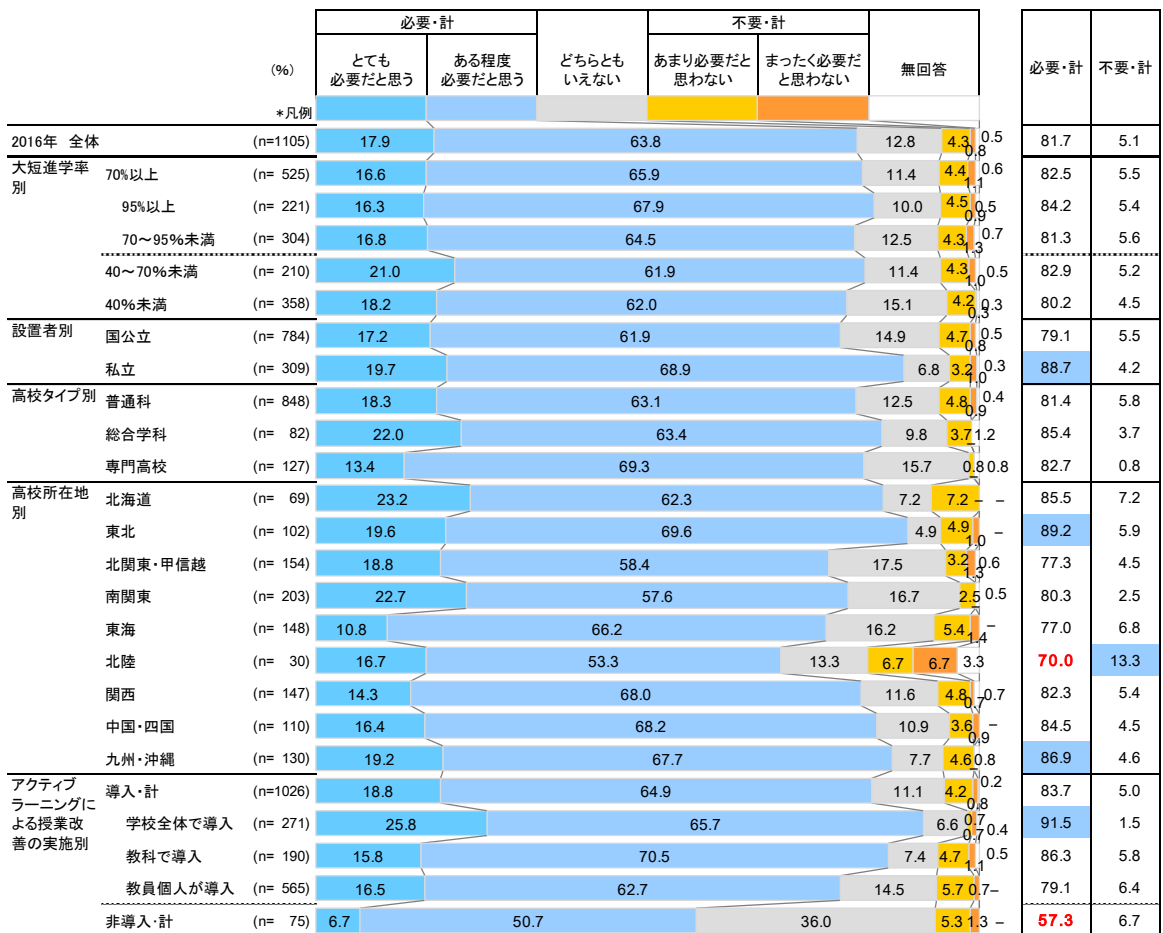
2) アクティブラーニングの視点による授業の必要性

■全体の82%がアクティブラーニングは必要だと思っている。

- アクティブラーニングの視点（主体的・対話的・深い学び）による授業の必要性についてたずねた。
調査対象校の18%が「とても必要だと思う」と回答。「ある程度必要だと思う」まで合わせた「必要・計」は82%であった。
- 大短進学率別にみると、いずれも「必要・計」は8割超。進学率40～70%未満校は「とても必要だと思う」が他層に比べてわずかに高い。
- 設置者別にみると、「必要・計」は、私立(89%)が国公立(79%)に比べて相対的に高い。
- 高校タイプ別にみると、「必要・計」は普通科(81%)、総合学科(85%)、専門高校(83%)。
総合学科は「とても必要だと思う」が他層に比べて相対的に高い。
- アクティブラーニングによる授業改善の実施別にみると、「必要・計」は学校全体で導入している高校が92%、教科で導入している高校が86%、教員個人で導入している高校が79%と、取り組み単位が大きいほど必要と考えている。

■アクティブラーニングによる授業の必要性（全体／単一回答）

Q14. アクティブ・ラーニングの視点(主体的・対話的・深い学び)による授業(一斉講義だけでない授業)の必要性についてどのようにお考えですか。
あてはまるもの1つに○をおつけください。



※「2016年 全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

Q14.01

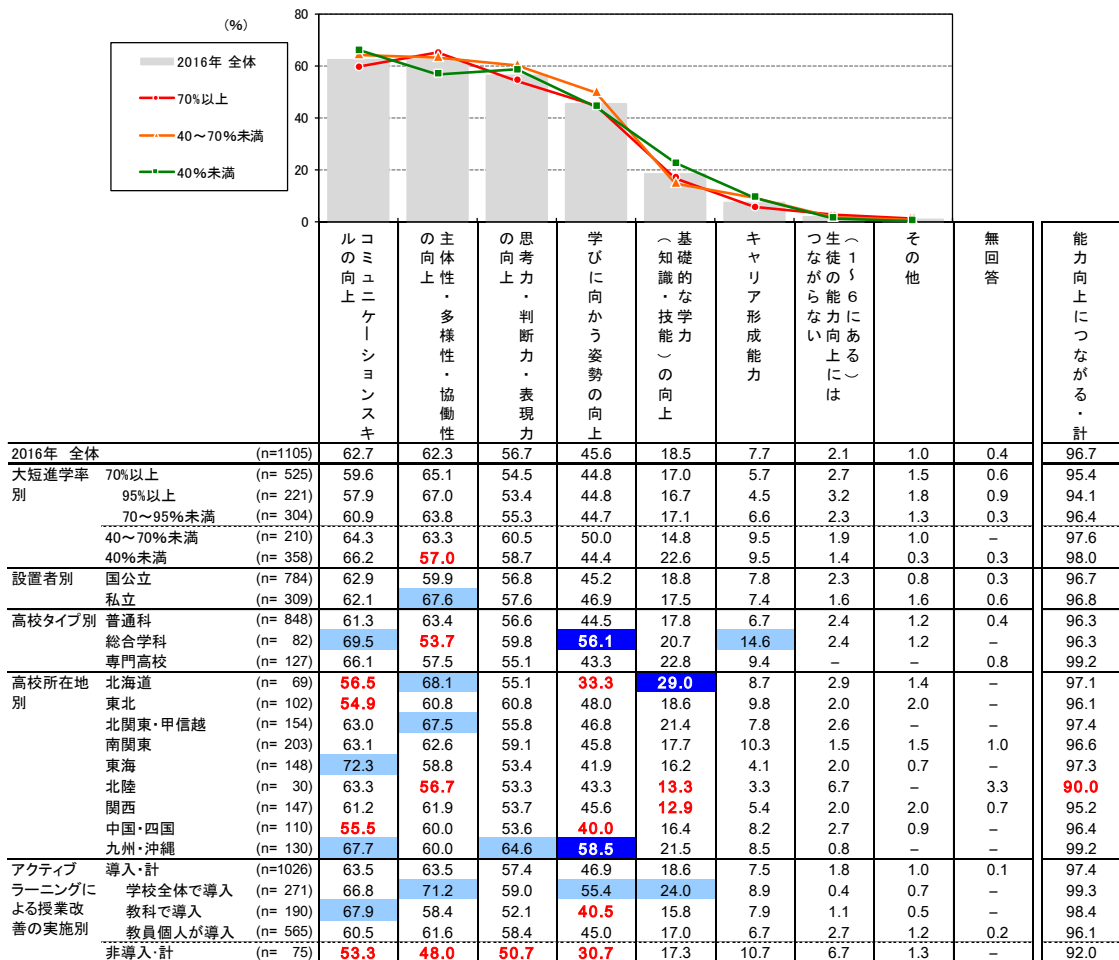
3) アクティブラーニングの視点による授業によって向上する生徒の力

■アクティブラーニングにより向上する力は、コミュニケーションスキル、主体性・多様性・協働性、思考力・判断力・表現力など。

- アクティブラーニングの視点（主体的・対話的・深い学び）による授業によって向上する生徒の力をたずねた。トップは「コミュニケーションスキルの向上」(63%)、僅差で「主体性・多様性・協働性の向上」(62%)。3位「思考力・判断力・表現力の向上」(57%)、4位「学びに向かう姿勢の向上」(46%)と、上位4項目は40%を超える。「基礎的な学力の向上」(19%)、「キャリア形成能力」(8%)とは大きな開きがみられる結果となった。
- 大短進学率別にみると、70%以上校は「主体性・多様性・協働性の向上」、40～70%未満校と40%未満校は「コミュニケーションスキルの向上」がそれぞれトップ。
- 設置者別にみると、私立は「主体性・多様性・協働性の向上」がトップであり、国公立に比べて同項目が相対的に高い。
- 高校タイプ別にみると、普通科は「主体性・多様性・協働性の向上」、総合学科と専門高校は「コミュニケーションスキルの向上」がそれぞれトップ。総合学科は、「コミュニケーションスキルの向上」「学びに向かう姿勢の向上」「キャリア形成能力」が他層に比べて相対的に高い。
- アクティブラーニングによる授業改善の実施別にみると、導入している高校は導入していない高校に比べて上位4項目が相対的に高い。

■アクティブラーニングにより向上する力（全体／複数回答）

Q16. アクティブラーニングの視点（主体的・対話的・深い学び）による授業は、以下のどの生徒の力の向上につながると感じますか。
あてはまるものすべてに○をおつけください。



※「2016年 全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

※「2016年全体」降順ソート

Q16.01

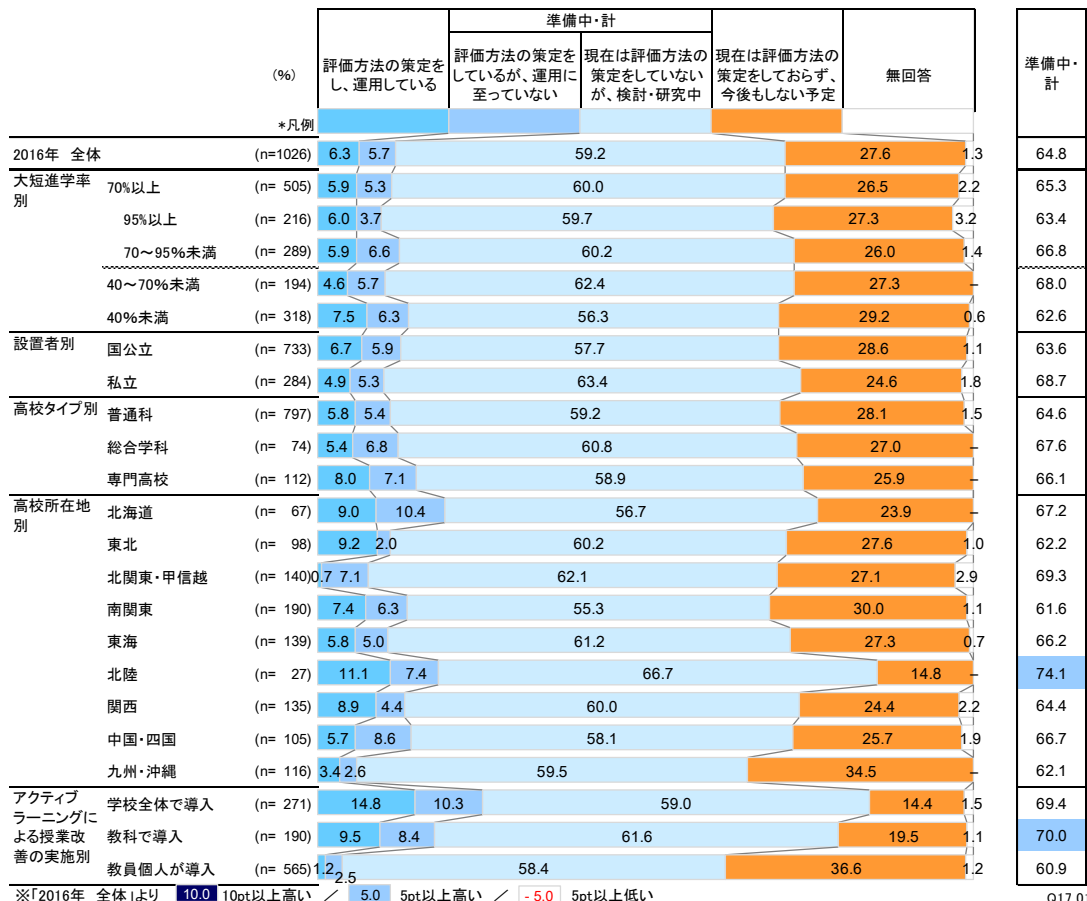
4) アクティブラーニングの視点による授業の評価実施状況

■アクティブラーニングの視点による授業の評価をおこなっている高校は6%。準備中の高校が65%。

- アクティブラーニングの視点（主体的・対話的・深い学び）による授業の評価についてたずねた。「評価の方法を策定し、運用している」は6%。「現在は評価方法の策定をしていないが、検討・研究中」は59%であり、「評価方法の策定をしているが、運用にいたっていない」(6%)まで合わせた「準備中・計」は65%であった。
- 大短進学率別・設置別・高校タイプ別は、いずれも「評価の方法を策定し、運用している」は5～8%、「準備中・計」は60%台であり、大きな差異はみられない。
- アクティブラーニングによる授業改善の実施別にみると、学校全体で導入している高校は「評価の方法を策定し、運用している」が15%と評価の実施率が高い。教員個人で導入している高校は「現在は評価方法の策定をしておらず、今後もしない予定」が37%と高い。

■アクティブラーニングの視点による授業の評価実施状況（アクティブラーニングによる授業改善実施／単一回答）

Q17. アクティブ・ラーニングの視点(主体的・対話的・深い学び)による授業の評価についておききます。貴校の状況に最も近いもの1つに○をおつけください。



Q17_01

【フリーコメント⑬】アクティブラーニングの視点による授業の実施における疑問や不安

【学校全体でアクティブラーニング導入】

- アクティブ・ラーニング＝グループ学習という考えが先行しすぎている。[宮城県/市立/普通科]
- 「型」ではない本質を、一体どれだけの教員が分かってAL授業を展開しているのか、という点。[鳥取県/県立/普通科]
- 形が先行している状況が見られ、本当の意見でのアクティブラーニングになっていない授業が多い。[岡山県/県立/普通科]
- アクティブ・ラーニングは、生徒が主体的に授業に取り組むことで、深い学びにつながるという指導方法の1つであると考えているが、最近の風調では、アクティブ・ラーニングで教えるということが目標になっている感があり、違和感を覚える。
[高知県/県立/普通科]
- 少人数で展開したいと、つねづね思う。40名近くの生徒、10グループを把握するのは困難。[群馬県/県立/普通科]
- 準備に時間がとられるので、教員の業務内容全体(仕事量の全体)のなかで、そのための時間が確保できるようにならないと、教員の負担が増す一方となってしまう。[静岡県/県立/普通科]
- 生徒は協働的な部分では活発だが、集中力は逆に低下した。殊に、講義形式の授業では、以前の生徒とは比べられぬ程集中力がもたない。“協働”でないと取り組めない者が増えた。[山梨県/県立/普通科]
- 評価をどう行うかがあいまいである。[兵庫県/県立/その他]
- 評価を適切に行うことができるかに不安がある。アクティブ・ラーニングの技法も複数あり、適切な方法を選択できるかに不安がある。[熊本県/県立/専門学科:商業]

【教科でアクティブラーニング導入】

- 形式が先行してしまっている観がある。それぞれの学校・生徒に応じた形があると考えるが、先に形態が必要なアナウンスが多い。また、従来の授業に対する評価もきちんとできていない。[三重県/県立/普通科]
- アクティブ・ラーニングの視点以前の問題点が多すぎてそのステージに上がれないという感じがある。進度の問題、主体的学習習慣がないため、基礎学力が身につけていない。[青森県/県立/普通科]
- 学力下位層でどのように実施できるのか。[鹿児島県/私立/総合学科]
- 生徒の基礎的知識が少なすぎ、又、意欲も非常に低いので、まずアクティブにならない。[大阪府/府立/総合学科]

【教員個人でアクティブラーニング導入】

- 授業進度の確保に不安を感じる。・生徒の家庭学習(予習、復習)の質的変化が見られるか。[栃木県/県立/普通科]
- アクティブ・ラーニングのもととなる基本的な知識や考え方をしっかり身につけさせることの方が重要。アクティブラーニングを強調しすぎると、基礎力不足なのに、応用ばかりやろうとし無駄に終わる。[福島県/県立/普通科]
- アクティブ・ラーニングの定義があいまいである。常にアクティブラーニング型授業をすべきだという人と、時々でよいという人がいて、どちらも正しいという人もいる。[石川県/市立/普通科]
- アクティブ・ラーニングの定義自体もあいまいな点があり従来の指導法の中にもそれと思われるものは存在しておりそれと気付かずに指導している場合があるのでは？[大阪府/府立/普通科]
- アクティブ・ラーニングの内容理解が職場の教員間で不十分である。小学校の授業風景の中にアクティブ・ラーニング的要素があるのでしょうか。[埼玉県/県立/専門学科:商業]
- アクティブ・ラーニングばかりが持ち上げられ過ぎて、従来型のきっちりとした知識を体系的に学ぶことが軽視されないかという心配はあります。[鹿児島県/私立/普通科]
- アクティブラーニングをする以前に社会のルールや人との約束を守る力(規律性)をきちんとしないと逆効果であることです。また、一斉講義を全面的に否定する話を伺うことがあります、一斉講義を上手く生徒等の実態を含ませておりまぜていくことが大切であると思っています。[宮城県/県立/専門学科:商業]
- あてはまりやすい、「生徒のレベル」「教科」等の違いがあるように思われるが「アクティブ・ラーニングは必要だ」という論調が多く、結果的には「今後一斉に取り組まなければいけない」という考えが、実施を困難にしているように思う。
[東京都/私立/普通科]
- 基礎学力の低下が懸念される。[山梨県/県立/普通科]
- 準備に手間と時間がかかる。[千葉県/私立/普通科]
- 生徒間での学びあいを推奨することがあるが、少しレベルの高い生徒でないと、逆効果になるケースが多くなっている。かなりよく事前の指導プランがないと効果はあまり得られないと思われる。[山口県/県立/総合学科]
- 対話形式、発表形式の授業が増えて、地道に作業し、考える時間がへるのではないかと危惧します。[兵庫県/私立/普通科]

【アクティブラーニング非導入】

- 「すること」が目的化し、本来の目的を見失わないか。[福岡県/私立/総合学科]

【導入状況不明】

- 大学入試に向けた指導との関連性が強く感じられない。[埼玉県/私立/普通科]

2. 社会のグローバル化を意識した教育への取り組み

1) グローバル社会を意識した教育の実施状況

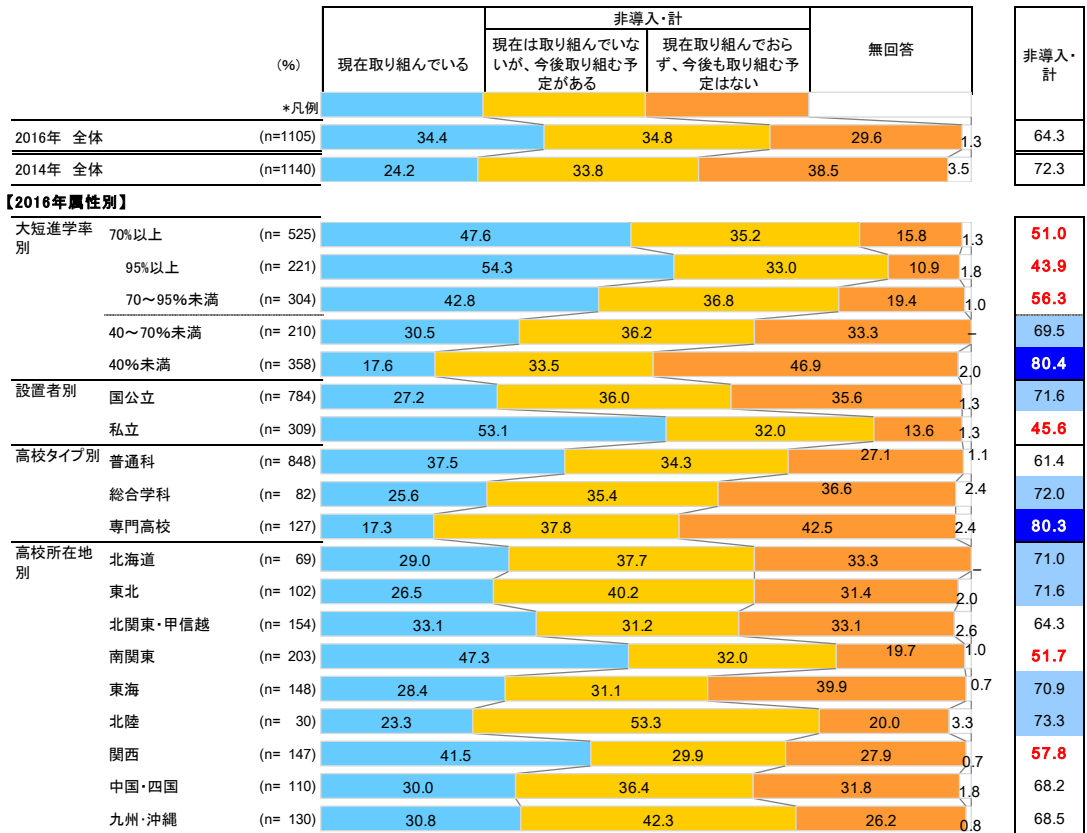
■全体の34%が「現在取り組んでいる」。

■「現在取り組んでいる」は前回から10ポイント上昇。

- 今後進むと予測される社会のグローバル化を意識した教育に取り組んでいるかをたずねた。
調査対象校の34%がグローバル化を意識した教育に「現在取り組んでいる」。「今後は取り組む予定がある」(35%)、「今後も取り組むことは考えていない」(30%)と、意向はほぼ二分。
- 「現在取り組んでいる」は前回(24%)から10ポイント上昇。
- 大短進学率別にみると、進学率が高い高校ほど実施率が高い。
- 設置者別にみると、私立の実施率は53%であり、国公立(27%)を20ポイント以上上回る。
- 高校タイプ別にみると、実施率は普通科(38%)が総合学科(26%)・専門高校(17%)に比べて高い。

■グローバル社会を意識した教育の取り組み（全体／単一回答）

Q21. グローバル社会を意識した教育への取り組みについてお聞きします。貴校の取り組み状況に最も近いもの1つに○をおつけください。



※調査年の「全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

Q21_01

2) 社会のグローバル化の高校教育への影響

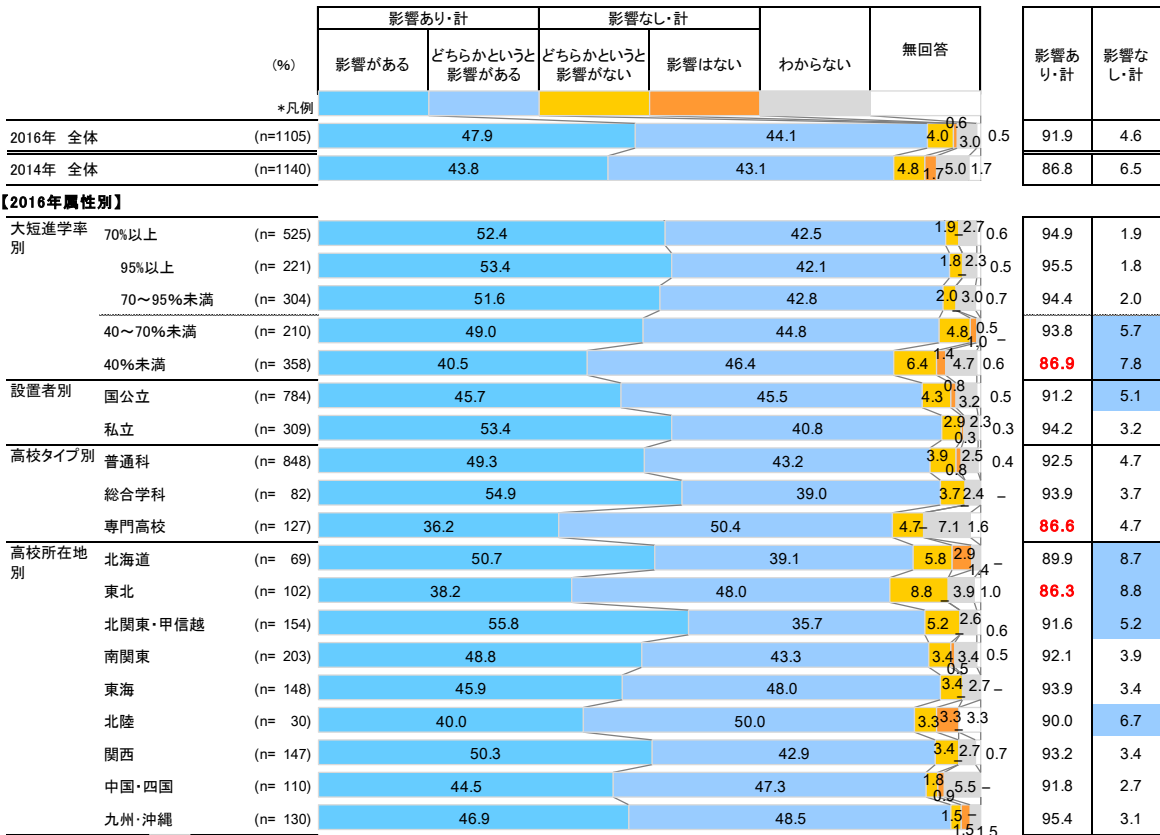
■92%がグローバル化は高校教育に影響があると回答。

■影響があるという認識は前回 (87%) から上昇した。

- グローバル化は高校教育に影響があると思うか、5段階評価でたずねた。
調査対象校の48%が「影響がある」と回答。「どちらかというに影響がある」(44%)を合わせた「影響あり・計」は92%。
- 大短進学率別にみると、進学率が高い高校ほど影響があるとの認識が高い。
- 設置者別にみると、「影響あり・計」は私立が94%であり、国公立(91%)に比べて相対的に高い。
- 高校タイプ別にみると、「影響あり・計」は総合学科が94%、普通高校が93%、専門高校が87%であり、専門高校は相対的に低い。

■社会のグローバル化の高校教育への影響（全体／単一回答）

Q20. 現在の高校生が今後生きてゆく社会は、ますますグローバル化が進むと予測されています。
社会のグローバル化は高校教育に影響があると思いますか。お考えに近いもの1つに○をおつけください。



3. ICT環境の整備・導入状況

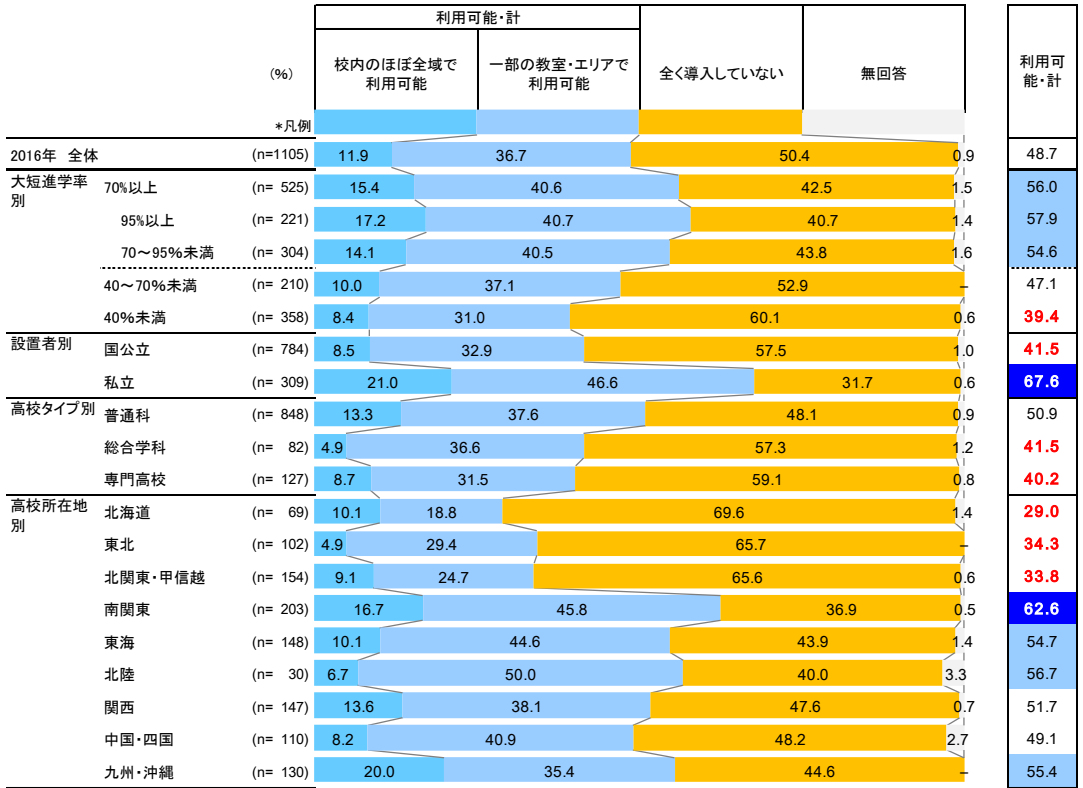
1) Wi-Fiの導入環境

■Wi-Fiを校内で利用可能な高校は49%。

- Wi-Fiの導入環境をたずねた。調査対象校の12%が「校内のほぼ全域で利用可能」、「一部の教室・エリアで利用可能」(37%)まで合わせた「利用可能・計」は49%。
- 大短進学率別にみると、進学率が高い高校ほど「利用可能・計」が高い。
- 設置者別にみると、「利用可能・計」は私立が68%であり、国公立(42%)に比べて相対的に高い。
- 高校タイプ別にみると、「利用可能・計」は普通科の51%が最も高く、総合学科が42%、専門高校が40%。

■ICT環境：Wi-Fiの導入環境（全体／単一回答）

Q22. ICT環境についてお尋ねします。以下のそれぞれについて、現在の貴校の状況に最も近いもの1つに○をおつけください。



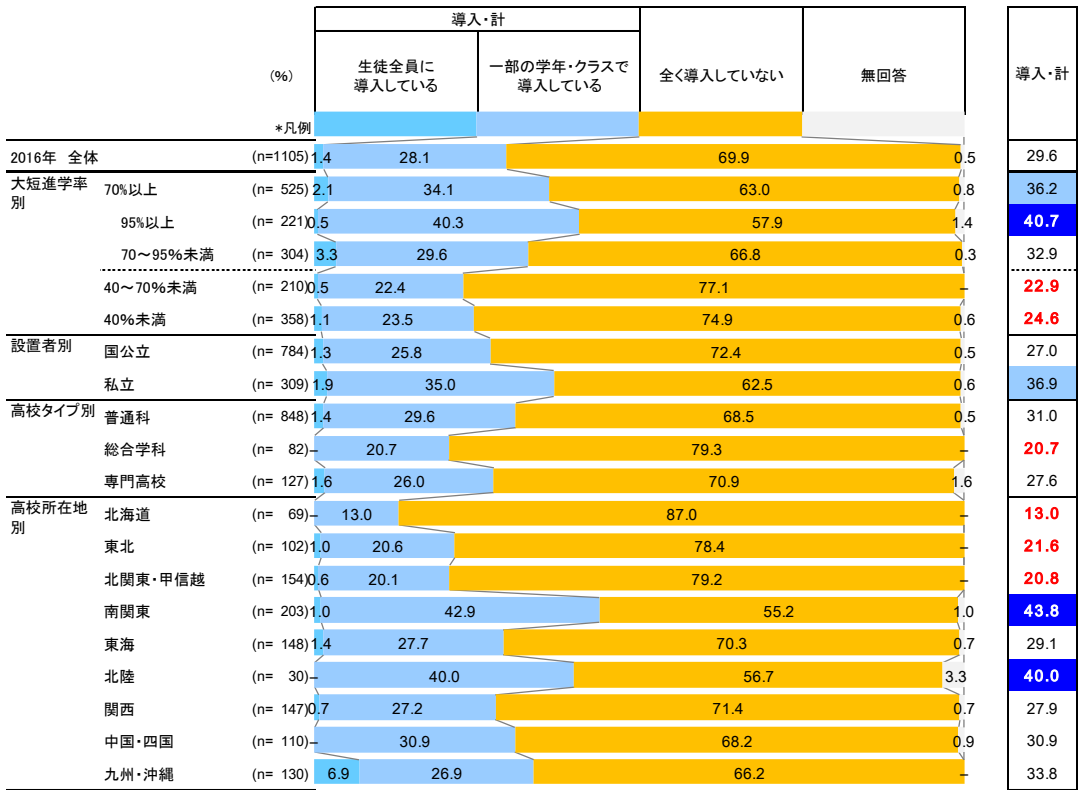
2) タブレット端末の導入状況

■タブレット端末を導入している高校は30%。

- タブレット端末の導入状況をたずねた。「生徒全員に導入している」は調査対象校の1%のみ。「一部の学年・クラスで導入している」(28%)まで合わせた「導入・計」は30%。
- 大短進学率別にみると、進学率70%以上校は「導入・計」が他層に比べて相対的に高い。
- 設置者別にみると、私立は「導入・計」が37%であり、国公立(27%)に比べて相対的に高い。
- 高校タイプ別にみると、「導入・計」は普通科の31%が最も高く、総合学科は21%、専門高校は28%。

■ICT環境：タブレット端末の導入状況（全体／単一回答）

Q22. ICT環境についてお尋ねします。以下のそれぞれについて、現在の貴校の状況に最も近いもの1つに○をおつけください。



※「2016年 全体」より 10.0 10pt以上高い 5.0 5pt以上高い -5.0 5pt以上低い

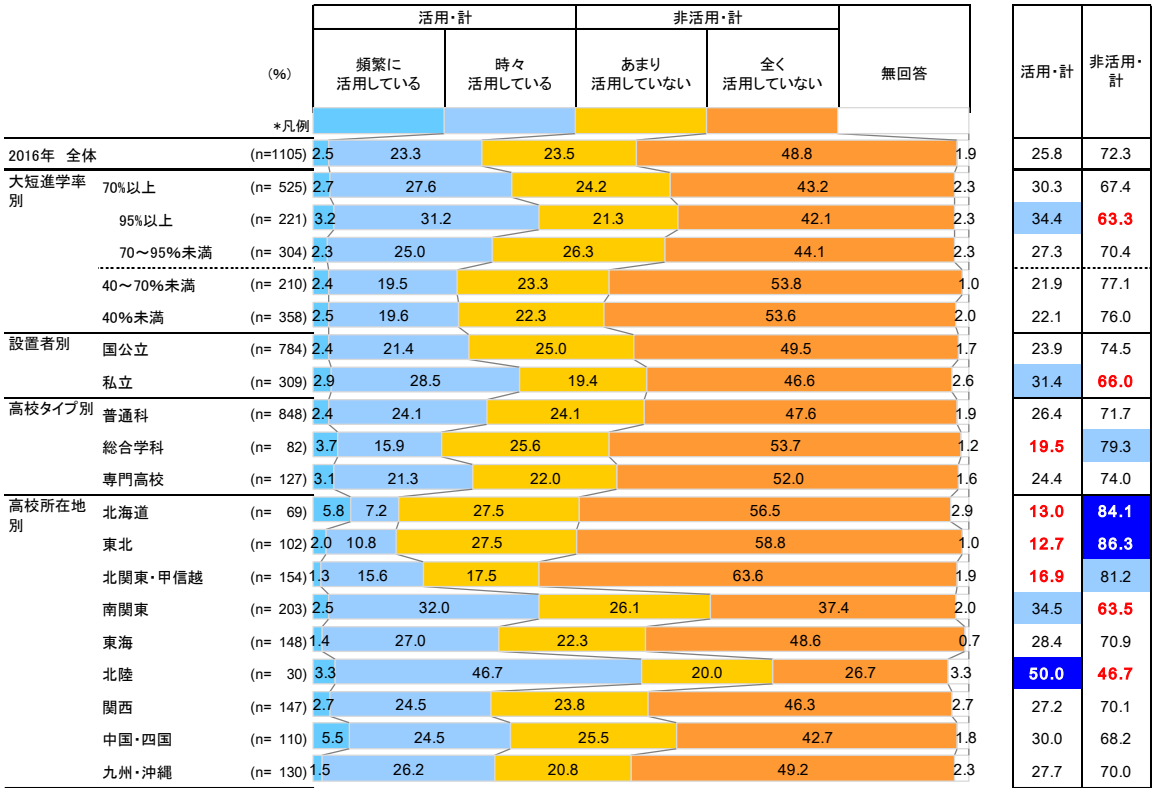
3) タブレット端末の授業における活用状況

■タブレット端末を授業で活用している高校は26%。

- タブレット端末の授業における活用状況をたずねた。調査対象校の3%が「頻繁に活用している」、「時々活用している」(23%)まで合わせた「活用・計」は26%。
- 大短進学率別にみると、進学率70%以上校は「活用・計」(30%)が他層に比べて相対的に高い。
- 設置者別にみると、私立は「活用・計」が31%であり、国公立(24%)に比べて高い。
- 高校タイプ別にみると、「利用可能・計」は普通科の26%が最も高く、総合学科は20%、専門高校は24%。

■ICT環境：タブレット端末の授業における活用状況（全体／単一回答）

Q22. ICT環境についてお尋ねします。以下のそれぞれについて、現在の貴校の状況に最も近いもの1つに○をおつけください。



Q22-3.01

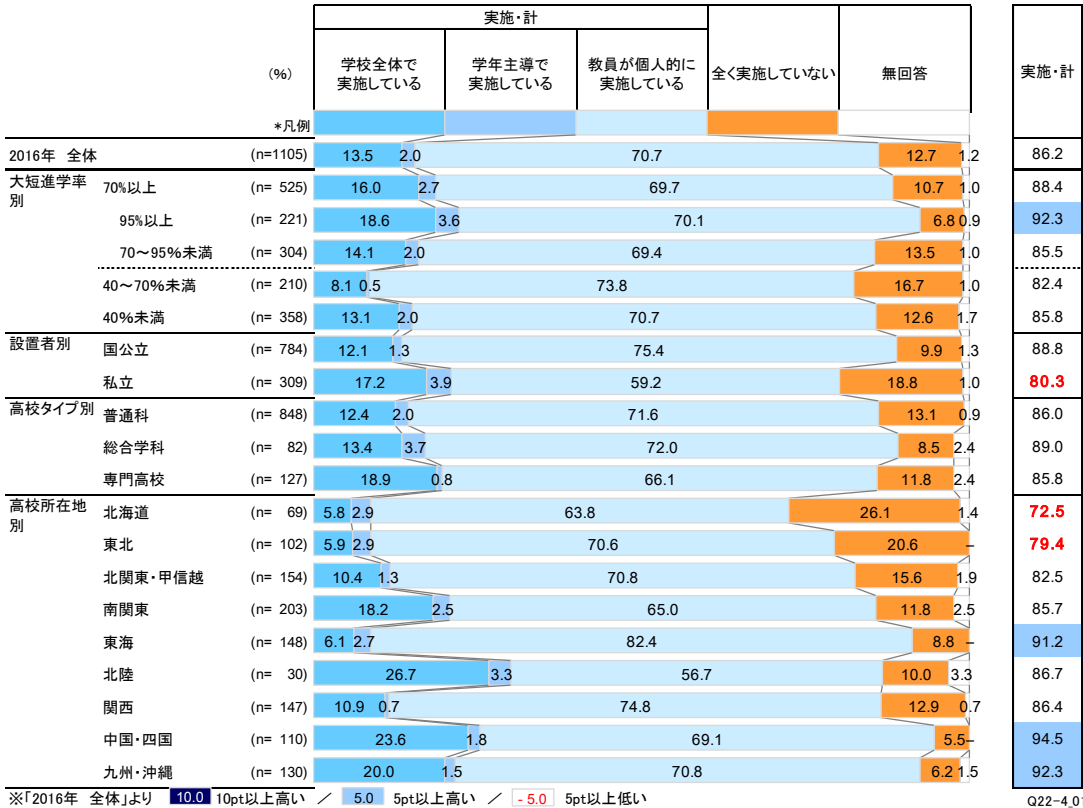
4) ICTを活用した授業の実施状況

■ICTを活用した授業を実施している高校は86%。

- ICTを活用した授業の実施状況をたずねた。「教員が個人的に実施している」が71%と最も高い。「学校全体で実施している」(14%)、「学年主導で実施している」(2%)を合わせた「実施・計」は86%。
- 大短進学率別にみると、進学率70%以上校は「実施・計」(88%)が他層に比べて相対的に高い。
- 設置者別にみると、私立は「学校全体で実施している」(17%)が国公立(12%)に比べて高いが、国公立は「教員が個人的に実施している」(75%)が私立(59%)に比べて高く、「実施・計」は国公立が高い。
- 高校タイプ別にみると、「実施・計」はいずれも80%台後半。「学校全体で実施している」は、専門高校の19%が最も高く、普通高校は12%、総合学科は13%。

■ICT環境：ICTを活用した授業の実施状況（全体／単一回答）

Q22. ICT環境についてお尋ねします。以下のそれぞれについて、現在の貴校の状況に最も近いもの1つに○をおつけください。



4. 育成すべき資質・能力の明確化と教育活動への接続状況

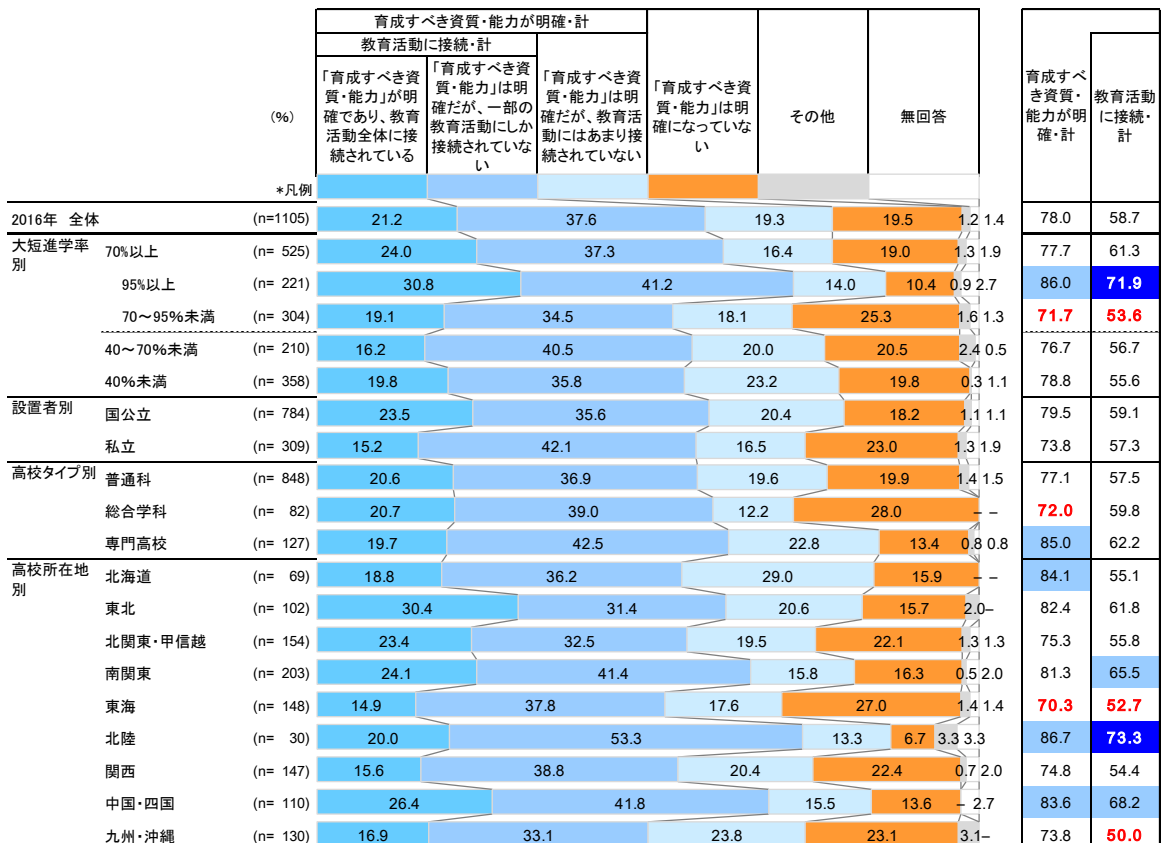
1) 育成すべき資質・能力の明確化と教育活動への接続状況

■78%の高校が育成すべき能力を明確にしている。61%は教育活動に接続されている。

- 育成すべき資質・能力の明確化と教育活動への接続状況についてたずねた。
『「育成すべき資質・能力」が明確であり、教育活動全体に接続されている』は21%であり、『「育成すべき資質・能力」は明確だが、一部の教育活動にしか接続されていない』(38%)まで合わせた「教育活動に接続・計」は59%。さらに『「育成すべき資質・能力」は明確だが、教育活動にはあまり接続されていない』まで合わせた「育成すべき資質・能力が明確・計」は78%であった。
- 大短進学率別にみると、95%以上校は「育成すべき資質・能力が明確・計」および「教育活動に接続・計」が高い。
- 設置者別にみると、国公立は『「育成すべき資質・能力」が明確であり、教育活動全体に接続されている』が私立に比べて相対的に高い。
- 高校タイプ別にみると、「育成すべき資質・能力が明確・計」は、専門高校(85%)が高く、総合学科(72%)が低い。

■育成すべき資質・能力の明確化と教育活動への接続状況（全体／単一回答）

Q19. 次期学習指導要領の審議において、各高校における「学校教育を通じて身に付けるべき資質・能力の明確化と教育目標・内容の改善、資質・能力を育む学習過程や学習評価の重視」などが議論されています。現在の貴校の状況に最も近いものを1つに○をおつけください。



※「2016年 全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

Q19.01

第Ⅳ部 高校と他関連機関との連携

1. 高大接続改革の議論

1) 学力の3要素のうち注力したいと考える要素

■「基礎的な知識および技能」が41%と最も高く、「思考力・判断力・表現力等の能力」が32%、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」が25%。

- 高大接続改革答申のいわゆる「学力の3要素」のうち、今後注力したい要素を1つだけ選んでもらった。「基礎的な知識および技能」が41%と最も高く、「思考力・判断力・表現力等の能力」が32%、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」が25%であった。
- 大短進学率別にみると、進学率が高いほど「思考力・判断力・表現力等の能力」が高く、進学率が低いほど「基礎的な知識および技能」が高い。
- 設置者別にみると、国公立は「基礎的な知識および技能」が私立に比べて相対的に高く、私立は「思考力・判断力・表現力等の能力」が相対的に高い。
- 高校タイプ別にみると、普通科は「思考力・判断力・表現力等の能力」が他層に比べて相対的に高く、専門高校は「基礎的な知識および技能」が相対的に高い。

■学力の3要素のうち注力したいと考える要素（全体／単一回答）

Q25. 高大接続改革の議論において、社会で自立して活動していくために必要な力という観点から「学力の3要素」を捉え直し、高等学校教育改革、大学教育改革、大学入学選抜改革に一体的に取り組む必要性が謳われています。

貴校において、生徒の状況を踏まえ、より今後注力していきたいと考えるもの1つに○をおつけください。

	(%)	基礎的な知識 および技能	思考力・判断力・表現力 等の能力	主体性を持って 多様な人々と 協働して学ぶ態度	無回答
*凡例					
2016年 全体	(n=1105)	41.1	32.2	24.5	2.2
大短進学率 別					
70%以上	(n= 525)	28.8	44.8	24.4	2.1
95%以上	(n= 221)	25.3	48.0	24.0	2.7
70～95%未満	(n= 304)	31.3	42.4	24.7	1.6
40～70%未満	(n= 210)	45.7	28.6	23.8	1.9
40%未満	(n= 358)	56.4	15.9	25.4	2.2
設置者別					
国公立	(n= 784)	44.4	28.7	25.0	1.9
私立	(n= 309)	32.7	41.1	23.6	2.6
高校タイプ別					
普通科	(n= 848)	38.1	35.6	24.2	2.1
総合学科	(n= 82)	48.8	22.0	28.0	1.2
専門高校	(n= 127)	55.9	15.7	25.2	3.1
高校所在地 別					
北海道	(n= 69)	43.5	30.4	26.1	1.1
東北	(n= 102)	41.2	29.4	24.5	4.9
北関東・甲信越	(n= 154)	38.3	33.8	27.9	1.1
南関東	(n= 203)	36.5	38.4	22.2	3.0
東海	(n= 148)	47.3	27.7	22.3	2.7
北陸	(n= 30)	16.7	56.7	20.0	6.7
関西	(n= 147)	40.8	28.6	28.6	2.0
中国・四国	(n= 110)	41.8	31.8	25.5	0.9
九州・沖縄	(n= 130)	48.5	27.7	22.3	1.5

Q25.01

【フリーコメント⑭】学力の3要素のうち注力したいと考える要素の理由

■基礎的な知識および技能

【大短進学率70%以上】

- 基礎的な知識や技能があつてこそ、思考力、判断力、表現力の育成や主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度も意味があると思う。[福岡県/県立/普通科]
- 大学で研究を行う前段階として高校があるとするならば、これまでのように単に点数が取れるという意味での基礎学力ではなく、大学で研究を行うために必要な能力として、知識や技能とは何かを明確化することが重要であると考えから[北海道/道立/普通科]
- 基礎的な知識なしに、思考・判断はできないし、無知のままでは多者と協働できるとは思えない[大阪府/府立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- 基礎がないと思考力、判断力、主体性も育たない。[奈良県/県立/普通科]
- 基礎学力の充実がある上での思考力や判断力の育成になると思う まずしっかりと基礎学力の向上が必要。[福岡県/市立/専門学科:商業]
- 基礎的な知識技能が様々な能力を開花される礎となると考えるから。[大阪府/私立/普通科]

【大短進学率40%未満】

- 社会に出てからも学びが必要な状況で、基礎的な力をつけておくことがまずは大切と考えるため。[鳥取県/県立/専門学科:工業]
- 就職試験でおもわしくない結果が出る時、きまって基礎・基本的な学力不足が話題となるため。[大阪府/府立/総合学科]

■思考力・判断力・表現力等の能力

【大短進学率70%以上】

- 学力は備わっていても、それを正しく判断し、表現することができなければ使いものにならないから。[愛知県/市立/普通科]
- 生徒が社会に出た時に、どのような状況にも対応できる汎用性を身につけさせたいから。[東京都/私立/普通科]
- あきらめない粘り強い考え方を生徒に植えつけさせたいため。[石川県/市立/普通科]
- コンピュータなど情報機器が発達する中、その情報の取捨選択活用等がこの先にとっても大事になる。[神奈川県/県立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- 学んだ知識を生かして、より深く思考し、判断したり、表現したりする能力がやや弱いから。[愛媛県/県立/普通科]
- 自ら考え、自分の意見をしっかりと述べることによって、他との協働も生まれ、必要と思う知識を自ら学ぶと考える。[北海道/私立/普通科]
- 社会の変化に柔軟に対応することや多様性(ダイバーシティ)への理解が求められているから。[京都府/府立/普通科]

【大短進学率40%未満】

- 考えるということが本当にできていない生徒が増え、自ら取り組むことができない現状では、できるようにすることが第一。[滋賀県/県立/専門学科:商業]
- 今後、人工知能が様々な職業に活用される中、創意工夫ができる人材が望まれると思われるので[石川県/県立/専門学科:工業]

■主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

【大短進学率70%以上】

- 全ての仕事は人との関わりの中で行うものであるから[群馬県/県立/普通科]
- キャリア形成を考えたとき他者との関わりから学ぶことはとても重要で、生き方につながる[青森県/県立/普通科]
- グローバル化する社会の中で自立して生き抜いていくためには、世界の多様な価値観を認め、共に行動できる能力が必要と考えるから。[大阪府/府立/普通科]
- 人口が減少しつつある日本にとって、これからは国籍も年齢も異なる人たちと活動する局面が多くなるから。[三重県/私立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- 社会に出てから、人とコミュニケーションをとり、協働して働く能力の育成が重要であると考え。[福井県/県立/普通科]
- 受け身の姿勢が指摘される高校生ですが、これだけ利便性が高く、デジタル化も進んだ社会に生かされているのですから彼らには罪はない、とも言えます。「現象」に隠れてしまっている生徒が普遍的に持つ3. の力を引き出すというミッションが、中等教育にはあると思っています。[鳥取県/県立/普通科]
- 得意不得意がある様々な個性をどのようにいかして、事を成すかというコトを体験してもらいたいから。[兵庫県/私立/普通科]

【大短進学率40%未満】

- これからの時代みずから考えを持って、人とコミュニケーションを取りながら協力し、課題解決する力がもとめられていると思うから。[宮城県/県立/普通科]
- どの力も必要であるが、仕事をする上では、多様な人々とコミュニケーションをはかり、協働していく必要があるから[埼玉県/県立/総合学科]

2) 高大接続議論を踏まえた取り組みの実施状況

■高大接続議論を踏まえた取り組みの実施校は全体の32%。今後予定がある高校は46%。

- 高大接続議論を踏まえての施策の取り組み状況についてたずねた。「すでに取り組んでいることがある」が全体の32%、「現在は取り組んでいることはないが、今後取り組む予定がある」が46%、「現在は取り組んでいることはなく、今後も取り組む予定はない」が20%であった。
 - ・ 取り組み内容についての次ページのフリーコメントをみると、アクティブラーニングの取り組み内容について多くの意見があがっている。その他、教育課程の見直しや多面的な評価の実施について具体的な取り組み内容があがっている。
- 大短進学率別にみると、進学率が高いほど実施率が高く、非実施の割合が低い。
- 設置者別にみると、私立は今後取り組む予定の割合が国公立に比べて相対的に高い。
- 高校タイプ別にみると、普通科は今後取り組む予定の割合が他層に比べて相対的に高い。

■ 高大接続議論を踏まえた取り組みの実施状況（全体／単一回答）

Q26. 高等学校教育改革として、「教育課程の見直し」「アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善」「多面的な評価の充実」など様々な施策が議論されています。

高大接続議論を踏まえて、貴校ですでに取り組まれていることはありますか。あてはまるもの1つに○をおつけください。

	(%)	すでに取り組んでいる ことがある	現在は取り組んでいる ことはないが、今後取 組む予定がある	現在は取り組んでいる ことはなく、今後も取 組む予定はない	無回答
*凡例					
2016年 全体	(n=1105)	32.4	45.6	19.5	2.5
大短進学率 別					
70%以上	(n= 525)	36.6	50.1	11.0	2.3
95%以上	(n= 221)	38.9	52.9	5.9	2.3
70～95%未満	(n= 304)	34.9	48.0	14.8	2.3
40～70%未満	(n= 210)	31.0	49.5	17.6	1.9
40%未満	(n= 358)	26.8	37.2	32.7	3.4
設置者別					
国公立	(n= 784)	31.6	43.8	22.2	2.4
私立	(n= 309)	34.0	50.8	12.3	2.9
高校タイプ別					
普通科	(n= 848)	33.3	47.8	16.6	2.4
総合学科	(n= 82)	29.3	37.8	30.5	2.4
専門高校	(n= 127)	28.3	37.8	30.7	3.1
高校所在地 別					
北海道	(n= 69)	33.3	47.8	18.8	—
東北	(n= 102)	24.5	46.1	26.5	2.9
北関東・甲信越	(n= 154)	22.7	47.4	26.6	3.2
南関東	(n= 203)	36.0	46.8	15.3	2.0
東海	(n= 148)	33.8	44.6	18.2	3.4
北陸	(n= 30)	40.0	46.7	10.0	3.3
関西	(n= 147)	29.3	51.0	18.4	1.4
中国・四国	(n= 110)	39.1	43.6	14.5	2.7
九州・沖縄	(n= 130)	37.7	37.7	20.8	3.8

Q26.01

【フリーコメント⑮】高大接続議論を踏まえての取り組みについて具体的な取り組み内容

■アクティブラーニングの実施

- アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に取り組んでおり、研修会や教科会、研究授業等を行い少しずつ授業を改善している。[福岡県/県立/普通科]
- アクティブ・ラーニング導入のために、外部講師を招き、全教科で研究授業を実施し、講評を頂く。[長崎県/県立/普通科]
- 総合学習で、英語を軸にしたアクティブラーニングを一部導入している。英語4技能の活用と、それを通して思考力・判断力・表現力の育成を目指している。[大阪府/私立/普通科]
- アクティブラーニングの視点からの授業改善を個人の努力から全体としての取り組みへと移行させようとしている。[三重県/県立/普通科]
- 現職研修会でALについて学習し、少しずつ校外の勉強会への参加も増えてきた。また実践に移す先生も若い人を中心にでてきている。[愛知県/県立/普通科]
- 全教員は、授業のなかでアクティブ・ラーニング型授業を取り入れる。理想は50分全てであるが、5分でも10分でも可能な限り入れる。[青森県/県立/普通科]
- アクティブ・ラーニングの視点から授業を改善し、本校生徒の中堅層以下の生徒の学びの意欲の喚起をうながしている。[福井県/県立/普通科]
- アクティブラーニングは教員を3～4人の小グループに分け、教科を越えて相互に授業を行い、授業展開などを評価している。[群馬県/県立/普通科]
- アクティブ・ラーニングに関する校内研修を実施し全教員がグループに分かれ、公開授業の実践及び反省会を行なっている。[石川県/県立/専門学科:工業]
- アクティブ・ラーニングができるようなカリキュラムを考案中である。[岐阜県/県立/総合学科]
- 1分間スピーチとクラスディスカッションを全生徒および全クラスで行っている、1分間スピーチは年1回コンテストも行っている。[茨城県/私立/普通科]

■教育課程の見直し

- カリキュラム改訂の準備作業。新科目設定に対する複数教科での協同授業の模索。[鹿児島県/私立/普通科]
- 新テストに対応した教育課程の見直し。[岡山県/県立/普通科]
- フィールド制改善(北海道特有な教育課程)と授業改善の取り組みやその評価についてシートを作成しその方策を研究中である。[北海道/道立/普通科]
- 教育課程の見直しの準備や授業改善やNIEの推進の観点から公開授業週間や校内授業マイスター制度を設けて、取り組んでいる。[熊本県/県立/専門学科:商業]
- 教育課程を身につけるべき力の観点から、全体の構成をとらえ直すとともに、個々の科目内容について研究をすすめている。[神奈川県/県立/総合学科]
- 「授業改善」について研修会への参加、および校内研修において現段階での共通認識が持てるように進路、教務で取り組んでいる。[福岡県/県立/普通科]
- 総合的な学習の時間等を利用した「探究型」学習を発展させた。[熊本県/県立/普通科]

■多面的な評価の充実

- 成績算出ではレポートやプレゼンテーションにも得点を含み、ペーパーでの一問一答型からの脱脚を図っている。[東京都/私立/その他]
- 評価についてはルーブリック、ポートフォリオ、パフォーマンス評価を少しずつ実施。[静岡県/私立/普通科]
- 観点別評価導入と生徒へのフィードバック(情報開示)。[北海道/村立/その他]

■周囲・外部との連携による授業改善

- 自治体との連携授業。地方創生を考え、実行する内容を、「総合的な学習の時間」で実施している。[岩手県/県立/普通科]
- 希望者対象に、大学と連携して『アカデミックインターンシップ』を実施している。月1回6ヶ月間、各研究室2名ずつ講義を受け実験をして研究する。[岩手県/県立/普通科]
- SSH、SGH校であり、キャリア教育の一環として、OBや在学中の大学生からの研究、学部、学科の説明などを行っている。課題研究も実施しており、プレゼン能力や対外的にも活動出来るようにしている(外国の生徒の来校やクラスメイトへの受け入れ)。[山口県/県立/普通科]
- 教務部、進路指導部、教育企画部の3部連携による、教育改革関連の情報収集や検討、教員研修会の実施。[北海道/道立/総合学科]

■ICTの活用

- ICT教育への取り組み。[鹿児島県/私立/普通科]
- タブレット・電子黒板等を活用して、生徒達自ら学習に取り組んでいる。[東京都/私立/その他]
- ICTの導入により、電子黒板を利用した授業、スカイプを利用した英会話講座。[北海道/私立/普通科]

3) 高大接続議論への対応・教育改革を進めるうえでの課題やハードル

■課題やハードルとしては、教師の時間不足と、具体的な内容が見えないことによる不安や懐疑的な見方の項目が上位に並ぶ。

- 高大接続議論への対応・教育改革を進めるうえでの課題やハードルをたずねた。トップは「大学入学希望者学力評価テスト（仮）の内容がまだ具体的でないので対策が取れない」（51%）、2位「教員の多忙により、新しい取り組みに着手する時間的余裕がない」（46%）、3位「高大接続に関して議論されている様々な事実が本当に実現されるのか懐疑的」（44%）。以下、「高大接続議論に関する全体的な情報の不足（タイムリーな情報収集）」（43%）、「総論は理解できるが、高校が具体的に何をすればいいのかわからない」（40%）までが40%を上回った。

・ 最も大きなハードルだと感じている点としても、「大学入学希望者学力評価テスト（仮）の内容がまだ具体的でないので対策が取れない」（16%）が1位など、上位5項目は同様。

- 大短進学率別にみると、進学率が高いほど学力評価テストや入学者選抜に関する下記の項目と「高大接続に関して議論されている様々な事実が本当に実現されるのか懐疑的」が高い。

「大学入学希望者学力評価テスト（仮）の内容がまだ具体的でないので対策が取れない」

「CBTや複数回受験など、実施環境や時期について現実的でない」

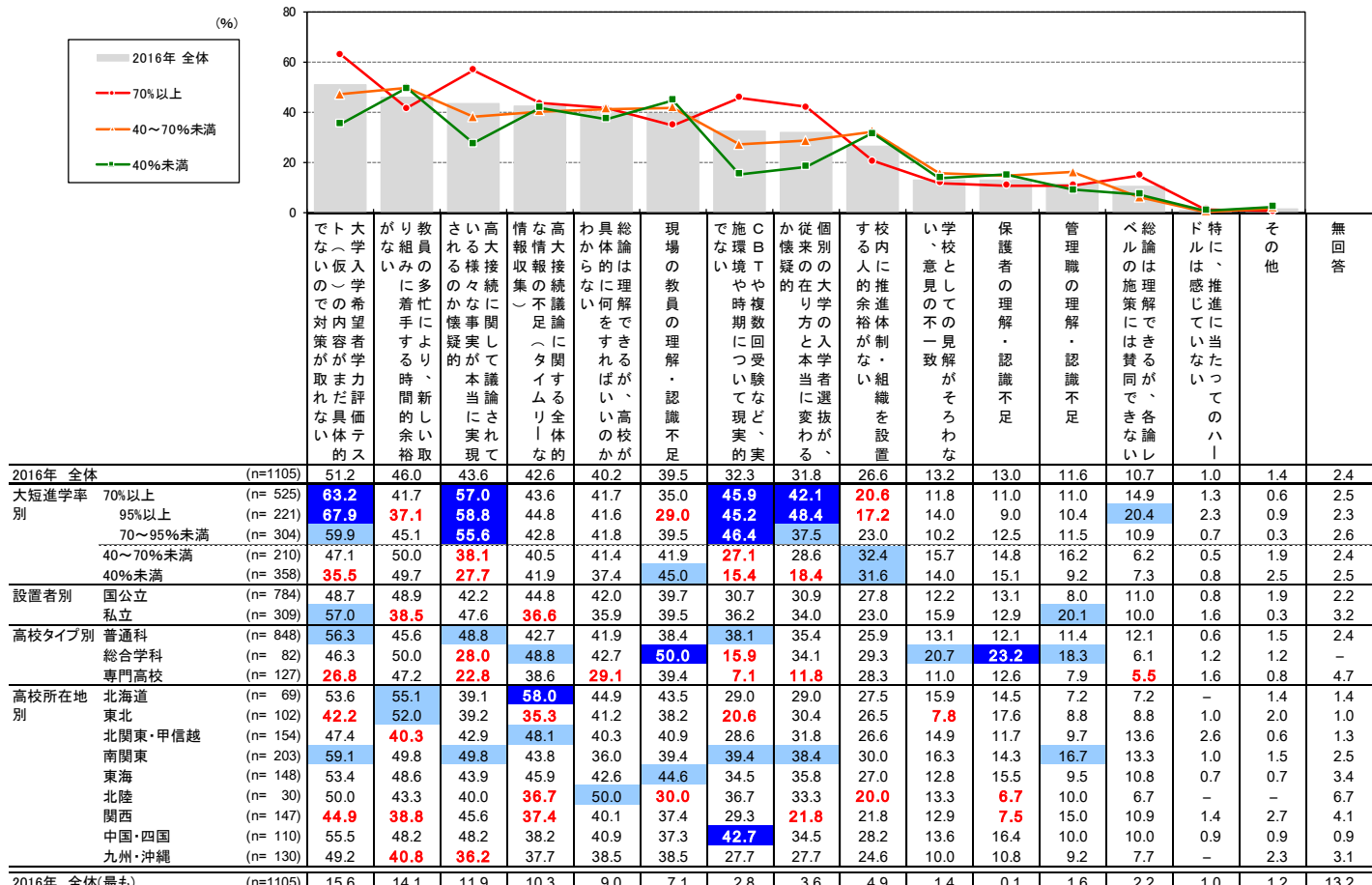
「個別の大学の入学者選抜が、従来の在り方と本当に変わるか懐疑的」

- 設置者別にみると、私立は国公立に比べて「大学入学希望者学力評価テスト（仮）の内容がまだ具体的でないので対策が取れない」「管理職の理解・認識不足」が高く、課題やハードルと感じている。

- 高校タイプ別にみると、普通科は学力評価テストや入学者選抜に関する項目、総合学科は情報不足や現場・保護者管理職の認識不足に関する項目を課題やハードルとしてあげている。

■高大接続議論への対応・教育改革を進めるうえでの課題やハードル（全体／複数回答）

Q27. 高大接続議論に伴い、貴校で対応・教育改革を進めていくうえで、課題やハードルとなっていることはどのようなことだと思いますか。あてはまるものすべてに○をおつけください。
また、そのうち最も大きいハードルだと感じられるものを1つ選び、右下の回答欄に番号を記入してください。



※「2016年 全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

※「2016年全体」降順ソート

Q27.01

【フリーコメント⑯】高大接続議論への対応・教育改革の取り組みについて賛同できない施策とその理由

■高大接続議論を踏まえた取り組みについて、すでに取り組んでいる高校

【大短進学率70%以上】

- 基礎学力テスト(仮称)の有料化 主旨からすると、家庭に負担させるのは解せない。[宮城県/市立/普通科]
- センター試験に論述を入れる必要性が理解できない。実施方法も不透明で、ほんとうに実現できるのか。英語外部検定も経済・地域の格差を産むと思われる上、指導要領との整合性など疑問は多い。[静岡県/県立/普通科]
- 入試改革 とくにセンター入試を大幅改訂して記述式を導入することは必要ない。もともと大学の二次試験で記述力は試されているから。[埼玉県/県立/普通科]
- センター試験に変わるものとしての内容が、現実的でなく、議論だけが先走り、内容が伴っていないように感じられる。[北海道/道立/普通科]
- 学力評価テスト、複数回受験等現実的に難しいと思われることについて、現場が納得できるような案が提示されていないのが残念です。[東京都/私立/普通科]
- 多面的評価の客観性に疑問がある。[愛媛県/県立/普通科]
- 各論での具体的なシミュレーションが明確に提示されていないため、イメージしにくい。[宮崎県/県立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- 施策が多くて現場の教員が対応しきれない。少子化で学校の規模が小さくなり職員が減る中で、現場の声でなく上からの意向だけで進められることはそのうち破綻すると思う。[新潟県/県立/普通科]
- CBT、複数回受験、学力評価テストの記述式など、現場を理解できていない施策が多い。[鹿児島県/私立/普通科]
- 英語の外部試験導入、思考力を測定する作問開発が進められるべき。[長野県/私立/普通科]

【大短進学率40%未満】

- 「複数回受験」「大学教員が採点」など、非現実的な要素が多すぎるから。[岐阜県/県立/総合学科]
- 入試改革はかえって競争を激化させ、格差をうむ。[群馬県/市立/専門学科:商業]

■高大接続議論を踏まえた取り組みについて、今後取り組む予定の高校

【大短進学率70%以上】

- 大学入学希望者学力評価テストでは段階別評価をうたっているが、個別試験で特定の大学に集まったとき、選別できないと思われる。[北海道/私立/普通科]
- 理想、理念ありきの改革は重要なことだが、現場で対応可能なレベルでの議論になっていない 一気に変える“意気込み”のみでなく、本当に個々の学校で具現化できることから始めるのでもよいと考える。[東京都/私立/普通科]
- 1点刻みはよくないから段階別という考え方がまず理解できない。複数回や記述式導入にこだわる理由もわからない。ほとんどの具体案については理解不能である。[兵庫県/私立/普通科]
- 英語4技能をすすめるのであれば、小人数教育ができる環境を小中高と、ととのえてからにすべき。外部検定は日本のカリキュラムと異なるし、お金がすごくかかるので、進めるのはおかしい。[静岡県/県立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- 高校の教育が大学ありき、様々な生徒、海外進学、就職多様な生徒をカバーできない。[東京都/都立/普通科]
- 高校側の改革は、賛同できます。できないのは大学側の改革と入試です。大学は自由な研究の場なので、各大学の自由度が制約を受けることはよくない。社会に役立つかどうかで文系学部が見直しされているが、これも問題。入試については2年生に実施することは高校ではとても難しい。何十万人も受けるテストを実施するなら、単純化しないと必ずミスがおこる。生徒の不利益につながる。[長野県/県立/その他]

【大短進学率40%未満】

- 教員の多忙により、時間的余裕がないから。[香川県/県立/総合学科]
- 具体的なものは無く、ぼけた内容であり、実現性に乏しい。[岡山県/私立/普通科]
- 大学自体、乱立していて、かつ、質が低下しているので。[茨城県/県立/専門学科:工業]
- 例えば英語の外部検定の導入に関して、1回の検定料が高校生にとっては高額で、まず受けられる者と受けられない者の格差が生じる これは教育格差からやがては生活格差へと継承されてゆく負の連鎖になりかねない。[徳島県/県立/普通科]
- ただ定期的に新たな課題として何かを引っ張っているとしか思えない。ラインは難しいが、その学校ごとに求められているスキルは違うはずで、一律行うべき内容との整理がまず必要と考える。[東京都/都立/専門学科:工業]

■高大接続議論を踏まえた取り組みについて、取り組む予定がない高校

【大短進学率70%以上】

- 記述は、一般・2次で各大学にて実施すべき。受験生全体のテストでは負担が多く、信頼性にも欠ける。[山梨県/県立/普通科]
- 現場のことを考えると、評価テストも提案通り難しいのでは、と思います。確かに時代は変化しているし、入試も変わるべきだと思います。[兵庫県/県立/普通科]

【大短進学率40%未満】

- 偏差値による大学のレベル分けがなされている限り、机上の空論に過ぎないと考えている。[鹿児島県/県立/普通科]

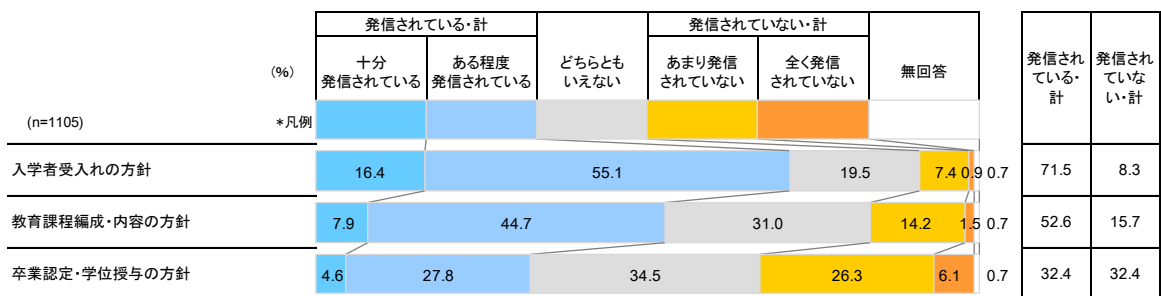
4) 3つのポリシー（方針）の発信と到達の状況

■ 3つのポリシー（方針）のうち“入学者受入れの方針”が最も発信されており、伝わっていると評価されている。次いで“教育課程編成・内容の方針”であり、“卒業認定・学位授与の方針”は最も低い。

- 3つのポリシー（方針）について、各大学からどの程度情報が発信されているかをたずねた。
- 入学者受入れの方針については、「十分発信されている」が16%、「ある程度発信されている」(55%)まで合わせた「発信されている・計」が72%。
- 同様に、教育課程編成・内容の方針は、「十分発信されている」が8%、「発信されている・計」が53%、卒業認定・学位授与の方針は、「十分発信されている」が5%、「発信されている・計」が32%であった。
- 3つのポリシーについて、各大学からどの程度情報が伝わっているかをたずねた。
- 入学者受入れの方針については、「十分伝わっている」が9%、「ある程度伝わっている」(48%)まで合わせた「伝わっている・計」が57%。
- 同様に、教育課程編成・内容の方針は、「十分伝わっている」が5%、「伝わっている・計」が39%、卒業認定・学位授与の方針は、「十分伝わっている」が3%、「伝わっている・計」が24%であった。

■ 3つのポリシー（方針）の発信状況（全体／各単一回答）

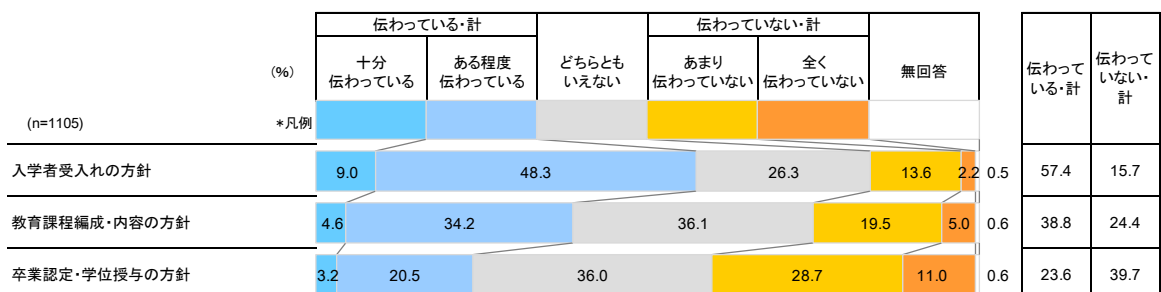
Q28-1. 各大学の3つのポリシー（方針）について、現在、各大学から貴校に向けて、どの程度情報が発信（高校訪問による説明など）されていますか。それぞれあてはまるもの1つに○をおつけください。



Q28-1.01

■ 3つのポリシー（方針）の到達状況（全体／各単一回答）

Q28-2. 各大学の3つのポリシー（方針）の内容は、現在、貴校に伝わっていると思いますか。それぞれあてはまるもの1つに○をおつけください



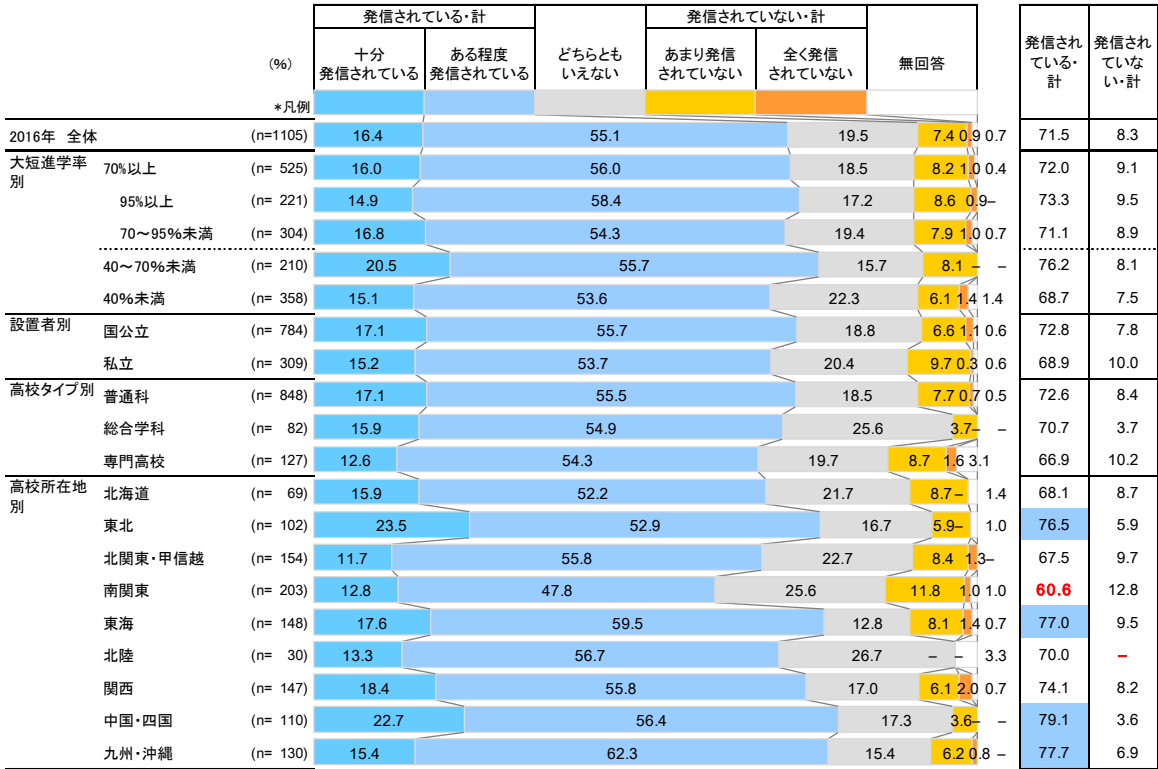
Q28-2.01

3つのポリシー（方針）の発信状況：入学者受入れの方針

- 大短進学率別・設置者別・高校タイプ別には大きな差異はみられない。
- 高校所在地別に「発信されている・計」をみると、東北、東海、中国・四国、九州・沖縄は他地域に比べて相対的に高い。

■3つのポリシー（方針）の発信状況：入学者受入れの方針（全体／単一回答）

Q28-1. 各大学の3つのポリシー（方針）について、現在、各大学から貴校に向けて、どの程度情報が発信（高校訪問による説明など）されていますか。
それぞれあてはまるもの1つに○をおつけください。



Q28-1-1.01

3つのポリシー（方針）の発信状況：教育課程編成・内容の方針方針

- 大短進学率別・設置者別・高校タイプ別には大きな差異はみられない。
- 高校所在地別に「発信されている・計」をみると、東北・中国・四国・九州・沖縄は他地域に比べて相対的に高い。

■3つのポリシー（方針）の発信状況：教育課程編成・内容の方針（全体／単一回答）

Q28-1. 各大学の3つのポリシー（方針）について、現在、各大学から貴校に向けて、どの程度情報が発信（高校訪問による説明など）されていますか。
それぞれあてはまるもの1つに○をおつけください。

		発信されている・計		どちらとも いえない	発信されていない・計		無回答	発信され ている・ 計	発信され ていな い・計
	(%)	十分 発信されている	ある程度 発信されている		あまり発信 されていない	全く発信 されていない			
*凡例									
2016年 全体	(n=1105)	7.9	44.7		31.0	14.2	1.5	52.6	15.7
大短進学率 別									
70%以上	(n= 525)	7.0	46.9		29.5	14.9	1.3	53.9	16.2
95%以上	(n= 221)	8.1	43.4		31.2	15.4	1.8	51.6	17.2
70～95%未満	(n= 304)	6.3	49.3		28.3	14.5	1.0	55.6	15.5
40～70%未満	(n= 210)	11.4	41.9		29.5	16.2	1.0	53.3	17.1
40%未満	(n= 358)	7.3	43.0		34.1	12.0	2.2	50.3	14.2
設置者別									
国公立	(n= 784)	7.7	45.5		30.7	13.3	2.2	53.2	15.4
私立	(n= 309)	8.7	42.4		31.7	16.5	0.6	51.1	16.5
高校タイプ別									
普通科	(n= 848)	8.1	44.9		30.3	14.7	1.4	53.1	16.2
総合学科	(n= 82)	7.3	42.7		35.4	14.6	—	50.0	14.6
専門高校	(n= 127)	7.1	44.1		32.3	11.0	2.4	51.2	13.4
高校所在地 別									
北海道	(n= 69)	8.7	34.8		33.3	20.3	1.4	43.5	21.7
東北	(n= 102)	8.8	50.0		33.3	6.9	1.0	58.8	6.9
北関東・甲信越	(n= 154)	6.5	42.2		36.4	12.3	2.6	48.7	14.9
南関東	(n= 203)	6.4	38.9		34.5	17.7	1.5	45.3	19.2
東海	(n= 148)	6.8	45.9		25.0	18.9	2.7	52.7	21.6
北陸	(n= 30)	10.0	30.0		46.7	10.0	3.3	40.0	10.0
関西	(n= 147)	10.2	42.9		29.9	15.0	1.4	53.1	16.3
中国・四国	(n= 110)	9.1	57.3		25.5	8.2	—	66.4	8.2
九州・沖縄	(n= 130)	8.5	50.8		25.4	13.1	2.3	59.2	15.4

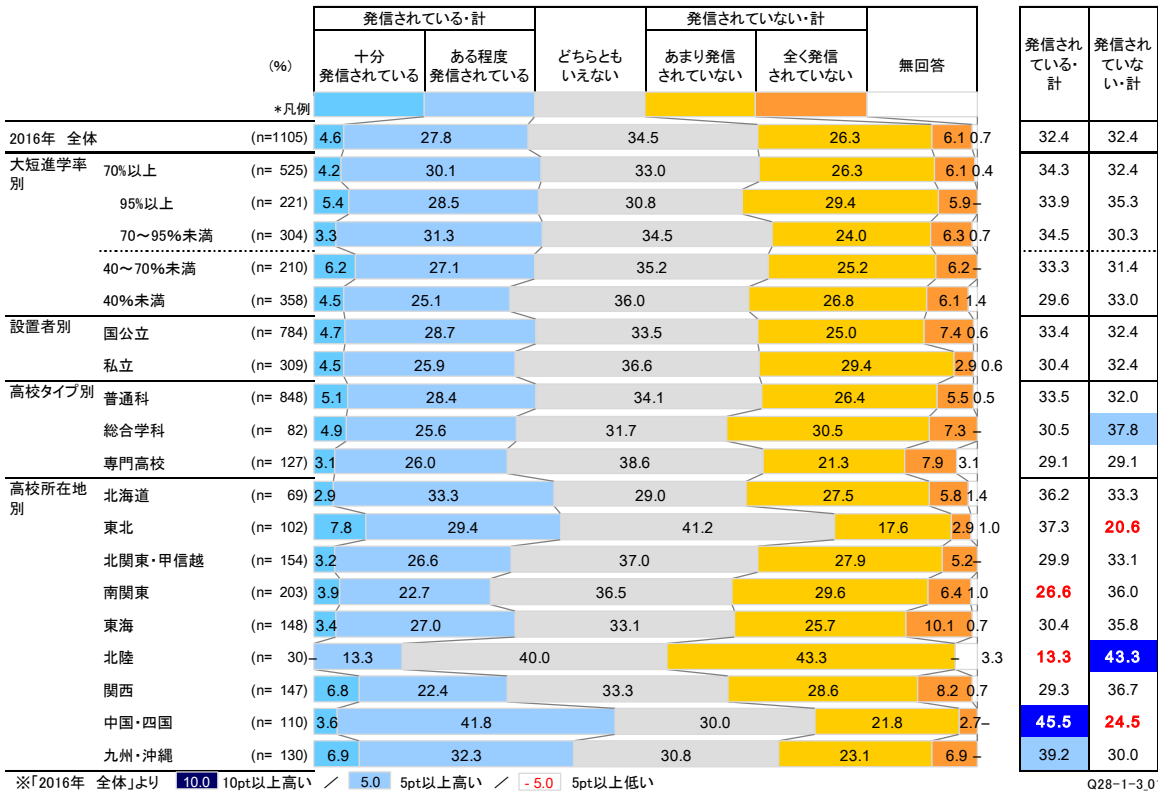
※「2016年 全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

3つのポリシー（方針）の発信状況：卒業認定・学位授与の方針

- 大短進学率別・設置者別・高校タイプ別には大きな差異はみられない。
- 高校所在地別に「発信されている・計」をみると、中国・四国、九州・沖縄は他地域に比べて相対的に高い。

■3つのポリシー（方針）の発信状況：卒業認定・学位授与の方針（全体／単一回答）

Q28-1. 各大学の3つのポリシー（方針）について、現在、各大学から貴校に向けて、どの程度情報が発信（高校訪問による説明など）されていますか。
それぞれあてはまるもの1つに○をおつけください。

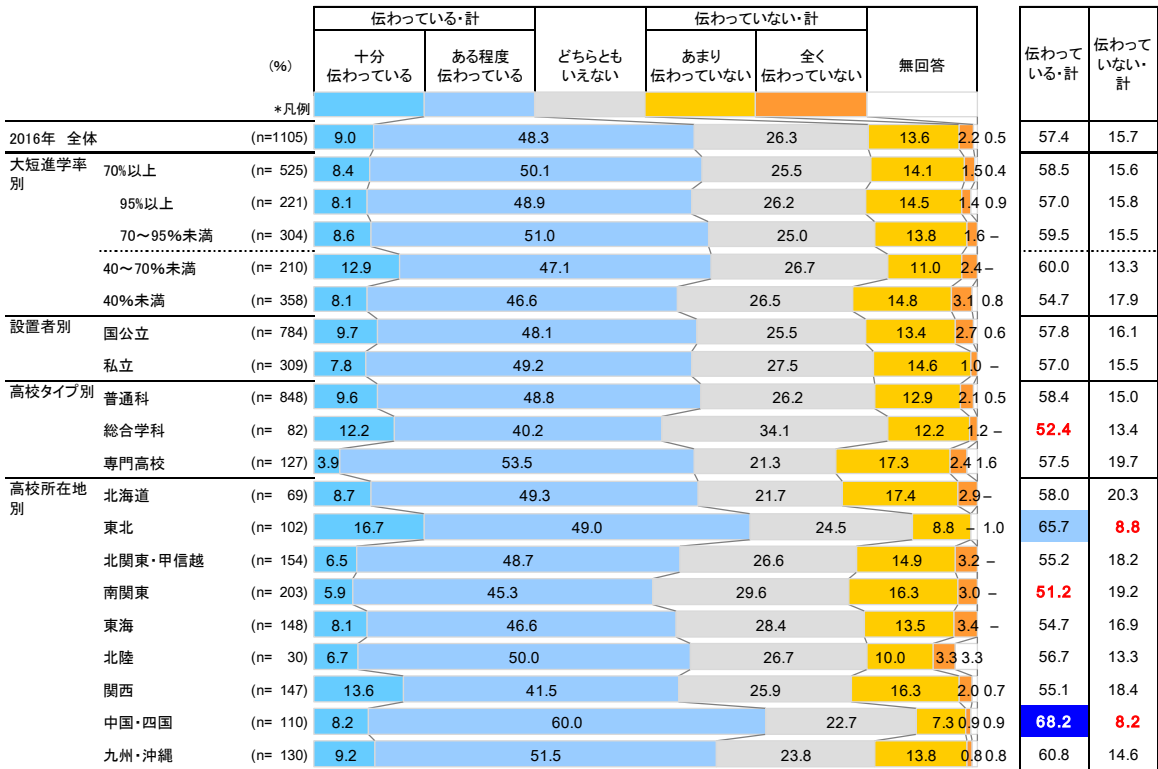


3つのポリシー（方針）の到達状況：入学者受入れの方針

- 大短進学率別・設置者別には大きな差異はみられない。
- 高校タイプ別に「伝わっている・計」をみると、総合学科は他層と比べて相対的に低い。
- 高校所在地別に「伝わっている・計」をみると、東北、中国・四国は他地域に比べて相対的に高い。

■3つのポリシー（方針）の到達状況：入学者受入れの方針（全体／単一回答）

Q28-2. 各大学の3つのポリシー（方針）の内容は、現在、貴校に伝わっていると思いますか。それぞれあてはまるもの1つに○をおつけください

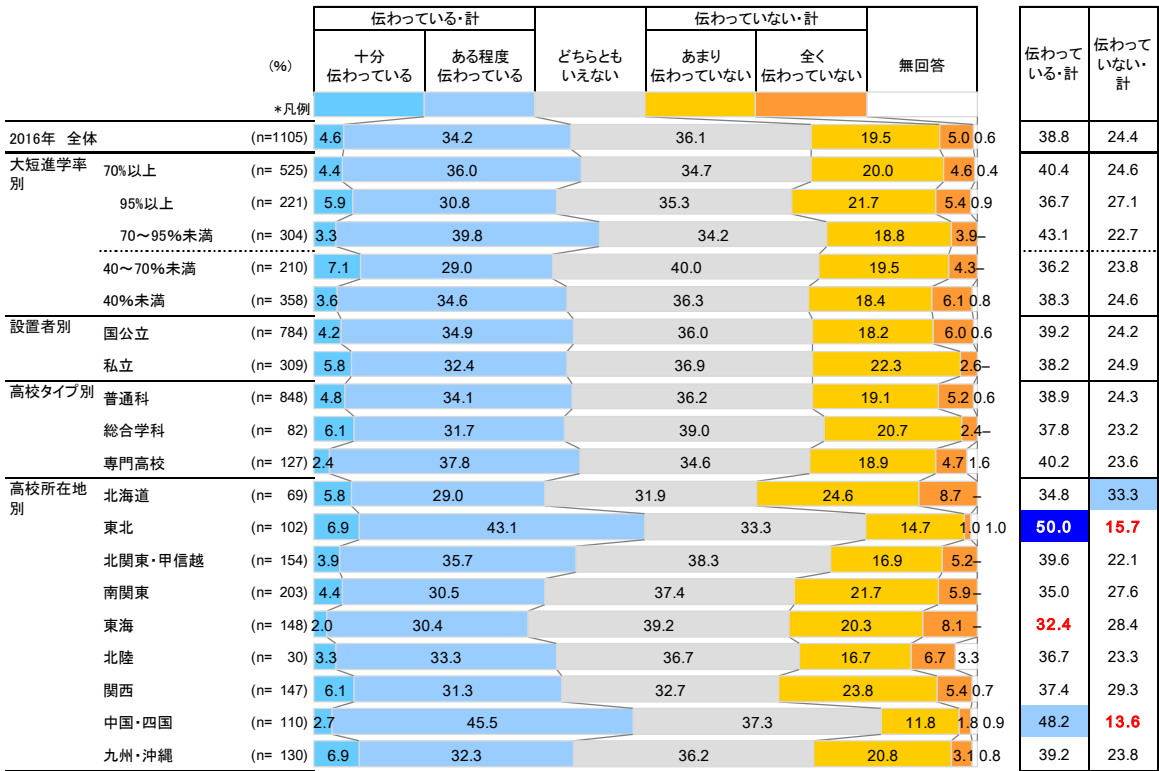


3つのポリシー（方針）の到達状況：教育課程編成・内容の方針

- 大短進学率別・設置者別・高校タイプ別には大きな差異はみられない。
- 高校所在地別に「伝わっている・計」をみると、東北、中国・四国は他地域に比べて相対的に高い。

■3つのポリシー（方針）の到達状況：教育課程編成・内容の方針（全体／単一回答）

Q28-2. 各大学の3つのポリシー（方針）の内容は、現在、貴校に伝わっていると思いますか。それぞれあてはまるもの1つに○をおつけください

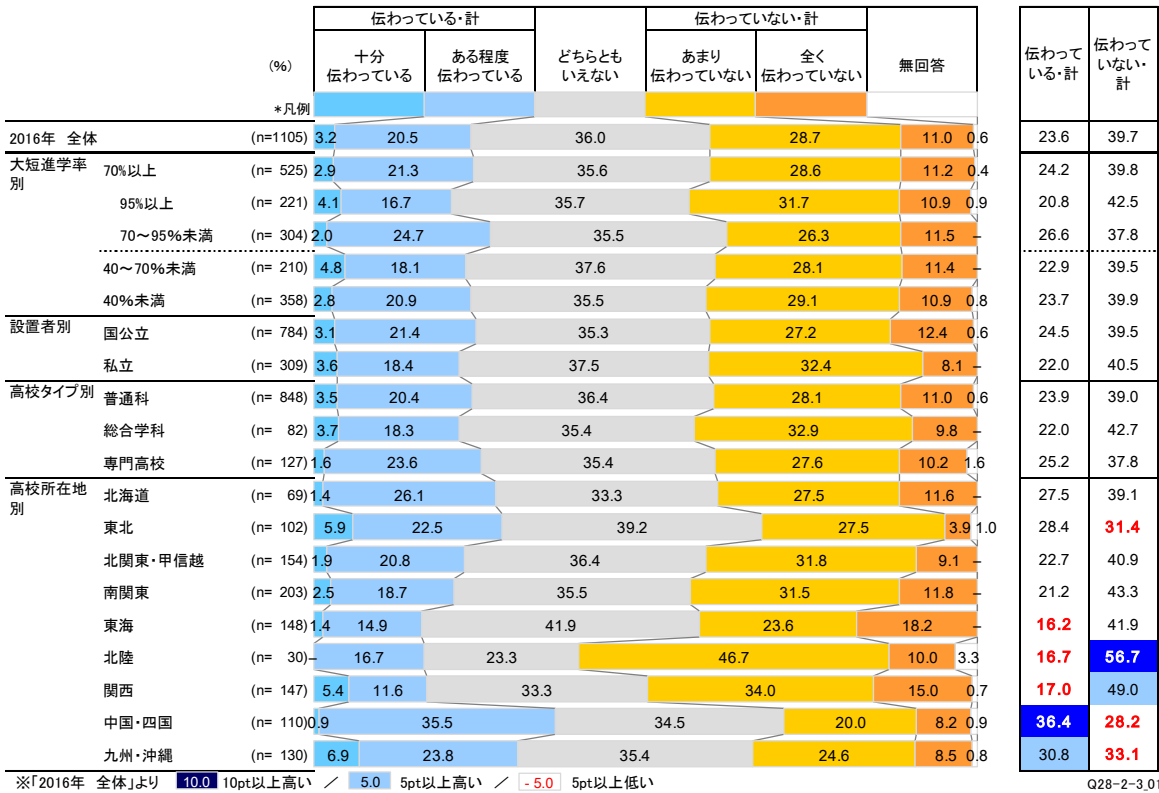


3つのポリシー（方針）の到達状況：卒業認定・学位授与の方針

- 大短進学率別・設置者別・高校タイプ別には大きな差異はみられない。
- 高校所在地別に「伝わっている・計」をみると、中国・四国、九州・沖縄は他地域に比べて相対的に高い。

■3つのポリシー（方針）の到達状況：卒業認定・学位授与の方針（全体／単一回答）

Q28-2. 各大学の3つのポリシー（方針）の内容は、現在、貴校に伝わっていると思いますか。それぞれあてはまるもの1つに○をおつけください



【フリーコメント⑰】3つのポリシー（方針）の策定や実行にあたっての疑問や懸念点

【大短進学率70%以上】

- 3つのポリシーを1つにまとめて閲覧できるサービスがあればありがたい。簡単に見比べることができる。[兵庫県/県立/普通科]
- 3つのポリシーを出さなければならないから出しているような印象があります。各大学が独自の視点で策定や実行できるように自由さあればと思います。[愛媛県/県立/普通科]
- どの大学も同じ学部、同じ学科系統の場合、似たようなアドミッションポリシーとなっており、特徴を見いだしにくい(文章表記に厳しい)。[岡山県/県立/普通科]
- どの大学も似たような理想を語っていて違いがわからない。もっと具体的なポリシーにするべきではないか。[愛知県/県立/普通科]
- 公表された文章を見ると、どの大学も同じような内容。この方針を策定する意味があるのかと思います。[栃木県/県立/普通科]
- 行政的文章で終わり、実際の大学生活とは遊離している懸念が大きい。[群馬県/県立/普通科]
- 日本にあるすべての大学のアドミッションポリシーを十分に吟味するのは、至難の技。「熱心で、関心の高い学生」を受け入れたいのはわかりきったこと。アドミッションポリシーよりも、カリキュラムや研究内容をわかりやすく公表してほしい。[京都府/私立/普通科]
- 入学者受入れ方針は、抽象的な説明が多く、どの大学でも正直に言うと同じことを述べているように見える。ポリシーに具体性を持たせ、なぜ入試において、教科等を設置しているのかがわかるように提示をしてもらいたいと考える。[北海道/道立/普通科]
- ・成長できるが卒業・進級に苦労する文系の学校が海外に比べ少ないように感じてしまう。入学者数の枠と経営を秤にかけることなく入学者一人一人の質の向上が確固とするよう、少人数教育を重視してもらいたい。[東京都/私立/その他]
- 3つのポリシーをいわれても具体的なイメージがわからない、わからない場合が多い。更にこのポリシーからどのように教育していくのかもわからない場合が多く、結局、就職実施に話がいく。[埼玉県/県立/普通科]
- アドミッションポリシーが結局どのように選抜方法(方式や入試問題など)に反映されているのか、見えないものが多く、あまり意味があると思えない。[静岡県/私立/普通科]
- ある程度分かればよいと思う。現在各学校の先生が高校へ来られて説明されているが、大学での講義や研究やゼミ生の指導を考えると、もっと大学の先生に自由に活動出来る時間を増やして上げて欲しい。[香川県/県立/その他]
- ポリシーをつくっても、見ている生徒は少ない。せいぜいアドミッション・ポリシーくらい。[福島県/私立/普通科]
- わかり易い表現で総論ではなく特に強調したいポイントを明確にして欲しい。[東京都/私立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- ディプロマポリシーについては、まず大学への入学(合格)を目標とする高校側にとっては軽視しがちである。高校生にもわかりやすい形で、3つのポリシーを簡潔に明確に提示してほしい。[静岡県/県立/普通科]
- ほとんどの大学、専門学校は、ポリシーを掲げていても実態は、ポリシーとはまったくかけ離れた、入試を行い、そうした生徒を入学させている。まさに、経営最優先の体質で、ポリシーは、建前である。[福島県/県立/普通科]
- 各校のHPなどで一番目につくように配置してもらいたい。各校の広告にあたる部分が多く、この3つのポリシーにあたるページが「3つのポリシー」としてどれが当たるのかはっきりと明記されていない。[福岡県/私立/総合学科]
- 各大学によって、対応の早さに差が見られ、大学案内には一切明記されず、ホームページでのみ公開している例が見られる。周知はなされていない感があることに加え、具体性に乏しい表現が多く、大学ごとに大きな差があるとは感じられない。[北海道/道立/総合学科]
- 各大学の個性が感じられず、従来とあまり変わったように見えない。[神奈川県/県立/総合学科]

【大短進学率40%未満】

- 3つのポリシーに一貫性、整合性を持たせていただきたい。併せて、三者の関係を分かりやすく示していただきたい。また、入学希望者、学生、保護者、高等学校関係者、地域社会、産業界、行政機関等が十分に理解できるような内容、表現としていただき、広く発信していただきたい。[熊本県/県立/専門学科:商業]
- アドミッションポリシーを募集要項の中に明確化してくる大学が少しずつ増えてきた程度だと感じる。教育課程などを記載しているところもあるが、アドミッションポリシーがなく、単独に書かれたりで統一性がまだない。デュプロマポリシーに至っては、大学の中では明確化されるのかも知れないが、高校現場には全くといって入ってこない。[福岡県/市立/その他]
- ポリシー③の学生の学修成果の目標を提示するのは良いことかもしれないが、その目標がゴールになってしまい、学問的な広がりや体系的な知識・アイデア等が生まれにくくなるのではないかという不安。[福島県/県立/普通科]
- 言葉では伝わっているが実際の教育現場で行なわれているかどうか疑問。[茨城県/県立/普通科]
- 進学だけをしているのではないため、いろいろな進路に対応するための余裕がなく、しっかりと取り組むことのできる内容を作り上げてもらわないと、対応できない心配がある。[滋賀県/県立/専門学科:商業]
- 生徒が受験大学を決定する際に各大学のポリシーを精査しているかどうか甚だ疑問である。[京都府/府立/専門学科:工業]
- 卒業認定・学位授与の方針にそって、しっかり指導が行われているかが気になる。卒業後の進路先を含めての情報提供が少ない。[埼玉県/県立/専門学科:商業]

【フリーコメント⑱】『大学入学希望者学力評価テスト（仮）』に対する考え

【大短進学率70%以上】

- 思考力・判断力を共通テストで問うという考え方は理解出来るのですが、現状のセンター試験ではその力を問えないのかという疑問はあります。生徒達に負担を増やすだけの改革だけでなく、学力の現状を正しく把握し、大学入学に必要な学力を正しく測定可能なテストとなることを望みます。とにかく情報を早目に出していただきたいです。[大阪府/私立/普通科]
- 新テストが目指すものは理解ができるし、必要な改革であると考え。だが、現場の立場からは、新学習指導要領が完全実施になってから実施してもらいたい。[岡山県/県立/普通科]
- 可能かどうかは最大の問題だと思います。コンセプトには賛同します。[京都府/府立/普通科]
- 記述力をどこまで見る事ができるのか、掛け声倒れにならないようにしてほしい。中途反端なものでは、すべてに負担がでくと思う。[福岡県/県立/普通科]
- スケジュールありきはどうかと思う。慎重且つ丁寧な動きをして欲しい。[愛媛県/私立/普通科]
- 英語の4技能の試験や記述力の件について公平な評価ができるか懸念を持っている。[愛媛県/県立/普通科]
- 生徒にとって努力の方向性が(どんなトレーニングを何時間すれば良いか)わからないものが評価されると、そもそも能力のある生徒は成績をとるだろうが、そうでない生徒がやる気をなくし、勉強をしなくなるのではないかと懸念している。[福島県/私立/普通科]
- 入学受入れの方針と大学入学希望者学力評価テストを活用した入試がよく一致するように制度設計してほしい。[静岡県/私立/総合学科]
- センター試験は本当によくできている問題。センターの改良で対応できないのか。[北海道/道立/普通科]
- 方向性は賛成だが、全大学がそのような入試を行うか分からない。また二極化が進むのではないかと心配している。[兵庫県/県立/普通科]
- 採点する主体が大学となっても、労力が大きすぎるのと、時間不足となる。入学希望者自身が自己の点数を把握しにくいので、個別試験の出願先を決定しにくくなる。[大阪府/府立/普通科]
- 実際に行う場合のコストパフォーマンスを重視すべき。生徒、高校、大学の負担を少しでも軽くして欲しい。[東京都/都立/普通科]
- 家庭の経済状況によって有利、不利があまり生じないようにしてもらいたい。(例 複数回実施の実施による有利、不利) [愛知県/私立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- 「一部記述式」など本当にできるのか、また公平に採点できるのか、など非常に疑問を感じる。現在のセンター試験の何が悪いのか。[新潟県/私立/普通科]
- その主旨は全くすばらしいと思うが、実施するにはあまりに多岐にわたる問題が山積しているように思われる。大学入試にかかる統一のテストとして実施するにはあまりに困難を伴う。評価も難しい。問題解決能力は点数化できるのだろうか。[福島県/私立/普通科]
- まだ十分な情報を把握しているわけではないが、やはり気になるのは記述式の導入とテスト結果をどう合否判定に反映されるか(点数ではないのか)である。マンモス私大では記述式の入試に多くの受験生が臨んでいても対応ができていいるのだから、記述式を導入する以上、必要以上の字数制限をするのでは意味がなくなってしまう。高校教員も動員して記述式問題に特化した採点体制(人員)を構築すべきなのは。[静岡県/県立/普通科]
- 思考や判断や、表現力の測定に使われるとあるが、その実施時期であったり、実施回数であったり、内容であったりが、あまりに不明確で、今後、現在の中2生が入学するまでに本校で準備ができるのかが不安。新テストにむけての可否が、その後の生徒募集にも影響すると考えると緊近の課題であることに間違いがないのだけれど、依然として動き出せていない。[群馬県/私立/普通科]
- 筆記試験を導入するという話だが、それは各大学が二次試験でできることではないのか。そもそもセンター試験の目的は高校生の基礎学力を測ることであり、さらに深い知識や思考力を問うのであれば、それは各大学が個別に行うべきである。それに加えて、筆記試験の実施には莫大な費用と労力がかかる。新テストの導入そのものを見直すべきである。[兵庫県/県立/普通科]

【大短進学率40%未満】

- CTBや複数回実施など、現実的にどのように運営でき、公平感が保たれるのか疑問。[富山県/私立/普通科]
- TOEIC等の様に、年に数回チャレンジできるものであれば、生徒の学習意欲向上、主体的学習にもつながると思う。[福島県/県立/普通科]
- あれこれ外国の制度に合わせるのではなく、今日本人が日本人であるために何が一番必要なのかをよく考えた上で行ってほしい。あまりにも大学のレベルが低過ぎて、テストの内容を変えたり名称だけ変えても全く意味がない。「大学とは何ぞや」と聞きたい！[茨城県/県立/専門学科:工業]
- 公平性や妥当性について不安に感じる点が多い。[長野県/県立/総合学科]
- 趣旨は理解できるが、各大学での採点等、疑問点が多い。また各教科横断型の問題等、考え方はすばらしいが、実際にできるか不明。また、どのような基準で採点されるか不明。[岡山県/私立/普通科]
- 知識の偏重から知識の活用を評価する理念は理解できる。しかし、試験内容と評価方法についての具体策が明示されていないので不安である。また、様々な物差しで丁寧に、多角的に評価するとされているが、全大学等側でその体制づくりができるのかという思いもある。[熊本県/県立/専門学科:商業]
- 高校の違いがあり過ぎて、一部の進学校の為のテストではないか？ 工業高校では無理があるのでは？[茨城県/県立/専門学科:工業]

2. 専門職業大学・専門職大学（いずれも仮称）の評価

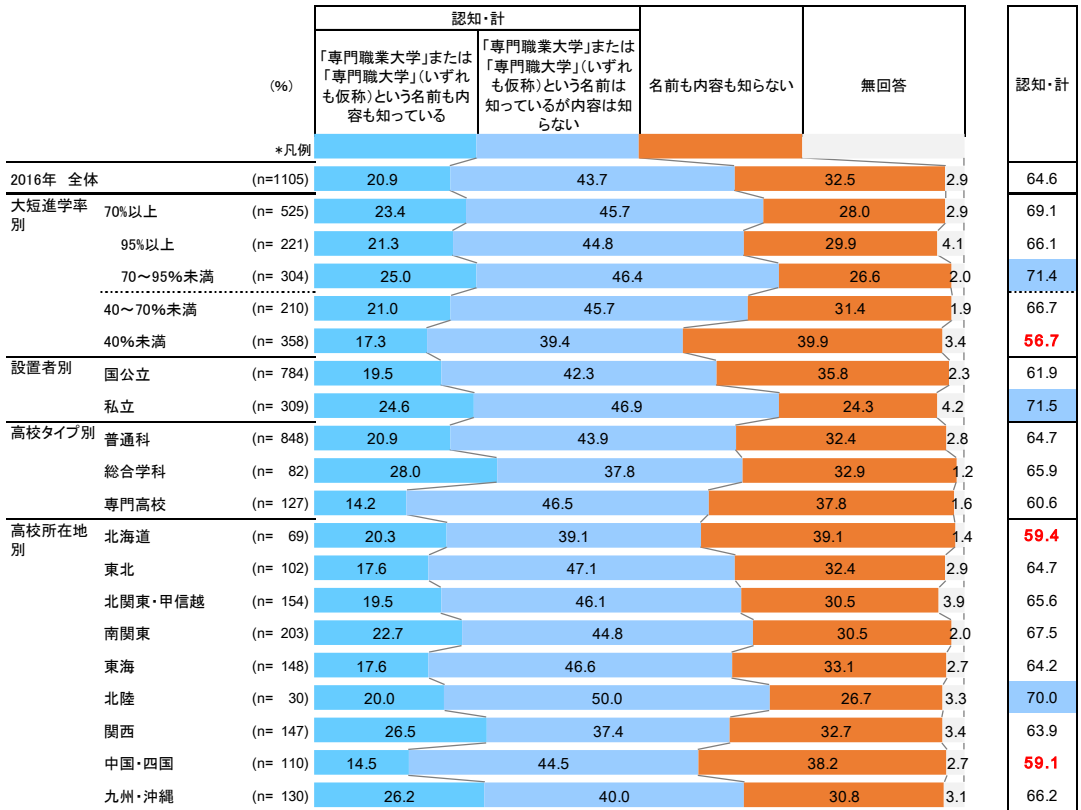
1) 専門職業大学・専門職大学（いずれも仮称）の認知度

■名前と内容を知っているのは21%、名前のみ知っている回答者を合わせると65%が認知。

- 専門職業大学・専門職大学（いずれも仮称）の認知度をたずねた。『「専門職業大学」または「専門職大学」（いずれも仮称）という名前も内容も知っている』が21%、『「専門職業大学」または「専門職大学」（いずれも仮称）という名前は知っているが内容は知らない』(44%)まで合わせた「認知・計」は65%であった。
- 大短進学率別にみると、「認知・計」は、70%以上校が他層に比べて相対的に高い。
- 設置者別にみると、私立は「認知・計」が国公立に比べて相対的に高い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科は『「専門職業大学」または「専門職大学」（いずれも仮称）という名前も内容も知っている』が他層に比べて相対的に高い。

■専門職業大学・専門職大学（いずれも仮称）の認知度（全体／単一回答）

Q31. 上記の情報についてどのくらいご存知ですか。あてはまるもの1つに○をおつけください。



※「2016年 全体」より 10.0 5pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

Q31_01

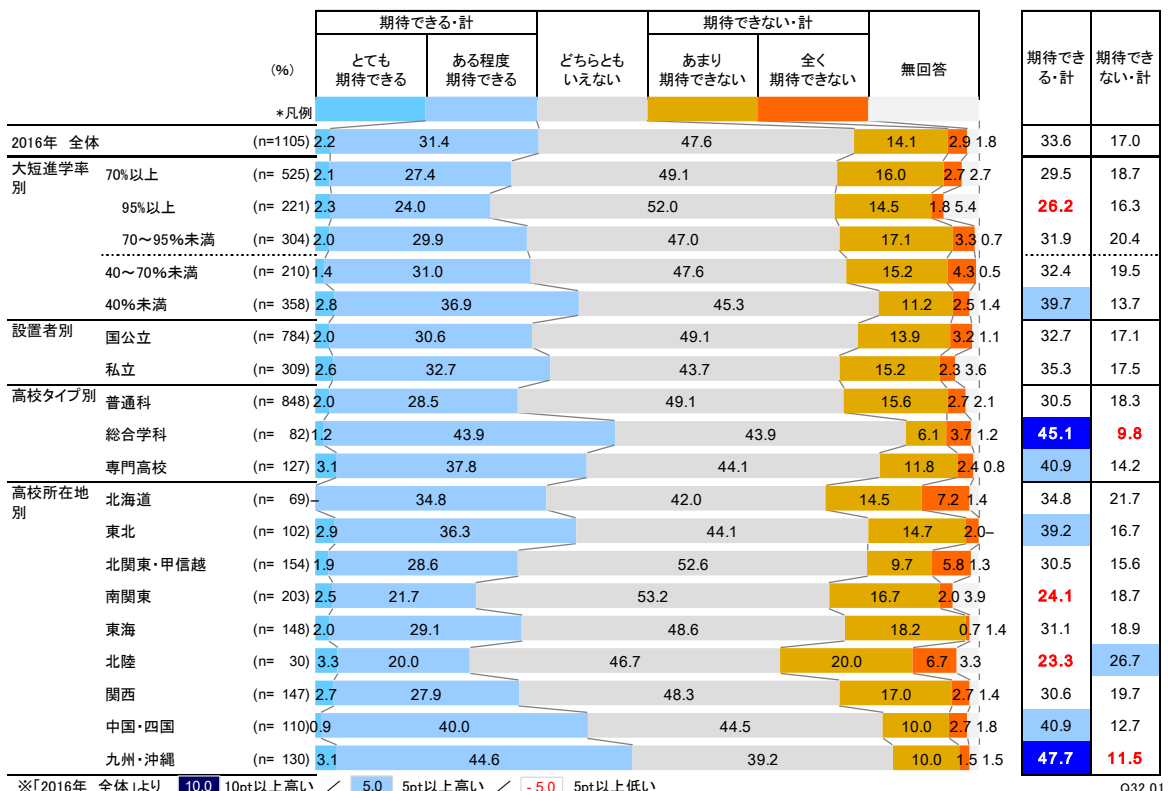
2) 専門職業大学・専門職大学（いずれも仮称）創設による成果への期待度

■期待できると評価したのは34%。「どちらともいえない」は48%。

- 専門職業大学・専門職大学（いずれも仮称）創設による成果への期待度を5段階でたずねた。「とても期待できる」が2%、「ある程度期待できる」(31%)まで合わせた「期待できる・計」は34%。「どちらともいえない」は48%と半数を占める。
- 大短進学率別にみると、「期待できる・計」は、進学率が低いほど高い。
- 設置者別には大きな差異はみられない。
- 高校タイプ別にみると、「期待できる・計」は総合学科が45%と最も高く、専門高校は41%、普通科は31%。

■専門職業大学・専門職大学（いずれも仮称）創設による成果への期待度（全体／単一回答）

Q32. 左頁下に記載の学校が創設されることで、成果（企業で即戦力となる人材の養成）が期待できそうだと思いますか。
 お考えに近いもの1つに○をおつけください。また、そのようにお考えの理由をご自由にお書きください。



Q32.01

【フリーコメント⑨】専門職業大学・専門職大学（いずれも仮称）創設による成果への期待度の理由

■期待できる層（専門職業大学・専門職大学創設による成果に「とても期待できる」「ある程度期待できる」回答者）

【大短進学率70%以上】

- 大学教育には限界があり、企業が人材を教育している現状を変えたが良いのではないかなと思う。[群馬県/県立/普通科]
- 研究者も大切だが教育者ではなく、それなら実務家の方がよいから。[茨城県/私立/普通科]
- 企業との連携がより明確化される。[宮崎県/県立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- 実践的な教育だから、目的が狭く明確なため、生徒の意識が高いと思われるから。[東京都/都立/普通科]
- 教員だけでは対応できないほどに生徒の進路先・希望する就職先は多様化しているため、実務家教員の存在は、とても頼もしい。ただ、企業で即戦力となるように生徒を教育することは難しいのではないかと考えます。[北海道/私立/普通科]
- 千差万別のイメージがある専門学校が、全体的に質の向上につながる可能性がある。[大阪府/私立/普通科]

【大短進学率40%未満】

- 社会との接続で実務を重視している面で特に期待出来ると思っております。[宮城県/県立/専門学科:商業]
- 産学連携が強固なものになり、充実した研究を学生が行えるのではないかと期待しているから。[福岡県/私立/普通科]
- 仕事は社会に出てから覚えるものであるが、スタート時にある程度の知識技能のある者を企業側が求めるケースも多い。[島根県/県立/その他]

■態度保留層（専門職業大学・専門職大学創設による成果に「どちらともいえない」回答者）

【大短進学率70%以上】

- 21世紀の人材は、非定型の仕事が増加すると考えられる。実習で得られる経験は、新奇場面に直面した際に有効かどうか、判断しにくい。[静岡県/私立/総合学科]
- そもそも専門職大学の担うべき内容は専門学校が負っているものだと思う。大学は、就職のためだけにあるのではない。[静岡県/県立/普通科]
- 学術研究に興味がなく大学を就職予備校的に捉えている生徒も多くニーズは高いと思われるが、大学の学歴との差がなくならなくては進学実績が上がらないのではないかな。[三重県/私立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- 大学においても社会で戦力となる主体的な人材を育成することが目標となる中で、専門職業大学をどのように位置づけていくか、ということは難しいように思われる。それらを生徒がどのように選択するのか、最良の選択ができるのか疑問である。[福島県/私立/普通科]
- 本当の意味で企業の即戦力となる人材は主体的に行動し、実行できる人材であり、誰に指導されるかでなく、どう指導されるかにかかっているから。[栃木県/県立/普通科]

【大短進学率40%未満】

- 現在、専門高校等で行ってきた教育目標をさらに発展（応用）させた形で企業への即戦力となる人材育成を目指していると思われるが、その内容は、企業の研修制度で対応できているのではないのでしょうか。[埼玉県/県立/専門学科:商業]
- 企業における安定した労働環境が確立されなければ、実質的な効果は薄いと思われる。[京都府/府立/専門学科:農業]

■期待できない層（専門職業大学・専門職大学創設による成果に「あまり期待できない」「全く期待できない」回答者）

【大短進学率70%以上】

- “特化”する前に人間として身につけるべきことや、総合的な学習能力など、将来もっと大切にしなければならないものがあり、その扱いを“軽くする”ことで、そういう人材は伸びるだろうか？[富山県/県立/普通科]
- 企業によって、必要とされる能力は全く異なるから、大学での学びが即戦力的な意味で役に立つとは思えない。[愛知県/私立/普通科]
- 即戦力が明確であれば苦労はしていない。何が力になるのか不明確な時代。[茨城県/私立/普通科]

【大短進学率40～70%未満】

- 企業等の即戦力を育てるというが、人間性等全人的な成長をまず目指すべきではないか。高等教育機関は専門的な知識技術を育てるだけではなく、人間的成長をさせることも重要なので実学ばかりにウエイトをかけることはあまり賛同できない。[福島県/県立/その他]
- 多様性に逆行するように思う。[兵庫県/私立/専門学科:商業]
- 大学は、即戦力ではなく、しっかり学問に取り組むべきである。[山梨県/県立/普通科]

【大短進学率40%未満】

- 即戦力は時間を置かず戦力でなくなる可能性の方が高いと思うから。リベラルアーツを中心とした幅広い知識・教養を身につけさせた方が、結局は長く戦力になると思っている。[秋田県/県立/普通科]
- 教育内容の多様化や、学生に対する評価の多様化と企業で即戦力となる、いわゆる労働力の育成は矛盾している。一般的な常識と価値観を持った「社会人としての資質」を持った学生を企業が責任を持って育てるべき。[滋賀県/県立/専門学科:農業]
- 何をもって「即戦力」と捉えるか、企業の下請けという位置付けになってしまうだけ、と考える。[鹿児島県/県立/普通科]

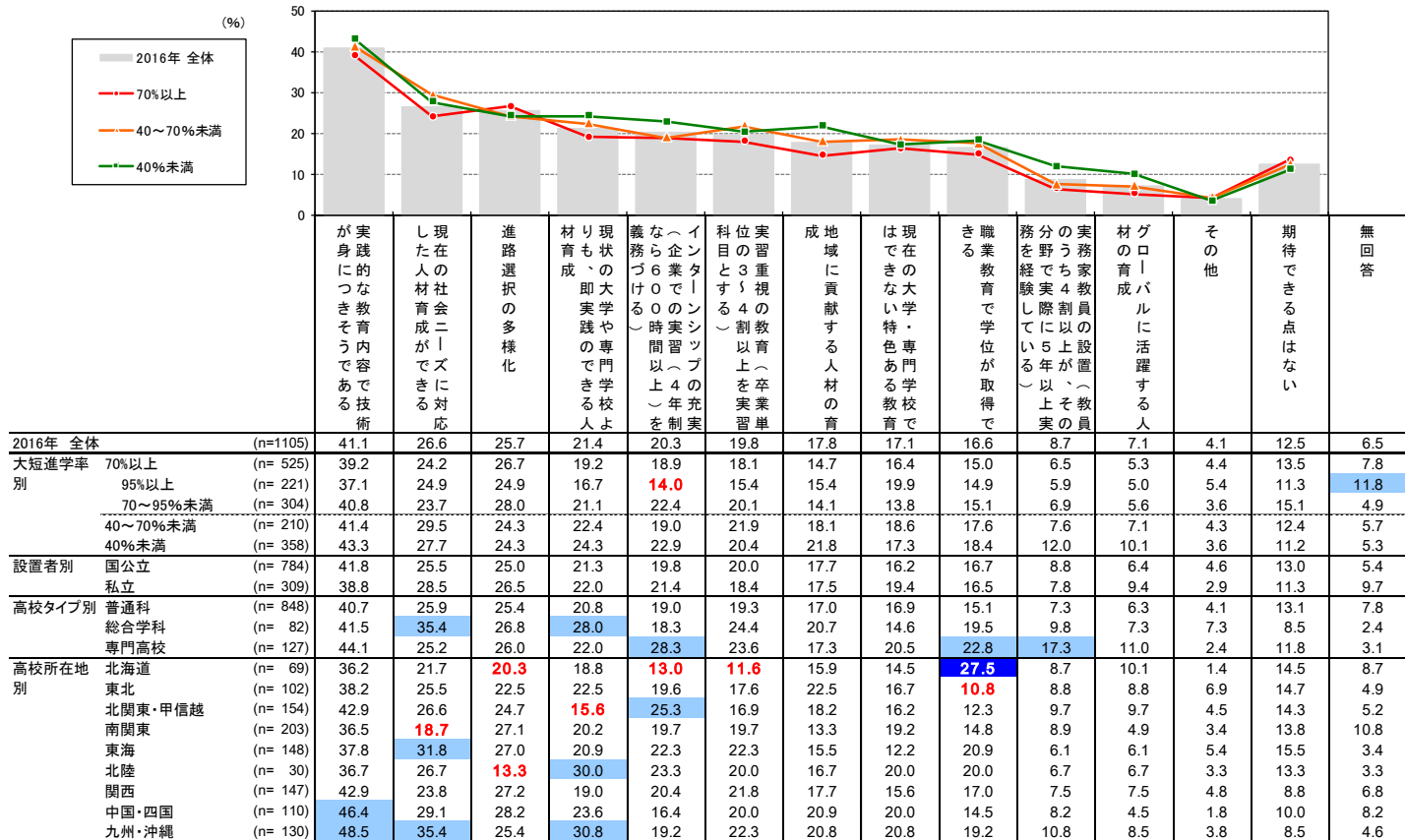
3) 専門職業大学・専門職大学（いずれも仮称）の創設内容の中で期待できる点

■実践的な教育内容で技術が身につくことへの期待が最も大きい。

- 専門職業大学・専門職大学（いずれも仮称）の創設内容のなかで期待できる点をたずねた。トップは「実践的な教育内容で技術が身につくことである」(41%)が突出。2位「現在の社会ニーズに対応した人材育成ができる」(27%)、3位「進路選択の多様化」(26%)、4位「現状の大学や専門学校よりも、即実践のできる人材育成」(21%)、5位「インターンシップの充実（企業での実習（4年制なら600時間以上）を義務づける）」(20%)と2位以下は20%台で並ぶ。
- 大短進学率別にみると、いずれもトップは「実践的な教育内容で技術が身につくことである」。70%以上校は2位が「進路選択の多様化」。
- 設置者別には大きな差異はみられない。
- 高校タイプ別にみると、いずれもトップは全体と同様。総合学科は「現在の社会ニーズに対応した人材育成ができる」「現状の大学や専門学校よりも、即実践のできる人材育成」が高く、社会ニーズや実践的な人材育成への期待度が高い。

■専門職業大学・専門職大学（いずれも仮称）の創設内容の中で期待できる点（全体／複数回答）

Q33. 左頁下に記載の学校の創設内容の中で、期待できる点がありますか。あてはまるものすべてに○をおつけください。



※「2016年 全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

※「2016年全体」降順ソート

4) 専門職業大学・専門職大学（いずれも仮称）が設立されることへの懸念点

■懸念点は、既存の専門学校との違いがわからず、従来の大学と同等に受け入れられるかどうか。

- 専門職業大学・専門職大学（いずれも仮称）が設立されることへの懸念点をたずねた。トップは「現状の専門学校との違いがわからない」の52%、2位は「社会的に、専門職業大学または専門職大学（いずれも仮称）で取得される学位が従来の大学と同等に受け入れられるのかわからない」(39%)と既存の専門学校との違いがわからず、従来の大学と同等に受け入れられるかどうかへの懸念であった。以下「企業のニーズが不明である」(30%)、「一般教養や研究のない教育で想定している人材を育てられるのかわからない」(28%)、「現状の大学や短期大学との違いがわからない」(27%)と続く。

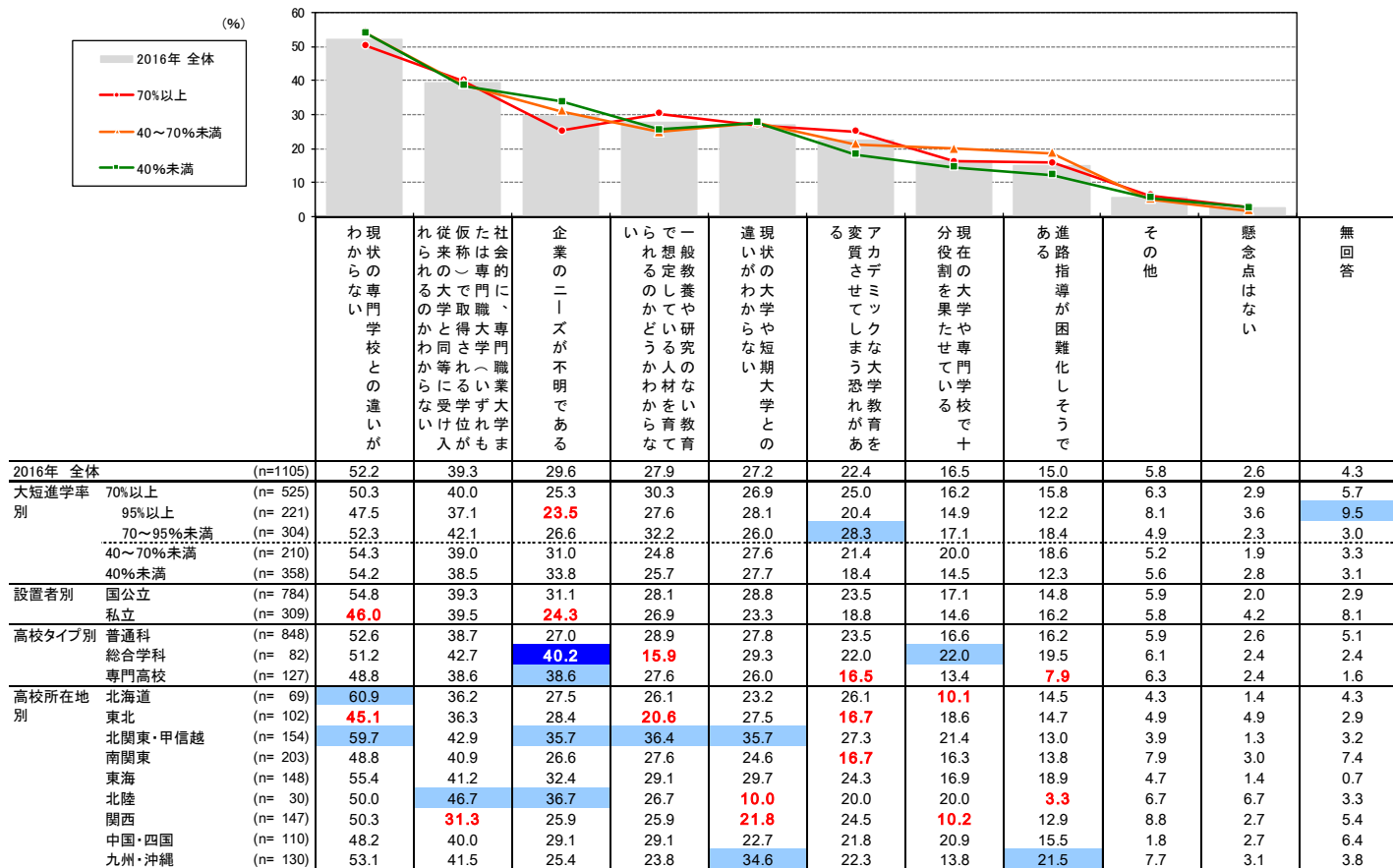
- 大短進学率別にみると、いずれも1～2位は全体と同様。

- 設置者別にみると、いずれも1～2位は同様。国公立は「現状の専門学校との違いがわからない」「企業のニーズが不明である」に対する懸念は私立と比較して相対的に高い。

- 高校タイプ別にみると、いずれも1～2位は同様。総合学科と専門学科は「企業のニーズが不明である」が普通科に比べて相対的に高く、就職に関して懸念していると考えられる。

■専門職業大学・専門職大学（いずれも仮称）が創設されることへの懸念点（全体／複数回答）

Q34. 左頁下に記載の学校が創設することで、想定される懸念点がありますか。あてはまるものすべてに○をおつけください。



※「2016年 全体」より 10.0 10pt以上高い / 5.0 5pt以上高い / -5.0 5pt以上低い

※「2016年全体」降順ソート

▼本調査に関するお問い合わせは、下記までお願いします▼

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ リクルート進学総研
<http://souken.shingakunet.com/>

- ※ 出版・印刷物等へデータ記載する際には、“リクルート進学総研調べ”と明記していただきますようお願い申し上げます。
- ※ この調査結果については、キャリア教育専門誌『キャリアガイダンスVol.416』(リクルート)にも掲載しています。